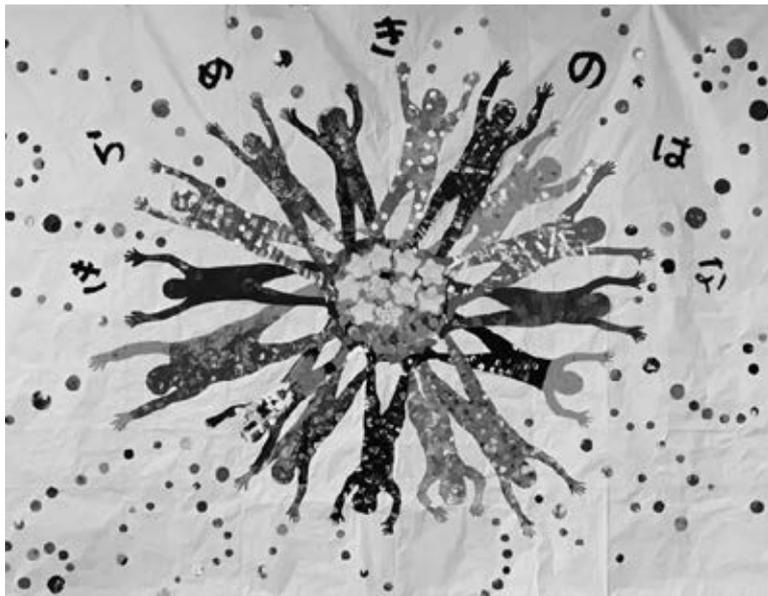


令和4年度・令和5年度

精神疾患等のこころの病気のある
児童生徒の指導と支援の事例集Ⅶ

—「Co-MaMe」を活用した教育支援—



全国病弱虚弱教育研究連盟
心身症等教育研究委員会

目次

はじめに

自立活動の指導における「根拠」と「実践・教材」—Co-MaMe を活用して—

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 病弱班長 土屋忠之

番号	学部・ 学年	教育課程	障害名(病名)による分類	ページ		
				アセス メント	整理 変容	自立活 動事例
1	小2	準ずる教育課程	先天性心疾患	1	2	3
2	小3	知的障害の教育 課程	水頭症、症候性てんかん、知的障がい	4	5	6
3	小3	準ずる教育課程	広汎性発達障害、反抗挑戦性障害	7	8	9
4	小4	知的障害の教育 課程	知的障害、自閉症	10	11	12
5	小5	準ずる教育課程	心身症	13	14	15
6	小6	準ずる教育課程	複雑性心理外傷後ストレス障害、情緒障害、自閉スペ クトラム障害、学習障害	16	17	18
7	中2	準ずる教育課程	適応障害、自閉スペクトラム、ADHD	19	20	21
8	中2	準ずる教育課程	適応障害、不安障害、自閉症、情緒障害	22	23	24
9	中3	準ずる教育課程	適応障害	25	26	27
10	中3	準ずる教育課程	身体表現性障害	28	29	30
11	中3	準ずる教育課程	起立性調節障害	31	32	33
12	中3	準ずる教育課程	全般性不安障害、ADHD、AND	34	35	36
13	中3	準ずる教育内容 (下学年適用)	自閉スペクトラム症、被害妄想	37	38	39
14	中3	自立活動を主と する教育課程	自閉症スペクトラム、選択性かん黙、社交不安障害	40	41	42
15	高1	準ずる教育内容 (下学年適用)	軽度知的発達症、言語発達遅延、社会コミュニケーション症、睡眠リズム障害	43	44	45
16	高1	準ずる教育課程	適応障害、自閉スペクトラム障害、注意欠陥多動障害	46	47	48
17	高1	準ずる教育課程	起立性調節障害、身体表現性障害、自閉症スペクトラム	49	50	51
18	高1	知的障害の教育 課程(知的代替)	自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害	52	53	54
19	高2	準ずる教育課程	統合失調症	55	56	57
20	高2	知的障害の教育 課程(知的代替)	選択性緘黙、分離不安、精神遅滞	58	59	60
21	高2	準ずる教育課程	心身症、自閉スペクトラム症	61	62	63
22	高3	準ずる教育課程	広汎性発達障害、適応障害	64	65	66
23	高3	知的障害の教育 課程(知的代替)	二分脊椎、水頭症、知的障害	67	68	69
24	高3	準ずる教育課程	ADHD、アスペルガー症候群	70	71	72
25	高3	準ずる教育課程	行為および情緒の混合性障害、自閉症スペクトラム	73	74	75

はじめに

心身症等教育研究委員会は、各地区から選出された 29 校で構成され、令和 4 年度・令和 5 年度は静岡県立天竜特別支援学校が会長校・事務局を務めてきました。令和 5 年度には、新型コロナウイルス感染症が感染症法上 5 類に移行され、コロナ禍で失われた、日常が少しずつ戻ってきていますが、コロナ禍で子どもたちの「こころ」にもたらした影響は小さくはなかったと思われます。令和 4 年度の文部科学省の調べでは、病気や障害で長期間学校を休んだ「病気療養児」は、小中高で 6544 人いたことが分かっています。新型コロナウイルスの流行前の調査より 1544 人増え、中高生では、うつや摂食障害といった「こころの病気」が理由の半数をしめました。「こころの病気」への支援は、特別支援学校のみならず、小・中・高等学校にも求められています。現在、病弱虚弱特別支援教育においては、精神疾患及び心身症が最も多い病類となっています。こうした「こころの病気」に関しては、その症状も多様化の傾向にあり、各特別支援学校においては、一人ひとりの教育的ニーズの把握に努め、きめ細かな支援を行っているところで

す。

本研究委員会では、こうした状況のもと、これまでの研究を引継ぎ、国立特別支援教育研究所の「Co-MaMe（連続性のある多層的多階層的支援）」を活用して児童生徒の教育的ニーズを把握し、「アセスメントシート」「整理・変容シート」「自立活動事例シート」にまとめました。今回の研究では、令和 2 年度、3 年度の研究で加えられた「自立活動事例シート」の書式を変更しています。国立特別支援教育総合研究所の土屋忠之先生のもと、「自立活動事例シート」が自立活動との繋がりが明確なり、具体的な指導内容が分かるようなものになっています。これにより、日々の支援や授業づくりの様子がより分かりやすくなりました。

今回の「Co-MaMe」の利用に当たっては、国立特別支援教育総合研究所の土屋忠之先生にひとかたならぬ御指導・御助言を賜りましたことを、改めて厚く御礼申し上げます。また、御多忙の中、事例提供に御協力いただきました研究推進委員の先生方に厚く御礼申し上げます。この「事例集Ⅶ」が、子どもたちへの支援や先生方の情報共有化促進の一助となることを祈念いたしまして、巻頭の言葉とさせていただきます。

全国病弱虚弱教育連盟 心身症等教育研究委員会
会長 湯本 健治(静岡県立天竜特別支援学校校長)

自立活動の指導における「根拠」と「実践・教材」

—Co-MaMe を活用して—

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
病弱班長 土屋 忠之

現在、病弱・身体虚弱教育を担っている特別支援学校及び特別支援学級の児童生徒の病類では、精神疾患及び心身症が最も多くなっています。そのような中、「精神疾患等のこころの病気のある児童生徒の指導と支援の事例集」（以下、事例集）は2年ごとに発行され、今号も本研究所病弱班の研究成果である Co-MaMe も活用いただくことができました。この様に定期的に発行できているのも会長の湯本健治先生（静岡県立天竜特別支援学校校長）、前会長の高橋定裕先生（元静岡県立天竜特別支援学校校長）、事務局の山本有美先生（静岡県立天竜特別支援学校教諭）をはじめとする全国病弱虚弱教育研究連盟心身症等教育研究委員会の先生方の力によるものだと感じ、大変感謝しております。

ところで今回の事例集を作成するにあたって、昨年度末に会員の先生方へ事務局からアンケート調査を行われ、20校の先生方から回答をいただきました。そのアンケートの集計も協力させていただいたこともあり、結果を拝見したところ、「さらに活用するための方向性」という質問への回答が印象的に残りました。その質問への回答の中で最も多かったのが「ア）Co-MaMe と自立活動の関係が分かりやすいもの」が17名、次に多かったのが「イ）自立活動の指導に生かしやすいもの」と「ウ）指導する上での根拠を明確にするためのもの」が12名でした。その結果につきましては、ウ）が選ばれたことが特に印象的で、委員の先生方の「根拠をもって自立活動を実践したい」という思いを感じる同時に、「この事例集を活用することから自立活動の指導の根拠を明確にしたい」という期待も感じることができました。このような大切な考えのある素晴らしい先生方に協力いただきとても感謝しております。

ところで、この質問に対してウ）の次に多かったのが「エ）具体的な実践や方法、教材が充実したもの」の11名でした。これまで、この事例集は「Co-MaMe を活用して自立活動の指導の根拠を明確にする」ことを重視して取り組んできたと感じておりましたが、委員の先生方の中には日々の指導にすぐにかせるものも希望している方が多くいらっしゃると感じました。そのことを事務局へお伝えし、今回の事例集の書式の変更についても相談させていただきました。その後、書式の変更が行われましたが、新しい書式を見ると「自立活動事例シート」の「4）具体的な指導内容の選定」の部分に変更され、自立活動の項目を線で結びつけた後に「具体的な指導内容」を記載するようになっております。また記入する際の説明には「具体的な教材教具の名称、写真、イラスト等を用いて、できるだけ具体的な指導内容や流れがイメージできるように記入」と明記されておりました。このように今回の事例集は、指導の根拠を明確にするだけにとどまらず、日々の実践にかせるような工夫がされており、さらに多く学校にて活用しやすく、参考にしやすくなったと感じております。ぜひこの事例集を学校での自立活動の指導に役立てていただければと思っております。

ところで Co-MaMe は、以下からダウンロードできますのでぜひご活用ください。

- アセスメントシート・整理用シート

<https://www.nise.go.jp/nc/wysiwyg/file/download/1/11455?category=study>

- 支援のイメージ図

<https://www.nise.go.jp/nc/wysiwyg/file/download/1/11456?category=study>

また Co-MaMe についてさらに知りたくなった方はこちらの文献をご覧ください。

- ・研究成果報告書サマリー集 【平成30年度終了課題】 P 9～15（令和元年5月発行）

<http://www.nise.go.jp/nc/wysiwyg/file/download/1/2613>

- ・季刊 特別支援教育 No.76 令和元年冬.P52～53（文部科学省著作、東洋館出版社発行）

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮（Co-MaMe） アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

（教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 2023年 10月 30日（月）
2回目 2024年 1月 22日（月）

小	・ 中 ・ 高	1	・ ◎	・ 3	・ 4	・ 5	・ 6	年	障害名（病名） <small>（精神疾患・心身症等の障害名（病名））</small>	先天性心疾患		
教育課程		◎ 準ずる教育課程 ・ 準ずる教育内容（下学年適用）							知的障がいの教育課程（知的代替）		自立活動を主とする教育課程	

心理		1回目	2回目
A 1	不安・悩み <small>（不安が強い、悩みが頭から離れない）</small>		
A 2	感情のコントロール <small>（気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう）</small>	◎	◎
A 3	こだわり <small>（一つのことにとこだわると他のことが考えられない）</small>		
A 4	意欲・気力 <small>（目標が持てない、やる気がおきない）</small>		
A 5	自己理解 <small>（何が辛いのか自分でもわからない）</small>		
A 6	気持ちの表現 <small>（気持ちを言葉・文字に表せない）</small>		
A 7	情緒の安定 <small>（嫌なことを思い出してしまう、イライラする）</small>		
A 8	気分の変動 <small>（気分の浮き沈みがある）</small>	◎	○
A 9	自信 <small>（自分に自信がない、自己肯定感が低い）</small>		◎

社会性		1回目	2回目
B 1	集団活動 <small>（集団の中にいると疲れる、ルールに従えない）</small>		
B 2	社会のルールの理解 <small>（学校や社会の規則が守れない、自分で変更する）</small>		
B 3	コミュニケーションスキル <small>（あいづちがうてない、人の話が聞けない）</small>		
B 4	同年代との関係 <small>（相手のことを考えた言動ができずトラブルになる）</small>	○	○
B 5	家族との関係 <small>（家族との関係がうまくいかない）</small>		
B 6	教師との関係 <small>（教師を信用しない、教師とのトラブル）</small>		
B 7	異性との関係 <small>（異性との関係がうまくいかない）</small>		
B 8	他者への信用 <small>（人が信用できない、人と関わりたくない）</small>		
B 9	他者への相談 <small>（困った時に相談できない）</small>		
B 10	他者理解 <small>（表情や態度から気持ちが読み取れない）</small>		

学習		1回目	2回目
C 1	学習状況 <small>（勉強の仕方がわからない）</small>		
C 2	処理能力 <small>（書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない）</small>	◎	○
C 3	聞き取り・理解力 <small>（話を聞いても理解できない、指示内容がわからない）</small>		
C 4	読み・書き <small>（文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない）</small>	○	○
C 5	記憶力 <small>（すぐに忘れてしまう）</small>		
C 6	注意・集中 <small>（集中が続かない、気が散って集中できない）</small>		
C 7	学習への意識 <small>（嫌いな教科に出たくない）</small>		
C 8	経験 <small>（生活経験が低い）</small>		◎

身体		1回目	2回目
D 1	身体状況・体調 <small>（お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる）</small>		
D 2	巧緻性 <small>（手先を使って操作することが指示通りできない）</small>		
D 3	動作・体力 <small>（体力がない、動きがはやくできない）</small>	○	○
D 4	多動性 <small>（じっとしてられない、待てない）</small>		
D 5	感覚過敏 <small>（においに敏感、大きな声が嫌）</small>		

学校生活		1回目	2回目
E 1	見通し <small>（予定の変更が受け入れられない）</small>		
E 2	物の管理 <small>（忘れ物が多い、物をなくしてしまう）</small>		
E 3	登校・入室への抵抗感 <small>（学校へ行きたくない、教室には入れない）</small>		

自己管理		1回目	2回目
F 1	睡眠・生活リズム <small>（朝起きられず遅刻してしまうことが多い）</small>		
F 2	食事 <small>（給食が食べられない、外食ができない）</small>		
F 3	服薬 <small>（薬が手放せない、薬の管理が面倒）</small>		
F 4	病気の理解 <small>（自分自身の病状を理解していない）</small>	○	○
F 5	ストレスへの対処 <small>（ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい）</small>		

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目 (◎) を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果 (児童生徒の変容) を項目別に記載してください。

小・中・高	1・◎・3・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	先天性心疾患
教育課程	◎ 準ずる教育課程	準ずる教育内容(下学年適用)	知的障がいの教育課程(知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程

①実態把握 <small>(プルダウンメニューから項目を選択)</small>	A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) A8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある) C2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時にこなさない)	受容期			
②課題	・気分の変動によって、取り組める学習内容や他者への接し方が大きく変化する。わざと看護師やクラスメイトに冷たくあたることもある。 ・活動内容を説明され、理解したとしても作業として何をやるかにつながりにくい。 ・自分でできないうまくいかない事態に直面した時に、気持ちが荒れやすく、取り組みを拒否したり他者に攻撃的な態度をとったりする。				
③支援・配慮等のねらい	・まずは現在のありのままの姿を受容し、無理に態度の変容を求めない。 ・対人的なソーシャルスキルを指導する際も、まずは気持ちが安定していることが重要となる。まずは本人の気持ちが落ち着くことを優先して支援にあたる。 ・うまくいかない、できない事態に直面した時にどうすればよいか対処法の選択肢を増やす。				
④具体的な支援の手立て: ①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入					
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
・本人が「できない分らない」といった場面では人に頼る、なぞる、真似るを選択肢として示す。 ・イライラしている時には支援者からストップをかけ、気持ちを落ち着ける具体的方法として、お茶を飲む、トイレ、少し休憩等を示す。		・どんなことをやるか内容を示す時には、具体的な作業内容まで示す。 ・取り組み始めの位置を指で指し示すなど、作業開始までの手順をスモールステップで示す。			



⑤教育的ニーズの変容 <small>(①～④の支援後に記入)</small>	A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) A9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い) C8 経験 (生活経験が低い)	受容期			
---	---	-----	--	--	--

⑥具体的な支援の効果 (⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)					
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
・支援者の「挨拶させよう」の意識下ではやれなかったが、受容期であることを踏まえ、無理に返事を求めずに挨拶をし続けることで、自然と挨拶が出たり、「お願いします」と他者に頼む言葉が増えたりしている。 ・具体的な選択肢を示し、選ぶことで、選択肢の中に自分の気持ちがないことも表明できるようになった。 ・自分に自信がないために「やだ」という言葉でしか表せないのではないか。それが情緒の波になっているのではないか。		・言葉の説明だけでいきなり選択を迫らず、モデルを示したり、一通り経験したりした後に決断すると決められる。 ・手順をパターン化することで自信を深めて新しいことに取り組めるようになっていく。 ・これまでの経験を否定し修正注意するのではなく、別の行動に変換(置き換え)するのがよいのではないか。			

自立活動 事例シート

(小)・中・高	1・2・3・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	先天性心疾患
教育課程	準ずる教育課程	準ずる教育内容(下学年適用)	知的障がい教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程

*①～⑥はシート「2整理・変容シート」の項目

1)実態把握						
収集した情報	就学前から大人の中で育てており、同年代との関わりが極めて少ない。また、医ケアをしてもらって当たり前環境でずっと過ごしている。小学校に入学し、ほぼ初めて同年代の子とも一緒に過ごすようになり、それをとても楽しみにしている。一方で、今年度から複式学年での学習が始まり、初めて異学年(年下)の子と長時間過ごすようになり、ちょっとしたトラブルにつながる場面も増えている。学習面では様々な場面で不器用さが感じられ、同級生との差を本人も感じ始めている。					
収集した情報の整理	Co-MaMeの情報(参考①)	A2 感情のコントロール(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	受容期			
		A8 気分の変動(気分の浮き沈みがある)	受容期			
		C2 処理能力(書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)	受容期			
自立活動の区分に即して整理	A心理	B社会性	C学習	D身体	E学校生活	F自己管理
自立活動の領域・項目	①健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	②心理的な安定 (1)(2)(3)	③人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	④環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	⑤身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	⑥コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)
<p><自立活動の項目・領域>①(1) 情緒の安定②(2) 他者の意図や感情の理解④集団参加の基礎 ⑥(2)言語の受容と表出⑤状況に応じたコミュニケーション</p> <p>・感情の起伏によって、活動に取り組めるかどうかが決まっている。本人の気持ちが落ち着かないと、他者への言動が激しくなりトラブルにつながりやすい。</p> <p>・他者と接するスキルが未熟。体験や知識の不足、理解不足の両面からくる部分も大きい。それが、周囲から見るとマイルールで行動しているように見えている。</p>						

2)課題(参考②)	<ul style="list-style-type: none"> ・気分の変動によって、取り組める学習内容や他者への接し方が大きく変化する。わざと看護師やクラスメイトに冷たくあたることもある。 ・活動内容を説明され、理解したとしても作業として何をやるかにつながらない。 ・自分でできないうまくいかない事態に直面した時に、気持ちが荒れやすく、取り組みを拒否したり他者に攻撃的な態度をとったりする。
-----------	--

3)ねらい(参考③)	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは現在のありのままの姿を受容し、無理に態度の変容を求めない。 ・対人的なソーシャルスキルを指導する際も、まずは気持ちが安定していることが重要となる。まずは本人の気持ちが落ち着くことを優先して支援にあたる。 ・うまくいかない、できない事態に直面した時にどうすればよいか対処法の選択肢を増やす。
------------	--

4)具体的な指導内容の選定						
必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)
具体的な指導内容(参考④)	<p>①言葉遣いに気をつける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふわふわ言葉」「チクチク言葉」を具体的に考える。(1学期) ・「チクチク言葉」が出そうになった時、どのような表現に言い換えたらよいか考える。『へんしん言葉』(2学期) ・誰に「ふわふわ言葉」を言っているか、誰に伝えたいかを考える。 ・「ふわふわ言葉」のうち1つの言葉をターゲットに、1週間毎日言っていたかを振り返る。 ・週末に振り返りカードを家に持ち帰り、おうちの方にも見ていただく。 	<p>②自分のことは自分でやる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のものや自分で使うものは、自分で準備や片づけをする。(彼女だけの取り組みではなく学級全体のルールとして定着させていく) ・給食時の役割分担を明確にし、お互いに干渉しあわないような場面設定をする。 <p>小1→温めたお弁当を生活科室から自分で運ぶ 小2→自分のラコールを容器に入れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でできたことを賞賛し、強化する。 	<p>③集中して学習や仕事をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒の場で活動する他者の言動によって気持ちが揺れないように場を分けたり、それぞれの役割を明確に視覚的に確認できるようにする。 ・学習・・・パーテーションを使い、個別学習に取り組む ・清掃・・・日替わりで分担場所を決め、1つの場所を時間いっぱい行う(モップ→ぞうきん) ・②の取り組み同様、自分でできたことを賞賛する。他の人を気にせずできたねといった声がけは避ける。 	<p>【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 A2 感情のコントロール(受容期)</p>	<p>【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 A8 気分の変動(受容期)</p>	<p>【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 C2 処理能力(受容期)</p>

成果と課題(参考⑤、⑥)

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者の「挨拶させよう」の意識下ではやれなかったが、受容期であることを踏まえ、無理に返事を求めずに挨拶をし続けることで、自然と挨拶が出たり、「お願いします」と他者に頼む言葉が増えたりしている。 ・具体的な選択肢を示し、選ぶことで、選択肢の中に自分の気持ちがないことも表明できるようになった。 ・言葉の説明だけでいきなり選択を迫らず、モデルを示したり、一通り経験したりした後に決断すると決められる。 ・手順をパターン化することで自信を深めて新しいことに取り組めるようになってきている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に自信がないために「やだ」という言葉でしか表せないのではないか。それが情緒の波になっているのではないか。いかに自信をもてるような取り組みを積み重ねることが課題。 ・手順をパターン化することで自信を深めて新しいことに取り組めるようになってきている。経験不足で「食わず嫌い」になっている部分も大きい。自信につながるよう、上手に経験を積み重ねることが課題。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮（Co-MaMe） アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

（教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別的教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 2023年 7月 14日（金）

2回目 2024年 1月 18日（木）

小	・ 中	・ 高	1	・ 2	◎ 3	・ 4	・ 5	・ 6	年	障害名（病名） <small>（精神疾患・心身症等の障害名（病名））</small>	水頭症、症候性てんかん、知的障がい		
教育課程			準ずる教育課程 ・ 準ずる教育内容（下学年適用）							知的障がいの教育課程（知的代替）		・ 自立活動を主とする教育課程	

心理	1回目	2回目
A 1 不安・悩み <small>（不安が強い、悩みが頭から離れない）</small>	◎	○
A 2 感情のコントロール <small>（気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう）</small>		
A 3 こだわり <small>（一つのことにとこだわると他のことが考えられない）</small>		
A 4 意欲・気力 <small>（目標が持てない、やる気がおきない）</small>		
A 5 自己理解 <small>（何が辛いのか自分でもわからない）</small>	○	◎
A 6 気持ちの表現 <small>（気持ちを言葉・文字に表せない）</small>	◎	○
A 7 情緒の安定 <small>（嫌なことを思い出してしまう、イライラする）</small>	○	
A 8 気分の変動 <small>（気分の浮き沈みがある）</small>		
A 9 自信 <small>（自分に自信がない、自己肯定感が低い）</small>	○	○

社会性	1回目	2回目
B 1 集団活動 <small>（集団の中にいると疲れる、ルールに従えない）</small>		
B 2 社会のルールを理解 <small>（学校や社会の規則が守れない、自分で変更する）</small>		
B 3 コミュニケーションスキル <small>（あいづちがうてない、人の話が聞けない）</small>	◎	○
B 4 同年代との関係 <small>（相手のことを考えた言動ができずトラブルになる）</small>	○	
B 5 家族との関係 <small>（家族との関係がうまくいかない）</small>		
B 6 教師との関係 <small>（教師を信用しない、教師とのトラブル）</small>		
B 7 異性との関係 <small>（異性との関係がうまくいかない）</small>		
B 8 他者への信用 <small>（人が信用できない、人と関わりたくない）</small>		
B 9 他者への相談 <small>（困った時に相談できない）</small>		○
B 10 他者理解 <small>（表情や態度から気持ちが読み取れない）</small>		○

学習	1回目	2回目
C 1 学習状況 <small>（勉強の仕方がわからない）</small>		
C 2 処理能力 <small>（書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない）</small>		
C 3 聞き取り・理解力 <small>（話を聞いても理解できない、指示内容がわからない）</small>		
C 4 読み・書き <small>（文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない）</small>		
C 5 記憶力 <small>（すぐに忘れてしまう）</small>		
C 6 注意・集中 <small>（集中が続かない、気が散って集中できない）</small>	○	
C 7 学習への意識 <small>（嫌いな教科に出たくない）</small>		
C 8 経験 <small>（生活経験が低い）</small>	○	○

身体	1回目	2回目
D 1 身体状況・体調 <small>（お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる）</small>		
D 2 巧緻性 <small>（手先を使って操作することが指示通りできない）</small>		
D 3 動作・体力 <small>（体力がない、動きがはやくできない）</small>	○	○
D 4 多動性 <small>（じっとしてられない、待てない）</small>		
D 5 感覚過敏 <small>（においに敏感、大きな声が嫌）</small>		

学校生活	1回目	2回目
E 1 見通し <small>（予定の変更が受け入れられない）</small>		
E 2 物の管理 <small>（忘れ物が多い、物をなくしてしまう）</small>		
E 3 登校・入室への抵抗感 <small>（学校へ行きたくない、教室には入れない）</small>		

自己管理	1回目	2回目
F 1 睡眠・生活リズム <small>（朝起きられず遅刻してしまうことが多い）</small>		
F 2 食事 <small>（給食が食べられない、外食ができない）</small>		
F 3 服薬 <small>（薬を手放せない、薬の管理が面倒）</small>		
F 4 病気の理解 <small>（自分自身の病状を理解していない）</small>		
F 5 ストレスへの対処 <small>（ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい）</small>	◎	◎

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目(◎)を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果(児童生徒の変容)を項目別に記載してください。

小	・ 中 ・ 高	1 ・ 2 ・ ◎ ・ 4 ・ 5 ・ 6 年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	水頭症、症候性てんかん、知的障がい
教育課程	準ずる教育課程 ・ 準ずる教育内容(下学年適用) ・ 知的障がいの教育課程(知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程			

①実態把握	A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)	試行期	B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)	受容期	F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	受容期
(プルダウンメニューから項目を選択)	A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)	受容期				
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・不安や緊張があるときなどで、自分の気持ちを適切な方法で伝えることが難しい。 ・人と関わる時に不適切な方法で関わってしまう。 ・生活をルーティン化してしまうことがあり、疲れていても休むことが難しい。 ・気持ちの切り替えが難しいときがある。 					
③支援・配慮等のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・人とやりとりする中で自分の気持ちに気付き、言葉や文字で適切に表現することができる。 					
④具体的な支援の手立て：①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちや考えを発表する場を作る。 ・人の意見を聞いて、自分の気持ちを考える。 ・不安な中でもできたことを称賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの大切さについて学習する。 ・自分からあいさつできたときには称賛する。 ・動画を撮り、自分の姿を振り返る。 				<ul style="list-style-type: none"> ・不安な気持ちを話すことができる時間を作る。 ・初めての学習など不安が大きな学習では、事前学習を丁寧に行う。 	

⑤教育的ニーズの変容 (①～④の支援後に記入)	A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)	試行期	B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)	試行期	F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	試行期
	A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)	試行期				

⑥具体的な支援の効果 (⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・うれしいや怖いなど気持ちを言葉で表現する場面が出てきた。 ・友達の考えを聞くことで、考え直したり、自分の考えの理由をより深く考えたりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊張はまだあるが、自分からあいさつをすることができるようになった。 ・自分があいさつをしている動画を見て自己評価し、より良くしようとする事ができた。 				<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちなどを言葉や文字にして整理することで、気持ちの切り替えに時間がかからなくなった。 ・不安や緊張が大きいことを乗り越える経験を積み、ストレスを不適切な方法で表現することが少なくなった。 	

自立活動 事例シート

①・中・高	1・2・③・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	水頭症、症候性てんかん、知的障がい
教育課程	準ずる教育課程	準ずる教育内容(下学年適用)	知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程

*①～⑥はシート「2整理・変容シート」の項目

		1)実態把握					
収集した情報	<収集した情報>	<ul style="list-style-type: none"> ・ごっこ遊びが好き。文字を書くことに関心が高い。歌やダンスの活動が好き。 ・大人と一人のかかわりを好み、やりとりを楽しむことができる。年下の子供が苦手。 ・嫌な記憶を思い出したり、怖い気持ちになることが分かっているが、あえて怖い動画を見たりして、不安な気持ちになることがある。 ・思い通りにならないときに気持ちの切り替えが難しい。失敗したと思っているにもかかわらず、謝ることができない。 ・初めてのことが苦手で過度に緊張する。不安なことがあると人を叩く、失禁などの不適切な行動が出てしまうことがある。 ・あいさつすることが苦手、称賛を素直に受け止められない、かかわってほしい人に対して強い口調や言い回しを使うなど人の適切なかかわり方が分からない。 					
	Co-MaMeの情報(参考①)	A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない)	試行期	B3 コミュニケーションスキル(あいさつがうてない、人の目が聞けない)	受容期	F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	受容期
収集した情報の整理	自立活動の区分に即して整理	A心理	B社会性	C学習	D身体	E学校生活	F自己管理
	自立活動の領域・項目	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)②(3)	人間関係の形成 (1)②③④	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)②③④(4)(5)
	<収集した情報の整理>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを理解して、表現する力が低く、不安な気持ちを素直に伝えることができなかつたり、不適切な方法で人と関わってしまったりする。また、気持ちを表現することがむずかしいことが、気持ちの切り替えの難しさにつながっているとされる。 ・活動をルーティン化することで見通しがもて落ち着いて生活することができるが、ルーティンを崩すことが難しくなり、自分の体調や状況を見て変更することが難しいところがある。 					

2)課題(参考②)	<ul style="list-style-type: none"> ・不安や緊張があるときに、自分の気持ちを適切な方法で伝えることが難しい。 ・人と関わる時に不適切な方法で関わってしまう。 ・生活をルーティン化してしまうことがあり、疲れていても休むことが難しい。 ・気持ちの切り替えが難しいときがある。
-----------	--

3)ねらい(参考③)	<ul style="list-style-type: none"> ・人とのやりとりを十分にすることで自分の気持ちに気付き、言葉や文字などで適切に表現することができる。
------------	--

4)具体的な指導内容の選定							
必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)②(3)	人間関係の形成 (1)②③④	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)②③④(4)(5)	
具体的な指導内容(参考④)	<p>(教育活動全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に話を聞き、自分の気持ちや思いを表現する場を作る。 ・友達や教師の考えや意見を聞いて、自分の気持ちや考えを発表する機会を積極的に設ける。 ・初めての学習など不安が大きな学習では、見通しをもつことができるよう事前学習を丁寧にやる。事前に不安に思うことを確認する。 ・緊張すること、不安な気持ちを話すことができる時間を作る。 ・活動を振り返り、不安だと思っていたことが乗り越えられたり、難しかったことができたり、良い方向に変わったことなどを分かりやすく伝え、成功体験を積み上げることができるようにする。 		<p>「こころからだ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画を視聴し、教師や友達とやりとりしながら自分のその時々気持ちや考えを話すこと、また登場人物の気持ちを考えたり、想像したり、どうしてそう思ったのかなどを話す。 ・友達や教師の考えを聞いて、自分の考えについて再考する。 ・あいさつの大切さについて知る。 ・自分からあいさつできたときには称賛する。挨拶をされた方も気持ちがよくなることを伝える。 ・友達や教師と登校場面等の再現遊びをし、その様子をビデオに録画し、自分や友達の様子を客観的に視ることで振り返る。 		<p>「想像してみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を聞いて想像し、木や雲、太陽などのパーツを組み合わせて絵を完成することができる。 ・場所、位置、指示語、修飾語などを使いながら物事を相手に正しく、より詳しく説明する。 ・相手からの質問に自分なりの言葉で答え、説明することができる。 ・自分が説明したとおりに相手も同じ絵を作れたときの達成感を味わう。  <ul style="list-style-type: none"> ・文字を読んで、その通りに行動し、宝探しをすることができる。 ・友達が自分で書いた文章を手紙で渡し、宝探しゲームをする。 		
	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】	A1 不安・悩み・・・試行期 A6 気持ちの表現・・・受容期 F5 ストレスへの対処・・・受容期	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】	A6 気持ちの表現・・・受容期 B3 コミュニケーションスキル・・・受容期	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】	B3 コミュニケーションスキル・・・受容期	

成果と課題(参考⑤、⑥)	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・うれしいや怖い、難しいなど、気持ちを言葉で表現する場面が増えてきた。 ・友達の考えを聞くことで、再考したり、自分の考えの理由をより深く考えたりすることができた。 ・緊張があり、声の大きさなど課題は残るが自分からあいさつをすることができるようになった。 ・自分があいさつをしている動画を見て、自己評価し、より良くしようとするすることができた。 ・状況や気持ちなどを言葉や文字にして整理することで、気持ちの切り替えに時間がかからなくなった。 ・不安や緊張が大きなことを乗り越え成功体験を積み重ねることで、不安や緊張から表れるストレスを不適切な方法で表現することが少なくなった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動で学習したことを生活や他の学習の場面で活かすことができるよう、教科等の指導と関連付けていく。 ・不安なこと、緊張することを安心して表現できる環境を作り、相談しながら無理なく活動に取り組むことができるようにする。 ・自分のことを説明することができるよう、語彙を広げ、より相手に伝わりやすい方法を丁寧に指導していく。 ・活動に見通しをもたせて、緊張することのできるだけ小さくして、乗り越えた自分を振り返り、自己肯定感を高めていく。 ・クールダウン、気分転換できる環境を作りながらストレス解消の方法や対処法についての学習を積んでいく。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮（Co-MaMe） アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

（教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 R4年 10月 7日（金）

2回目 R5年 3月 10日（金）

小	・ 中	・ 高	1	・ 2	・ ◎	・ 4	・ 5	・ 6	年	障害名（病名） <small>（精神疾患・心身症等の障害名（病名））</small>	広汎性発達障害・反抗挑戦性障害				
教育課程			準ずる教育課程							準ずる教育内容（下学年適用）		知的障がいの教育課程（知的代替）		自立活動を主とする教育課程	

心理		1回目	2回目
A 1	不安・悩み <small>（不安が強い、悩みが頭から離れない）</small>		
A 2	感情のコントロール <small>（気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう）</small>	◎	◎
A 3	こだわり <small>（一つのことにとこだわると他のことが考えられない）</small>		
A 4	意欲・気力 <small>（目標が持てない、やる気がおきない）</small>		
A 5	自己理解 <small>（何が辛いのか自分でもわからない）</small>		
A 6	気持ちの表現 <small>（気持ちを言葉・文字に表せない）</small>		
A 7	情緒の安定 <small>（嫌なことを思い出してしまう、イライラする）</small>	○	○
A 8	気分の変動 <small>（気分の浮き沈みがある）</small>	○	○
A 9	自信 <small>（自分に自信がない、自己肯定感が低い）</small>	○	○

社会性		1回目	2回目
B 1	集団活動 <small>（集団の中にいると疲れる、ルールに従えない）</small>	◎	◎
B 2	社会のルールの理解 <small>（学校や社会の規則が守れない、自分で変更する）</small>	◎	○
B 3	コミュニケーションスキル <small>（あいづちがうてない、人の話が聞けない）</small>	○	○
B 4	同年代との関係 <small>（相手のことを考えた言動ができずトラブルになる）</small>	○	○
B 5	家族との関係 <small>（家族との関係がうまくいかない）</small>		
B 6	教師との関係 <small>（教師を信用しない、教師とのトラブル）</small>		
B 7	異性との関係 <small>（異性との関係がうまくいかない）</small>		
B 8	他者への信用 <small>（人が信用できない、人と関わりたくない）</small>		
B 9	他者への相談 <small>（困った時に相談できない）</small>	○	
B 10	他者理解 <small>（表情や態度から気持ちが読み取れない）</small>	○	○

学習		1回目	2回目
C 1	学習状況 <small>（勉強の仕方がわからない）</small>	○	
C 2	処理能力 <small>（書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない）</small>		
C 3	聞き取り・理解力 <small>（話を聞いても理解できない、指示内容がわからない）</small>		
C 4	読み・書き <small>（文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない）</small>		
C 5	記憶力 <small>（すぐに忘れてしまう）</small>		
C 6	注意・集中 <small>（集中が続かない、気が散って集中できない）</small>	○	○
C 7	学習への意識 <small>（嫌いな教科に出たくない）</small>	○	○
C 8	経験 <small>（生活経験が低い）</small>		

身体		1回目	2回目
D 1	身体状況・体調 <small>（お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる）</small>		
D 2	巧緻性 <small>（手先を使って操作することが指示通りできない）</small>		
D 3	動作・体力 <small>（体力がない、動きがはやくできない）</small>		
D 4	多動性 <small>（じっとしてられない、待てない）</small>	○	○
D 5	感覚過敏 <small>（においに敏感、大きな声が嫌）</small>	○	○

学校生活		1回目	2回目
E 1	見通し <small>（予定の変更が受け入れられない）</small>	◎	◎
E 2	物の管理 <small>（忘れ物が多い、物をなくしてしまう）</small>		
E 3	登校・入室への抵抗感 <small>（学校へ行きたくない、教室には入れない）</small>		

自己管理		1回目	2回目
F 1	睡眠・生活リズム <small>（朝起きられず遅刻してしまうことが多い）</small>		
F 2	食事 <small>（給食が食べられない、外食ができない）</small>		
F 3	服薬 <small>（薬が手放せない、薬の管理が面倒）</small>	○	○
F 4	病気の理解 <small>（自分自身の病状を理解していない）</small>		
F 5	ストレスへの対処 <small>（ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい）</small>	◎	○

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目(◎)を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果(児童生徒の変容)を項目別に記載してください。

小	・ 中 ・ 高	1 ・ 2 ・ ◎ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	広汎性発達障害・反抗挑戦性障害
教育課程		◎ 準ずる教育課程	準ずる教育内容(下学年適用)	知的障がい教育課程(知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程

①実態把握 (プルダウンメニューから項目を選択)	A2 感情のコントロール(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	受容期	E1 見通し(予定の変更が受け入れられない)	受容期	D5 感覚過敏(においに敏感、大きな声が嫌)	受容期
	B1 集団活動(集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)	受容期	F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	受容期		
	B2 社会のルールの理解(学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)	受容期	C4 読み・書き(文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)	受容期		
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに感情が爆発して暴言を吐いたり、大きな音を立てたりする。(A2) ・集団の中でルールに従って活動できない。(B1) ・自分勝手な行動をして、嫌な思いをしたら粗暴行動をする。イメージが持てず、自分でルールを作り上げてしまう。(B2) ・予定が自分の思い通りに行かないと暴力・暴言がでる。(E1) ・ストレスがたまり学習に集中できず、泣いたり騒いだりする。不満がたまり切り替えられず、苦手なことから逃げる。(F5) 					
③支援・配慮等のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップで成功体験を多くし、自信をつけさせることで自己肯定感を高める。 ・状況に応じたコミュニケーション力を身に付け、適切な行動がとれるようにする。 ・きまりを理解し、守ろうとする意識を高める。 					
④具体的な支援の手立て: ①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・クールダウン、気分転換できるようにする。 ・気持ちを聞く。 ・共感、理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しを持たせる。 ・無理せず行う。 ・安心できる環境作り。 ・分かりやすく提示する。 ・気持ちを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できる内容を学習する。 ・ほめる機会を増やす。 ・スモールステップで学習する。 ・取り組みやすいように教材を工夫する。 ・刺激を減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動する空間や時間を整える。 ・相談しながら行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを聞く。 ・クールダウンさせる。 ・活動の様子を見させる。 ・予定や持ち物を確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを聞く。 ・クールダウンできるようにする。 ・授業の参加方法を柔軟に変更する。 	

⑤教育的ニーズの変容 (①～④の支援後に記入)	A2 感情のコントロール(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	受容期	E1 見通し(予定の変更が受け入れられない)	受容期	D5 感覚過敏(においに敏感、大きな声が嫌)	受容期
	B1 集団活動(集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)	試行期	F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	試行期		
	B2 社会のルールの理解(学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)	試行期	C4 読み・書き(文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)	受容期		

⑥具体的な支援の効果(⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・クールダウン、気分転換できるようにする。 ・気持ちを聞く。 ・共感、理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しを持たせる。 ・相談しながら行えるようにする。 ・集団構成や時間を工夫する。 ・気持ちを振り返るようにする。 ・分かりやすく提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できる内容を学習する。 ・ほめる機会を増やす。 ・スモールステップで学習する。 ・取り組みやすいように教材を工夫する。 ・刺激を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動する空間や時間を整える。 ・相談しながら行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを聞く。 ・クールダウンさせる。 ・活動の様子を見させる。 ・予定や持ち物を確認させる。 ・行う活動内容を説明する。 ・分かりやすく視覚的に提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちを聞く。 ・クールダウンできるようにする。 ・授業の参加方法を柔軟に変更する。 ・解消する方法を伝える。 ・取り組み姿勢も褒める。 	

自立活動 事例シート

①・中・高	1・2・③・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	広汎性発達障害・反抗挑戦性障害
教育課程	準ずる教育課程(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程		

*①～⑥はシート「2整理・変容シート」の項目

1)実態把握							
収集した情報	<ul style="list-style-type: none"> 歯磨きができない。ハンカチを忘れたり、洗っていない物を持ってきたりする。 自分の思い通りにならないと、乱暴な言動をとってしまう。苦手なことには抵抗感が強い。興味があることには意欲的に取り組むことができる。 ルールを自分の都合のいいように変更しようとする。ルールが守れず、友達とトラブルになってしまうことがある。 音に対して敏感になることがある。集中力の持続が難しい。 体を動かす活動を好む。静かに座って過ごすことが苦手である。 気持ちが不安定になると、乱暴な言動をとってしまう。相手の状況や気持ちが分からず、一方的な関わり方をしてしまう。 						
	Co-MaMeの情報(参考①)	A2 感情のコントロール(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	受容期	E1 見通し(予定の変更を受け入れられない)	受容期	D5 感覚過敏(においに敏感、大きな音が嫌)	受容期
	B1 集団活動(集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)	受容期	F5 ストレスへの対応(ストレスへの対応、苦手なことから逃れたい)	受容期			
	B2 社会のルールを理解(学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)	受容期	C4 読み・書き(文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)	受容期			
収集した情報の整理	自立活動の区分に即して整理	A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
	自立活動の領域・項目	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)
	<ul style="list-style-type: none"> 苦手なことは抵抗感が強く、自信がない。 自分の思い通りにならないと、乱暴な行動になり、不適切な行動をとる。 ルールを自分の都合の良いように変更しようとしたり、守れなかったりするところがある。 						

2)課題(参考②)	<ul style="list-style-type: none"> すぐに感情が爆発して暴言を吐いたり、大きな音を立てたりする。(A2) 集団の中でルールに従って活動できない。(B1) 自分勝手な行動をして、嫌な思いをしたら粗暴行動をする。イメージが持てず、自分でルールを作り上げてしまう。(B2) 予定が自分の思い通りに行かないと暴力・暴言がでる。(E1) ストレスがたまり学習に集中できず、泣いたり騒いだりする。不満がたまり切り替えられず、苦手なことから逃げる。(F5)
-----------	---

3)ねらい(参考③)	<ul style="list-style-type: none"> スモールステップで成功体験を多くし、自信をつけさせることで自己肯定感を高める。 状況に応じたコミュニケーション力を身につけ、適切な行動がとれるようにする。 きまりを理解し、守ろうとする意識を高める。
------------	---

4)具体的な指導内容の選定						
必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)
具体的な指導内容(参考④)	<p>1 身辺処理の方法を知り、適切な生活リズムを身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的に体験させる。 継続して行い、習慣化できるようにする。 		<p>2 できる課題だけでなく、苦手な課題に対しても積極的に取り組むことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 得意なことや苦手なこと、できることやできないことなどの実態把握をきめ細やかに行い、課題の設定をする。 できたことを賞賛し、自信を持たせ、次の活動につなげる。(振り返りカードの利用) 		<p>3 困ったときの対応の仕方を学ぶことで、適切な行動を選択し落ち着いて過ごすことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 困ったときの対応の仕方を一緒に考えたり、提示したりする。 不適切な行動があったときに、あとから振り返ったり、状況に応じた適切な対応について学習したりする。 	
	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 F5 (R4.10~R5.3)		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 B1、E1 (R4.10~R5.3)		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 A2、B2 (R4.10~R5.3)	
						

成果と課題(参考⑤、⑥)	
成果	<ul style="list-style-type: none"> 事前に伝えることで、苦手なことにも挑戦できることが増えた。 できたことを賞賛することで自信につながった。やる前からできないと言うこともあったが、時間がたてばできたり、違う日にできたりした。 困ったときの対応の仕方について、一緒に考えることができた。 1日の振り返りカードを活用し、次の日のやる気の向上につながった。自分で振り返ろうとする意欲や決まりを守ろうとする意識が高まった。 文字やイラストを確認しながら、きまりの確認を行った。確認した次の日は改善が見られることが多かった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 直前に伝えたほうが良いこと、前日に伝えたほうが良いことなど、伝えるタイミングの調整が必要だった。 振り返りが難しいときには、時間をおいて再度確認する必要があった。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮（Co-MaMe） アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

（教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別的教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 令和5年 11月 30日（木）

2回目 令和 年 月 日（ ）

小	・ 中 ・ 高	1	・ 2	・ 3	・ ◎ 4	・ 5	・ 6	年	障害名（病名） <small>（精神疾患・心身症等の障害名（病名））</small>	知的障害、自閉症
教育課程		準ずる教育課程		・ 準ずる教育内容（下学年適用）		・ 知的障がいのある児童生徒の教育課程（知的代替）		・ 自立活動を主とする教育課程		

心理	1回目	2回目
A 1 不安・悩み <small>（不安が強い、悩みが頭から離れない）</small>	◎	
A 2 感情のコントロール <small>（気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう）</small>	◎	
A 3 こだわり <small>（一つのことにとこだわると他のことが考えられない）</small>	◎	
A 4 意欲・気力 <small>（目標が持てない、やる気がおきない）</small>		
A 5 自己理解 <small>（何が辛いのか自分でもわからない）</small>		
A 6 気持ちの表現 <small>（気持ちを言葉・文字に表せない）</small>	○	
A 7 情緒の安定 <small>（嫌なことを思い出してしまう、イライラする）</small>	○	
A 8 気分の変動 <small>（気分の浮き沈みがある）</small>		
A 9 自信 <small>（自分に自信がない、自己肯定感が低い）</small>		

社会性	1回目	2回目
B 1 集団活動 <small>（集団の中にいると疲れる、ルールに従えない）</small>	○	
B 2 社会のルールを理解 <small>（学校や社会の規則が守れない、自分で変更する）</small>	○	
B 3 コミュニケーションスキル <small>（あいづちがうてない、人の話が聞けない）</small>		
B 4 同年代との関係 <small>（相手のことを考えた言動ができずトラブルになる）</small>		
B 5 家族との関係 <small>（家族との関係がうまくいかない）</small>		
B 6 教師との関係 <small>（教師を信用しない、教師とのトラブル）</small>		
B 7 異性との関係 <small>（異性との関係がうまくいかない）</small>		
B 8 他者への信用 <small>（人が信用できない、人と関わりたくない）</small>		
B 9 他者への相談 <small>（困った時に相談できない）</small>		
B 10 他者理解 <small>（表情や態度から気持ちが読み取れない）</small>		

学習	1回目	2回目
C 1 学習状況 <small>（勉強の仕方がわからない）</small>	○	
C 2 処理能力 <small>（書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない）</small>		
C 3 聞き取り・理解力 <small>（話を聞いても理解できない、指示内容がわからない）</small>		
C 4 読み・書き <small>（文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない）</small>		
C 5 記憶力 <small>（すぐに忘れてしまう）</small>		
C 6 注意・集中 <small>（集中が続かない、気が散って集中できない）</small>	◎	
C 7 学習への意識 <small>（嫌いな教科に出たくない）</small>		
C 8 経験 <small>（生活経験が低い）</small>	○	

身体	1回目	2回目
D 1 身体状況・体調 <small>（お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる）</small>	○	
D 2 巧緻性 <small>（手先を使って操作することが指示通りできない）</small>	○	
D 3 動作・体力 <small>（体力がない、動きがはやくできない）</small>	○	
D 4 多動性 <small>（じっとしていられない、待てない）</small>	◎	
D 5 感覚過敏 <small>（においに敏感、大きな声が嫌）</small>	◎	

学校生活	1回目	2回目
E 1 見通し <small>（予定の変更が受け入れられない）</small>		
E 2 物の管理 <small>（忘れ物が多い、物をなくしてしまう）</small>		
E 3 登校・入室への抵抗感 <small>（学校へ行きたくない、教室には入れない）</small>		

自己管理	1回目	2回目
F 1 睡眠・生活リズム <small>（朝起きられず遅刻してしまうことが多い）</small>		
F 2 食事 <small>（給食が食べられない、外食ができない）</small>		
F 3 服薬 <small>（薬を手放せない、薬の管理が面倒）</small>		
F 4 病気の理解 <small>（自分自身の病状を理解していない）</small>		
F 5 ストレスへの対処 <small>（ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい）</small>		

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目(◎)を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果(児童生徒の変容)を項目別に記載してください。

小・中・高	1・2・3・ 4 ・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	知的障害、自閉症
教育課程	準ずる教育課程 ・ 準ずる教育内容(下学年適用) ・ 知的障がい教育課程(知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程		

①実態把握 (プルダウンメニューから項目を選択)	A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない)	受容期	A2 感情のコントロール(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	受容期	A3 こだわり(一つのことにとだわると他のことが考えられない)	受容期
	C6 注意・集中(集中が続かない、気が散って集中できない)	受容期	D4 多動性(じっとしてられない、待てない)	受容期	D5 感覚過敏(においに敏感、大きな声が嫌)	受容期
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・初めてのことや慣れないことに対する不安が大きく、入室に時間がかかり、部屋の隅から集団の様子を見ていることがある。 ・感覚的な刺激を好む発達段階であるため、目に入った物を手に持ったり、異物を口へ入れたりすることがある。学習が始まる時に、手に持っている物を教員に渡すよう促すと、怒ったり自傷行為が出たりして、行動を切り上げることが難しい。 ・制止をされたり、思い通りにならなかったり、大きい声を聞いて驚いたりすると、怒ったり自傷行為が出たりする。 					
③支援・配慮等のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・学習で、周囲の様子を見ながらするべき活動を知り、安心して活動に参加できる。 ・支援カードを見たり、持っている物を片付けたりしながら、するべき活動を意識して自ら動きだせるようになる。 ・怒ったり自傷行為が出たりすることが継続する時は、静かな場所に移動して気持ちを切り替えることができる。 ・したいことがある時、提示された支援カードの順番を見て、待つことができる。 					
④具体的な支援の手立て: ①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・写真カードを提示しながらするべき行動を促し、自ら動き始めるまで見守る。 ・怒ったり自傷行為が出たりした時は、気持ちを切り替えるために静かな場所に移動する。 ・終わりを意識できるように、持っている物はカゴや袋へ入れるよう促したり、タイマーを設定したりする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・離席をしないで継続して学習に取り組むことができるように、次の活動に使用する教材をすぐに提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「やりたい」「行きたい」等の要求があった時は「〇〇が終わったら」を意識できるように、写真カードで活動の順番を提示する。 ・大きな音や声を気にしている時は「ビックリしたね」「うるさいね」等伝えながら共感し、場所を移動する。 			

⑤教育的ニーズの変容 (①～④の支援後に記入)	A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない)	安定期	A2 感情のコントロール(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	安定期	A3 こだわり(一つのことにとだわると他のことが考えられない)	受容期
	C6 注意・集中(集中が続かない、気が散って集中できない)	試行期	D4 多動性(じっとしてられない、待てない)	試行期	D5 感覚過敏(においに敏感、大きな声が嫌)	試行期

⑥具体的な支援の効果(⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・カード提示等の教員の指示に応じて、自ら行動することが増えた。 ・怒ったり自傷行為が出たりした時、短時間で気持ちを切り替えられるようになり、回数も減った。 ・持っている物をカゴや袋へ入れることができるようになった。タイマーの音や教員が10数える言葉を聞いて、遊びをスムーズに終わることができるようになった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・離席をした時、教材を提示されると自ら着席することが増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要求があった時、提示された写真カードを見て、イライラしながらも順番を待つことができた。 ・大きな音や声が聞こえた時共感的な声かけを聞いて怒らずに過ごす姿が増えた。 			

自立活動 事例シート

① 小 ・ 中 ・ 高	1 ・ 2 ・ 3 ・ ④ ・ 5 ・ 6 年	障害名 (病名) (精神疾患・心身症等の障害名 (病名))	知的障害、自閉症
教育課程	準ずる教育課程 ・ 準ずる教育内容 (下半年適用) ・ 知的障がい教育課程 (知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程		

*①～⑥はシート「2整理・変更シート」の項目

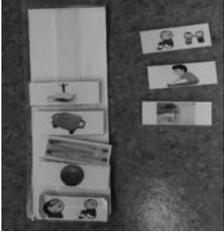
1)実態把握

収集した情報	<p><収集した情報></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事、更衣、排泄等の基本的な生活習慣は支援が必要。 ・ 発語はなく、要求がある時は大人の手を持って誘導する。嫌な気持ちは、大声を出す、泣く、頭突き等の自傷で表現する。 ・ 慣れない場所や活動、支援者への不安があり、部屋に入れなかったり、活動に参加できなかつたりすることがある。見通しのもてる活動には参加できる。 ・ 帽子、靴等の実物を提示されて、次の活動を意識して体育館や外へ移動することができる。 ・ 集団での学習で、やりたいことがあると順番を待つことができない。 ・ フランコやハンモック、トランポリン等の遊具で身体を動かしたり、ボール等の丸いやひも状の物を触ったりすることが好き。 																													
Co-MaMeの情報 (参考①)	A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)	受容期	A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	受容期	A3 こたわり (一つのことごとたわると他のことが考えられない)	受容期																								
	C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)	受容期	D4 多動性 (じっとしてられない、待てない)	受容期	D5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌)	受容期																								
収集した情報の整理	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 16.6%;">A 心理</td> <td style="width: 16.6%;">B 社会性</td> <td style="width: 16.6%;">C 学習</td> <td style="width: 16.6%;">D 身体</td> <td style="width: 16.6%;">E 学校生活</td> <td style="width: 16.6%;">F 自己管理</td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓</td> </tr> <tr> <td>健康の保持</td> <td>心理的な安定</td> <td>人間関係の形成</td> <td>環境の把握</td> <td>身体の動き</td> <td>コミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>①② (2) (3) (4) (5)</td> <td>①②③ (3)</td> <td>①② (2) (3) (4)</td> <td>①②③ (3) (4) (5)</td> <td>①②③④ (4) (5)</td> <td>①② (2) (3) (4) (5)</td> </tr> </table> <p><収集した情報の整理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意思を伝える手段が身にしておらず、情緒が不安定になることがある。気に入った物や活動に興味に向くため、活動の区切りで手に持っている物を片づける、順番を待つ、等のルールを意識できない。 ・ 新しいことへの不安が大きい。 ・ 実物を見て次の活動を意識することはできるが、カードを使用することは難しい。 ・ 排尿の自立を目指したい 						A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓						健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション	①② (2) (3) (4) (5)	①②③ (3)	①② (2) (3) (4)	①②③ (3) (4) (5)	①②③④ (4) (5)	①② (2) (3) (4) (5)
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理																									
↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓																														
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション																									
①② (2) (3) (4) (5)	①②③ (3)	①② (2) (3) (4)	①②③ (3) (4) (5)	①②③④ (4) (5)	①② (2) (3) (4) (5)																									

2)課題 (参考②)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の促しに応じて、遊びを終了したり、場所移動したりして、集団の活動に参加することができる。 ・ 写真やイラストのカードを見て、やりたいことを待ったり、好きな遊びを選択したりできる。
------------	--

3)ねらい (参考③)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手に持っている物を、教員が差し出したカゴや袋に入れて片付けることができる。 ・ 初めての活動や慣れない活動で、教員と一緒に周囲の様子を見ながら、少しずつ参加することができる。
-------------	--

4)具体的な指導内容の選定

必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 (1) (2) (3) (4) (5)	心理的な安定 ① (2) (3)	人間関係の形成 ① (2) (3) (4)	環境の把握 (1) (2) ③ (4) (5)	身体の動き (1) (2) (3) (4) (5)	コミュニケーション (1) (2) (3) (4) (5)
具体的な指導内容 (参考④)	<p>・ 手に持っている物を教員に渡すことを拒むため、カゴを準備して、その中へ入れることを促す。</p>  <p>・ できない時は、10数えて行動を促す。</p> <p>・ できた時は、花丸カードを提示したり「できたね」と伝えたりして評価する。</p> <p>・ カゴへ入れることができるようになったら、入れ物を変えていく。</p> 		<p>・ 活動内容や活動の終わりを伝えるために、写真やイラストのカードで、活動内容を伝えて、終わったらカードを外すようにする。</p>  <p>・ 活動に参加できず、友だちの様子を見ている時は、「○○さん、□□してるね」と友だちの様子を伝える。</p> <p>・ 表情が良い時に、活動に参加することを促す。動くタイミングを意識できるように、10数えて移動を促す。</p> <p>・ 参加できた時は、花丸カードを提示したり、できたね」と伝えたりして評価する。</p>			
	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 A2. 感情のコントロール 受容期 A3. こたわり 受容期		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 A1. 不安・悩み 受容期		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】	

成果と課題 (参考⑤、⑥)

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持っていた物をカゴへ入れることができるようになり、イラストすることなく片づけることができるようになった。袋へ入れることができるようになった。また、この行動が定着したことで、怒ったり自傷行為が出たりすることが減った。 ・ 慣れない活動には、周囲から活動の様子を見ることで、自ら参加することができる活動が増えた。カードを見て参加する姿も見られた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のしたい事や行きたい場所を、写真カードで選択することができる。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮（Co-MaMe） アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

（教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 R5年 5月 10日 (小5)

2回目 R5年 12月 1日 (小5)

小	中	高	1	2	3	4	◎ 5	6	年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	心身症						
教育課程			準ずる教育課程						準ずる教育内容(下学年適用)			知的障がい教育課程(知的代替)			自立活動を主とする教育課程		

心理		1回目	2回目
A 1	不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)		
A 2	感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	○	
A 3	こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない)	○	○
A 4	意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない)	○	
A 5	自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない)	○	○
A 6	気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)	◎	○
A 7	情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)		
A 8	気分の変動 (気分の浮き沈みがある)	○	
A 9	自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い)	◎	○

社会性		1回目	2回目
B 1	集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)		
B 2	社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)	○	
B 3	コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)	◎	○
B 4	同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)		
B 5	家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)		
B 6	教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル)		
B 7	異性との関係 (異性との関係がうまくいかない)		
B 8	他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない)	○	
B 9	他者への相談 (困った時に相談できない)	○	
B 10	他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない)	◎	◎

学習		1回目	2回目
C 1	学習状況 (勉強の仕方がわからない)	○	○
C 2	処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)	○	○
C 3	聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない)	○	○
C 4	読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)	○	○
C 5	記憶力 (すぐに忘れてしまう)	○	○
C 6	注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)	○	
C 7	学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)	○	
C 8	経験 (生活経験が低い)	○	○

身体		1回目	2回目
D 1	身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)	○	
D 2	巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない)	○	○
D 3	動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)	○	○
D 4	多動性 (じっとしてられない、待てない)		
D 5	感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌)	○	

学校生活		1回目	2回目
E 1	見通し (予定の変更が受け入れられない)		○
E 2	物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう)		
E 3	登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室には入れない)	○	

自己管理		1回目	2回目
F 1	睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	◎	○
F 2	食事 (給食が食べられない、外食ができない)		
F 3	服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒)		
F 4	病気の理解 (自分自身の病状を理解していない)	○	○
F 5	ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	○	○

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目(◎)を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果(児童生徒の変容)を項目別に記載してください。

小	・ 中 ・ 高	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ ◎5 ・ 6 年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	心身症
教育課程		準ずる教育課程 ・ 準ずる教育内容(下学年適用) ・ 知的障がいの教育課程(知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程		

①実態把握 <small>(プルダウンメニューから項目を選択)</small>	A 6 気持ちの表現(気持ちを言葉・文字に表せない)	受容期	B 3 コミュニケーションスキル(あいづちがうてない、人の話が聞けない)	受容期	F 1 睡眠・生活リズム(朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	受容期
	A 9 自信(自分に自信がない、自己肯定感が低い)	受容期	B 10 他者理解(表情や態度から気持ちが読み取れない)	受容期		
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・起床時間、就寝時間が定まらず、生活リズムが整わない。 ・はじめてのことや、自分でできないと判断すると、あきらめて友だちの様子を見る。 ・自分の気持ちを言葉や文字にすることが難しく、尋ねられても黙っていることが多い。 ・嫌だと感じることもあって、その場で言えないため、家に帰ってから親に伝えることがある。 					
③支援・配慮等のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活リズムを理解し、時間を意識して行動をする。 ・自分の経験したことを表現したり、自分の気持ちを他者に伝える。 					
④具体的な支援の手立て:①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
・予定や活動内容を文字化して視覚的に理解できるようにする。 ・気持ちを聞いて、無理のない範囲で活動に参加する。	・できたことをその場でほめて認める。 ・落ち着いた空間を作り、他者と、程よい距離感が過ごせるようにする。	・できる範囲からはじめ、教師と一緒に取り組み、達成感を得られるようにする。 ・自分の気持ちを表現しやすい活動を設定する。			・睡眠と起床時間、朝ごはんを記録して、自分の生活のリズムを把握できるようにする。	

⑤教育的ニーズの変容 <small>(①～④の支援後に記入)</small>	A 6 気持ちの表現(気持ちを言葉・文字に表せない)	試行期	B 3 コミュニケーションスキル(あいづちがうてない、人の話が聞けない)	試行期	F 1 睡眠・生活リズム(朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	試行期
	A 9 自信(自分に自信がない、自己肯定感が低い)	試行期	B 10 他者理解(表情や態度から気持ちが読み取れない)	受容期		

⑥具体的な支援の効果(⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
・自分の気持ちを文字にして視覚的に確認することで、クラスでの発言が増えてきた。 ・活動を選んで、主体的に行う姿がみられた。	・できることが増え、認められる場が増えることで、他者に対して、自分の気持ちや考えを言葉にできるようになってきた。	・コミュニケーションできるゲームを通して友人とのかわりを身に着け、行事での役割を果たせるようになった。			・自分の生活のリズムを知ること、適切な就寝時間が分かり、スムーズに起床できるようになってきた。	

自立活動 事例シート

①・中・高	1・2・3・4・⑤・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))
教育課程	⑤に関する教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程	

*①～⑥はシート「2整理・変容シート」の項目

1)実態把握

収集した情報	<収集した情報> ・日によって起床、就寝時間が変わり、登校時間が定まらず、昼頃の登校となる。・人と接すること、集団生活に抵抗があり、学習時に緊張することがある。 ・3年程、不登校傾向にあったため、学習経験が少なく、失敗することを恐れ、行動に制限をかけてしまう。 ・自分の気持ちを言うことが少なく、また、言ったことも忘れてしまう。・活動内容を聞いただけでは、理解できない。文字や絵など視覚的な支援で内容を理解することが多い。						
	Co-MaMeの情報(参考①)	A 6 気持ちの表現(気持ちを言葉・文字に表せない)	受容期	B 3 コミュニケーションスキル(あいづちがうてない、人の話が聞けない)	受容期	F 1 睡眠・生活リズム(朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	受容期
	A 9 自信(自分に自信がない、自己肯定感が低い)	受容期	B 10 他者理解(表情や態度から気持ちが読み取れない)	受容期			
収集した情報の整理	自立活動の区分に即して整理 A心理 B社会性 C学習 D身体 E学校生活 F自己管理						
	自立活動の領域・項目 健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション ①②(3)(4)(5) (1)(2)③ ①②(3)(4) (1)(2)(3)(4)(5) (1)(2)(3)(4)(5) (1)(2)(3)(4)⑤						
	<収集した情報の整理> ・自分の食事や時間についての意識がないため、自分では、規則正しい生活を送ることができていない。 ・学習不足や短期記憶が弱く、人に対する緊張感から他者と言葉でのコミュニケーションをとることが難しい。						

2)課題(参考②)	・起床時間、就寝時間が定まらず、生活リズムが整わない。 ・はじめてのことや、自分でできないと判断すると、活動しようとしな。また、教師や友だちに自分が経験したことや気持ちを伝えようとしな。
-----------	--

3)ねらい(参考③)	・シートに起床時間や就寝時間、朝ごはんなどを記入して、把握できるようにする。 ・安心できる人間関係や活動の中で、視覚的支援を使いながら自分の気持ちを表出する。
------------	--

4)具体的な指導内容の選定

必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 ①②(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)③	人間関係の形成 ①②(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)⑤
具体的な指導内容(参考④)	○自分の生活リズムを把握する。 ・「生活チェックシート」を作成し、就寝時間、起床時間、朝ごはんなどをチェックしつつ、教師との会話を通して、一緒に生活リズムを考える時間を作った。					
	○自分が経験したことを表示する。 ・自分の言ったことをすぐに忘れてしまうなど、短期記憶が難しいので、教師がメモ書をしたり、iPadのメモ機能のボイス録音を利用して気持ちを文字で残すように支援した。 ・記録したメモを参考に、作文や読書感想文を作成し、それを見ながら原稿用紙に手書きで清書するようにした。		○自分の気持ちを友だちに伝える。 ・本人が想像している答えに対して、自分でヒントを考え、友だちに伝えて、友だちが答えるゲーム、「びったんばらばら」ゲームを通して学習をした。 ・文字やイラストなどの視覚的支援を使ったり、答えが一致しやすい問題を用意したりすることで、友だちno答えやヒントを考えられるようにした。 ・考えたヒントは、忘れないように答えのボードに書くようにした。			
	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 F 1 睡眠・生活リズム(朝起きられず遅刻してしまうことが多い)(受容期)		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 A 6 気持ちの表現(気持ちを言葉・文字に表せない)(受容期) A 9 自信(自分に自信がない、自己肯定感が低い)(受容期)		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 A 9 自信(自分に自信がない、自己肯定感が低い)(受容期) B 3 コミュニケーションスキル(あいづちがうてない、人の話が聞けない)(受容期) B 10 他者理解(表情や態度から気持ちが読み取れない)(受容期)	

成果と課題(参考⑤、⑥)

成果	・自分の生活リズムを知ることで、就寝時間を決めて寝るなど、生活リズムを整えようとする姿がみられた。また、早起きをする日数が増え、体を動かすことが増えてくると、空腹を訴える日が増え、食欲がでて、給食での好き嫌いがなくなり、体力もついてきた。 ・iPadを活用することで、自分の気持ちを整理したり、文字を書くことに対する抵抗感が減った。 ・「できた」ことを経験することで、はじめてのことにも挑戦しようという気持ちが持てるようになってきた。 ・「びったんばらばら」ゲームを通して、①自分がヒントを考えやすい答えにする。②友だちが知っているものを答えにする。③分からない解答は、「びったん」か「ばらばら」のどちらかをみんなで考えて話し合う。など、自分の考えを調整したり、友だちの意見を聞いて考えをまとめる姿がみられた。設定授業以外の日常の中でも、友だちの意見に対しての自分の考えや気持ちを他者に伝える場面が増えてきた。
課題	・自分の生活のリズムを意識して過ごせるようになってきたが、朝からの登校は難しい。毎日朝から登校できるように支援する。 ・教師が支援をしないと自分からメモをとる姿が見られないので、自分からiPadやメモ帳を活用して記録を残せるように支援する。 ・クラスの友だちには話せるようになってきたが、人数が限られているので、より多くの相手に伝える喜びを味わえるようにする。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮（Co-MaMe） アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

（教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別的教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 2023年 5月 9日（火）

2回目 2024年 1月 24日（水）

小	・ 中 ・ 高	1	・ 2	・ 3	・ 4	・ 5	・ 6	年	障害名（病名） <small>（精神疾患・心身症等の障害名（病名））</small>	複雑性心理外傷後ストレス障害、情緒障害、 自閉スペクトラム障害、学習障害	
教育課程		準ずる教育課程		・ 準ずる教育内容（下学年適用） ・				知的障がいの教育課程（知的代替）		自立活動を主とする教育課程	

心理		1回目	2回目
A 1	不安・悩み <small>（不安が強い、悩みが頭から離れない）</small>	○	○
A 2	感情のコントロール <small>（気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう）</small>	◎	○
A 3	こだわり <small>（一つのことにこだわると他のことが考えられない）</small>		
A 4	意欲・気力 <small>（目標が持てない、やる気がおきない）</small>		
A 5	自己理解 <small>（何が辛いのか自分でもわからない）</small>		
A 6	気持ちの表現 <small>（気持ちを言葉・文字に表せない）</small>	○	○
A 7	情緒の安定 <small>（嫌なことを思い出してしまう、イライラする）</small>	◎	○
A 8	気分の変動 <small>（気分の浮き沈みがある）</small>		
A 9	自信 <small>（自分に自信がない、自己肯定感が低い）</small>	○	○

社会性		1回目	2回目
B 1	集団活動 <small>（集団の中にいると疲れる、ルールに従えない）</small>	◎	◎
B 2	社会のルールを理解 <small>（学校や社会の規則が守れない、自分で変更する）</small>	◎	◎
B 3	コミュニケーションスキル <small>（あいづちがうてない、人の話が聞けない）</small>		
B 4	同年代との関係 <small>（相手のことを考えた言動ができずトラブルになる）</small>	○	○
B 5	家族との関係 <small>（家族との関係がうまくいかない）</small>	○	○
B 6	教師との関係 <small>（教師を信用しない、教師とのトラブル）</small>	○	○
B 7	異性との関係 <small>（異性との関係がうまくいかない）</small>		
B 8	他者への信用 <small>（人が信用できない、人と関わりたくない）</small>		
B 9	他者への相談 <small>（困った時に相談できない）</small>	○	○
B 10	他者理解 <small>（表情や態度から気持ちが読み取れない）</small>		

学習		1回目	2回目
C 1	学習状況 <small>（勉強の仕方がわからない）</small>		
C 2	処理能力 <small>（書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない）</small>	○	○
C 3	聞き取り・理解力 <small>（話を聞いても理解できない、指示内容がわからない）</small>		
C 4	読み・書き <small>（文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない）</small>	◎	◎
C 5	記憶力 <small>（すぐに忘れてしまう）</small>		
C 6	注意・集中 <small>（集中が続かない、気が散って集中できない）</small>		
C 7	学習への意識 <small>（嫌いな教科に出たくない）</small>		
C 8	経験 <small>（生活経験が低い）</small>	○	○

身体		1回目	2回目
D 1	身体状況・体調 <small>（お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる）</small>		
D 2	巧緻性 <small>（手先を使って操作することが指示通りできない）</small>		
D 3	動作・体力 <small>（体力がない、動きがはやくできない）</small>		
D 4	多動性 <small>（じっとしてられない、待てない）</small>	○	○
D 5	感覚過敏 <small>（においに敏感、大きな声が嫌）</small>		

学校生活		1回目	2回目
E 1	見通し <small>（予定の変更が受け入れられない）</small>		
E 2	物の管理 <small>（忘れ物が多い、物をなくしてしまう）</small>		
E 3	登校・入室への抵抗感 <small>（学校へ行きたくない、教室には入れない）</small>		

自己管理		1回目	2回目
F 1	睡眠・生活リズム <small>（朝起きられず遅刻してしまうことが多い）</small>		
F 2	食事 <small>（給食が食べられない、外食ができない）</small>		
F 3	服薬 <small>（薬が手放せない、薬の管理が面倒）</small>		
F 4	病気の理解 <small>（自分自身の病状を理解していない）</small>	○	○
F 5	ストレスへの対処 <small>（ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい）</small>	○	○

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目 (◎) を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果 (児童生徒の変容) を項目別に記載してください。

小・中・高	1・2・3・4・5・ 6 年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	複雑性心理外傷後ストレス障害、情緒障害、自閉スペクトラム障害、学習障害
教育課程	準ずる教育課程・ 準ずる教育内容(下学年適用) ・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程		

①実態把握 (プルダウンメニューから項目を選択)	A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)	試行期	A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	試行期	A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)	試行期
	B1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)	試行期	B2 社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)	試行期	B4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)	試行期
	C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)	試行期				

②課題
・気分の変動が激しく、日によって、時間によって、できることとできないことの差がみられる。
・暴言や暴力が出ることはまだみられるもの、以前に比べ衝動性は少なくなっており無理やり要求を押し通すということも減ってきている。
・集団活動への参加はまだ緊張感が高く、わざと大きく自分を見せたり、反発的な態度をとったり防衛的になったりすることがある。
・読み書きに困難さがみられる。2文以上の文章になると、読む時に単語をまとまりとしてとらえることが難しい。

③支援・配慮等のねらい
・自分の気持ちを落ち着かせるための手段や方法を身に付け、安定的な生活が送れるように支援する。
・集団活動のルールを守り、友達と良好な関係を築くことができるように支援する。
・苦手な学習でも継続して毎回の学習活動に向かえるように支援をする。

④具体的な支援の手立て: ①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入

A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
・生活、学習の流れを書いたものを板書したり、机の上に置いて確認する。 ・イライラする出来事を振り返り、まず共感して受け止め、その後新しい視点や考え方を伝えていく。 ・気持ちが高まってしまったり、イライラしてしまったりした際、今まで培ってきたクールダウンの方法(深呼吸、一度離れて気持ちを落ち着かせる等)を思い出させ、気持ちを安定できるように声掛けを行っていく。	・確認したルールを視覚化して掲示する。 ・事例を伝えながら、ルールについての意識を高めていく。 ・行動について理由を聞く等、行動を振り返る。 ・活動前にルールを確認し、相談しながら活動ができるようになる。 ・友達との気持ちや意見を伝え合う場面を設定する。 ・集団に参加することにに対して不安を感じる場合、事前にどのようにすれば参加できるか教師と一緒に考える。 ・授業の様子や思ったことなど気持ちの振り返りをする時間をとる。	・この時間で学習する内容をプリントを事前に示すなど、視覚的に見通しをもてるようにする。 ・目標を明確にし、トークンを活用しながら達成感をもたせる。 ・学習内容を細分化し、短時間でも継続して学習活動に向かう習慣を身に付けさせる。 ・ワークシートのファイリングや教科書の学習したページに付箋を貼るなど成果を視覚的にも捉えられるようにする。 ・教師と相談をしながら、できないことや苦手な理由を整理し、共感をしながら、どのようにすればできるようになるか一緒に考えていく。	・授業のパターンを一定にし、活動の順序を細かく伝える。 ・感情が抑えられなかったときや着席して学習できなかった時には、改善点等を丁寧に振り返る。 ・待たせた時や穏やかに過ぎた時には、大いにほめる。 ・成功した時は、細かく丁寧にほめ、自信をもって取り組めるようにする。	・プリント等、机上の物を整理して、しまう時間を保障する。 ・必要な物をどこにしまうか等、相談しながら一緒に整理する。また、本人の物と教師の物など、整理する場所は明確にする。	・時間や予定を意識させる。 ・自分の特徴や状況を理解する。

⑤教育的ニーズの変容 (①~④の支援後に記入)	A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)	安定期	A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	安定期	A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)	安定期
	B1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)	受容期	B2 社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)	試行期	B4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)	試行期
	C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)	試行期				

⑥具体的な支援の効果 (⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)

A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
・生活の流れや学習内容を視覚化したことで、見通しをもてるようになり、安心して学習に取り組むことができるようになってきた。 ・イライラする出来事の共感と新しい視点や感情の気付きを伝えたことで、自分の感情を理解するきっかけをつくることができた。また、問題解決のスキルも磨くことができた。 ・ストレスや怒りを管理する方法(深呼吸や一時的な離脱などのテクニック)を身に付けることができた。それによって、以前に比べ気持ちの切り替えが早くなり、感情をコントロールし、落ち着けるようになってきた。	・確認したルールを視覚化して掲示したことで、理解し、覚えやすくなる一方で、掲示することが罰的な捉え方をする場合もあり、状況に応じて使い分けのことは行った。 ・行動を振り返ることで、行動の理由を考え、自己認知能力と表現のスキルを伸ばすことができた。 ・活動前に相談しながらルールを確認したことで、ルールを守ることの重要性を理解し、活動に生かすことができた。 ・友達との気持ちや意見を伝え合う場面を設定したことで、他人の視点に気付くことができ、自分の感情や意見を表現する能力を高めることができた。 ・集団に参加することにに対して事前にどのようにすれば参加できるか教師と一緒に考えた。パーティションを立て、疲れた時は休めるスペースを作った。そうしたことで、授業中での飛び出し行為はなくなった。	・学習内容やプリントを事前に示したことで、学習の見通しを持つことができた。 ・目標設定とトークンを活用したことで、学習へのモチベーションを高めることができた。 ・学習内容を細分化したことで、無理なく継続して学習に取り組む習慣を身に付けることができた。「自分ならでき」といった自己効力感を高めることができた。 ・ワークシートのファイリングや教科書の学習したページに付箋を貼ったことで、自分が今何を学び、どのように進めたいかを理解し、達成感をもてるようになった。	・授業のパターンを一定にしたことで、安心して授業に取り組める環境を作り出すことができた。 ・学習に取り組むことができた。 ・振り返りの活動を行ったことで、自己の行動を見直し、行動を改善するための改善案について教師と一緒に考えることができた。逆に、うまくできた行動などは褒めたことで、自分にとって何をすることでよりポジティブな感覚になれるかを知ることにもつながった。	・プリント等、机上の物を整理して、しまう時間を保障することで、次の授業に向けて気持ちを切り替えることができることが多く見られた。 ・自他の区別がつきにくい児童ではあるが、良いものと悪いものについて教員間で共通確認をしたり、児童と相談しながら一緒に整理をしたことで、物の取り扱いについて意識できるようになってきたりしている。また、これにより他人のスペースを尊重することを学ぶことができていた。	・時間や予定を意識させたことで、チャイムがなると着席ができた、他の活動に向けて調整をしたりすることができるようになってきた。 ・振り返りや絵本作り、教師や友達との交流を通して、自分の特徴や状況、長所や短所について考え自己理解を深めることができた。

自立活動 事例シート

小・中・高	1・2・3・4・5・6	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	複雑性心理外傷後ストレス障害、情緒障害、自閉スペクトラム障害、学習障害
教育課程	準ずる教育課程	準ずる教育内容(下学年適用)	知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程

*①～⑥はシート「2整理・変容シート」の項目

1)実態把握						
収集した情報	<p><収集した情報></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりのイメージもてる作業的な内容は、集中して落ち着いて取り組むことができる。 ・失敗や間違いを嫌う傾向にあり、自分ができなそうと思ってしまうと初めから拒否する。 ・どうしてもそのような行動になったのか、行動の振り返りを教師とともに進めることができる。 ・未学習や学習の遅れがみられる一方で、興味のある事柄について深い知識があることもある。 ・読み書きに困難さがみられ、拒否感も大きい。読む時に単語のまとまりをとらえられることが増えてきた。教師が読み上げると内容がわかる。 ・理科の実験等の興味、関心が向いたことに対しては、意欲的に取り組むことができる。 ・日常生活動作については、特に問題はない。幼児期の経験が少なく時間がかかるものもある。 ・はさみを使っての制作や折り紙を好んで行う。 ・運動能力が高く、興味に向いた運動は、習得のための努力をすることができる。 ・友達と遊びたい気持ちはあるが、自分主導でマイルールを作りがちで、相手が理解できていないことに気付けないため、教師の介入が必要なことが多い。 ・かかわってほしいことを伝える手段や語彙が少ない。 					
Co-MaMeの情報(参考①)	A 7 情緒の安定(嫌なことを思い出してしまう、イライラする)	試行期	A 2 感情のコントロール(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	試行期	A 1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない)	試行期
	B 1 集団活動(集団の中に入ると疲れる、ルールに従えない)	試行期	B 2 社会のルールの理解(学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)	試行期	B 4 同年代との関係(相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)	試行期
	C 4 読み・書き(文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)	試行期				
自立活動の区分に即して整理	A心理	B社会性	C学習	D身体	E学校生活	F自己管理
自立活動の領域・項目	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)
収集した情報の整理	<p><収集した情報の整理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・気分の変動が激しく、日によって、時間によって、できることできないことの差がみられる。 ・暴言や暴力が出ることはまだみられるものの、以前に比べ衝動性は少なくなっており無理やり要求を押し通すということも減ってきている。 ・「自分ルール」を作って負けないようにすることが少なくなり、負けも認められるようになってきている。 ・集団活動への参加はまだ緊張感が高く、わざと大きく自分を見せたり、反発的な態度をとったり防衛的になったりすることがある。一方で、参加できるように本人なりに妥協したり、解決策を考えたりする場面も見られている。 ・読み書きに困難さがみられる。2文以上の文章になると、読む時に単語をまとまりとしてとらえられることが難しい。 					

2)課題(参考②)	<ul style="list-style-type: none"> ・気分の変動が激しく、日によって、時間によって、できることできないことの差がみられる。 ・暴言や暴力が出ることはまだみられるものの、以前に比べ衝動性は少なくなっており、無理やり要求を押し通すということも減ってきている。 ・集団活動への参加はまだ緊張感が高く、わざと大きく自分を見せたり、反発的な態度をとったり防衛的になったりすることがある。 ・読み書きに困難さがみられる。2文以上の文章になると、読む時に単語をまとまりとしてとらえることが難しい。
-----------	--

3)ねらい(参考③)	<ul style="list-style-type: none"> ・学んできた方法や経験を活かし、気持ちを落ち着かせ、折り合いを付けられるように支援をしていく。 ・集団活動でのルールを理解し、友達との関わり方を学べるように支援していく。 ・苦手なことや不安で活動が難しい場合でも、大人と相談をしながら短時間でも継続して毎回の学習に取り組むことで、達成感をもてるように支援する。
------------	---

4)具体的な指導内容の選定						
必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)
具体的な指導内容(参考④)	<p>・絵本の読み聞かせや絵本作りを通して、語彙を増やしたり、言葉での表現方法を広げたりする。</p>		<p>・安心できる環境の中で、1日の出来事や週の活動のよかったことやよくなかったことについて、ふりかえりを行う。</p> <p>・心情を言語化し、本人が抱え込んでしまう気持ちを共感したり、また客観的に伝えたりすることで内なる気持ちに引き合わせるようにする。</p> <p>・気持ちが高まってしまった時、自分の気持ちを落ち着かせるために身に付けた方法について思い出し、実践していく。</p> <p>・ゲームを通して、人のかかわり方や接し方を学んでいく。</p>		<p>・教師と一緒に活動に取り組んだり、課題に取り組んだりして、一緒だからよかった、できたという経験を積む。</p> <p>・苦手になった理由を整理し、どのようにすれば出来るようになるか一緒に考えて行っていく。</p> <p>・本人の思いを聞くとともに、教師の思いや考えをわかるように伝える。その中で話し合いで折り合いをつけられるようにしていく。</p> <p>・集団への参加について、参加の仕方や落ち着く方法について教師と一緒に考えて取り組む。</p> <p>・活動前にルールを確認し、終わった後は振り返りをするなどルールを守る経験を積む。</p>	
	<p>【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 (支援の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な感情や表現の仕方について提示する。 ・物語を作りながら、言葉の表現力を広げていく。 <p>(支援の時期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試行期 		<p>【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 (支援の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イライラする出来事を振り返り、まず共感し、その後新しい視点や考え方を伝えていく。 ・気持ちが高まってしまったり、イライラしてしまったりした際、今まで培ってきたクールダウンの方法(深呼吸、一度離れて気持ちを落ち着かせる等)を思い出させ、気持ちを安定できるように声掛け等の支援を行っていく。 <p>(支援の時期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試行期 		<p>【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 (支援の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動前にルールを確認し、相談しながら活動ができるようにする。 ・友達との気持ちや意見を伝え合う場面を設定する。 ・集団に参加することに対して不安を感じる場合、事前にどのようにすれば参加できるか教師と一緒に考える。 <p>(支援の時期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試行期 	

成果と課題(参考⑤、⑥)	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本作りや遊びの活動、友達との気持ちや意見を伝え合う場面を設定したことで、新しい視点や感情の気付きを伝えることができ、自分の感情や意見を表現する能力が高めることができた。同時に、言語能力が伸びたことで、コミュニケーションスキルが身に付き、以前のような「怒り」だけで表現することが減ってきた。また、ストレスや怒りなどを調整する方法を身に付け、以前に比べ気持ちの切り替えが早くなり、感情をコントロールし、落ち着けるようになった。以上のように、多様な方法で自己理解や自己効力感を高めることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールの順守：提示することが罰的な捉え方をする場合もあり、状況に応じて適切な提示や提案の方法で伝えていく。 ・集団活動への参加：集団に対する不安感はまだ強い。背景として学習に対する不安感や自信のなさ、自己肯定感の低さが考えられる。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮（Co-MaMe） アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

（教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 2023年 4月 24日（月）

2回目 2023年 10月 23日（月）

小・ 中 ・高	1・ 2 ・3・4・5・6年	障害名（病名） <small>（精神疾患・心身症等の障害名（病名））</small>	適応障害、自閉スペクトラム、ADHD
教育課程	進ずる教育課程	準ずる教育内容（下学年適用）	知的障がい教育課程（知的代替） ・ 自立活動を主とする教育課程

心理	1回目	2回目
A 1 不安・悩み <small>（不安が強い、悩みが頭から離れない）</small>	○	
A 2 感情のコントロール <small>（気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう）</small>		
A 3 こだわり <small>（一つのことにとこだわると他のことが考えられない）</small>		
A 4 意欲・気力 <small>（目標が持てない、やる気がおきない）</small>		
A 5 自己理解 <small>（何が辛いのか自分でもわからない）</small>		
A 6 気持ちの表現 <small>（気持ちを言葉・文字に表せない）</small>	○	○
A 7 情緒の安定 <small>（嫌なことを思い出してしまう、イライラする）</small>	○	
A 8 気分の変動 <small>（気分の浮き沈みがある）</small>		
A 9 自信 <small>（自分に自信がない、自己肯定感が低い）</small>	○	○

社会性	1回目	2回目
B 1 集団活動 <small>（集団の中にいると疲れる、ルールに従えない）</small>		
B 2 社会のルールの理解 <small>（学校や社会の規則が守れない、自分で変更する）</small>		
B 3 コミュニケーションスキル <small>（あいづちがうてない、人の話が聞けない）</small>		
B 4 同年代との関係 <small>（相手のことを考えた言動ができずトラブルになる）</small>		
B 5 家族との関係 <small>（家族との関係がうまくいかない）</small>		
B 6 教師との関係 <small>（教師を信用しない、教師とのトラブル）</small>		
B 7 異性との関係 <small>（異性との関係がうまくいかない）</small>		
B 8 他者への信用 <small>（人が信用できない、人と関わりたくない）</small>		
B 9 他者への相談 <small>（困った時に相談できない）</small>	○	
B 10 他者理解 <small>（表情や態度から気持ちが読み取れない）</small>		

学習	1回目	2回目
C 1 学習状況 <small>（勉強の仕方がわからない）</small>		
C 2 処理能力 <small>（書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない）</small>	○	○
C 3 聞き取り・理解力 <small>（話を聞いても理解できない、指示内容がわからない）</small>		
C 4 読み・書き <small>（文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない）</small>		
C 5 記憶力 <small>（すぐに忘れてしまう）</small>	○	○
C 6 注意・集中 <small>（集中が続かない、気が散って集中できない）</small>		
C 7 学習への意識 <small>（嫌いな教科に出たくない）</small>	○	○
C 8 経験 <small>（生活経験が低い）</small>	◎	◎

身体	1回目	2回目
D 1 身体状況・体調 <small>（お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる）</small>		
D 2 巧緻性 <small>（手先を使って操作することが指示通りできない）</small>		
D 3 動作・体力 <small>（体力がない、動きがはやくできない）</small>	○	○
D 4 多動性 <small>（じっとしてられない、待てない）</small>		
D 5 感覚過敏 <small>（においに敏感、大きな声が嫌）</small>	○	○

学校生活	1回目	2回目
E 1 見通し <small>（予定の変更が受け入れられない）</small>		
E 2 物の管理 <small>（忘れ物が多い、物をなくしてしまう）</small>	○	
E 3 登校・入室への抵抗感 <small>（学校へ行きたくない、教室には入れない）</small>	◎	

自己管理	1回目	2回目
F 1 睡眠・生活リズム <small>（朝起きられず遅刻してしまうことが多い）</small>	○	○
F 2 食事 <small>（給食が食べられない、外食ができない）</small>	◎	
F 3 服薬 <small>（薬が手放せない、薬の管理が面倒）</small>		
F 4 病気の理解 <small>（自分自身の病状を理解していない）</small>	○	○
F 5 ストレスへの対処 <small>（ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい）</small>	○	◎

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目 (◎) を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果 (児童生徒の変容) を項目別に記載してください。

小・◎・高	1・◎・3・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	適応障害、自閉スペクトラム、ADHD
教育課程	準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がい教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程		

①実態把握 <small>(プルダウンメニューから項目を選択)</small>	C 8 経験(生活経験が低い)	試行期	E 3 登校・入室への抵抗感(学校へ行きたくない、教室には入れない)	試行期	F 2 食事(給食が食べられない、外食ができない)	試行期
②課題	A 6 自分の気持ちや考えを整理して言葉や文字で表現することが苦手である。教師に嫌なことを伝えられず、家庭でイライラして乱暴な言動が見られることがある。 A 1、A 9、C 8 見通しがもてないことに不安が強く、日常・社会生活における経験の不足、学校で過ごす時間が短いことによる学習経験の不足から自信がもてず積極的な言動があまり見られない。 E 3、F 5 苦手意識のある活動や教科があったり、ストレスがたまったりと登校意欲が低下し、欠席が増える。学校での滞在時間が1～3時間で6時間目まで過ごす日がほとんどない。 F 1 母親が何度も声を掛けても起きなかつたり、起きていても部屋から出て来なかつたり、トイレに時間が掛かったりしてほぼ毎日遅刻し、登校が11時を過ぎることがある。 F 2 キノコ類やエビ・貝等の魚介類等苦手な食材や食感のものが、給食を食べずに下校する日がほとんどである。慣れない場所や人が多く賑やかな場所が苦手な外食もほとんどしない。					
③支援・配慮等のねらい	○見通しをもたせる。 ○生活経験や社会経験、学習経験を積ませる。(相談しながら行えるようにする。) ○安心して考えや気持ちを表現できるように信頼関係を築き、スモールステップで取り組ませる。努力している時、できた時には称賛する。 ○視覚的な支援を行う。					
④具体的な支援の手立て: ①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
・できていることをほめ、否定的な言葉を使わずに接する。 ・日程や活動内容を板書等で視覚的に示し、初めてのことや行事の事前学習を入念に行う。 ・気持ちを発散したり、思いを伝えられるような雰囲気作りと場の設定を行う。	・苦手なことや困りそうなことは、事前に個別に取り組んだり、相談して不安感を減らす。(朝の会や帰りの会、学級活動、自立活動の時間を活用する。)	・見る、聞く、書く、考える活動を分けて行い、ワークシート等を活用して書く量を減らす。 ・記入や音読する場所等の指示は短く、明確に行う。 ・活動中や活動後に称賛し、自信や達成感をもたせる。	・大きな声や音に対する対処方法を相談し、必要に応じて活動の時間帯や場所を変更する。	・自立活動の時間や休み時間に興味・関心のある活動や内容を取り入れる。	・自分で就寝・起床時刻を決めさせ朝の会で確認する。5分でも改善が見られたときは称賛する。 ・朝の会で給食の献立と一緒に見ながら、食べられない食材や減らしてほしい食材等を確認する。(給食中も無理せず残してよいことを伝え、完食できた時は称賛する。)	

⑤教育的ニーズの変容 <small>(①～④の支援後に記入)</small>	C 8 経験(生活経験が低い)	安定期	F 5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから離れたい)	受容期		

⑥具体的な支援の効果(⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
・成長が感じられることや努力していることを日常的に伝えることで、学校では奇立った様子は見られなくなり学校で過ごす時間が長くなった。 ・カレンダーや一週間の学習予定表の活用等を通して落ち着いて学校生活を過ごしている。	・宿泊学習に向け、自立活動の時間を活用して入念に事前学習を行ったり、家庭と連携したりすることで初めて宿泊行事に全日程参加することができた。			・心理的な安定を図った上で、自立活動の時間に興味・関心のある「鉄道」を題材にしたすごろく作りをしたり、昼休みに他のクラスの生徒とゲームをして楽しく過ごす時間を設定したりすることが登校意欲につながったように思う。	・朝の会で就寝・起床時刻を確認・記録し、少しでも早くなった時は称賛したり、短期目標を設定したりすることで起床時刻が早くなってきた。 ・朝の会で給食の量等について確認し、食べたことを称賛することで食べる日が徐々に増え、2学期には毎日食べることができるようになった。	

自立活動 事例シート

小・ 中 ・高	1・ 2 ・3・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	適応障害、自閉スペクトラム、ADHD
教育課程	①～⑥はシート「2整理・変更シート」の項目 ①～⑥はシート「2整理・変更シート」の項目 ①～⑥はシート「2整理・変更シート」の項目		

*①～⑥はシート「2整理・変更シート」の項目

1)実態把握

収集した情報	<収集した情報> A6自分の気持ちや考えを整理して言葉や文字で表現することが苦手である。教師に嫌なことを伝えられず、家庭でイライラして乱暴な言動が見られることがある。 A1、A9、C8見通しがもてないことに不安が強く、日常・社会生活における経験の不足、学校で過ごす時間が短いことによる学習経験の不足から自信がもてず積極的な言動があまり見られない。 E3、F5苦手意識のある活動や教科があったり、ストレスがたまったりすると登校意欲が低下し、欠席が増える。学校での滞在時間は1～3時間で、6時間目まで過ごす日はほとんどない。 F1母親が何度も声を掛けても起きなかったり、起きていても部屋から出て来なかったり、トイレに時間が掛かってしてほぼ毎日遅刻し、登校が11時を過ぎることがある。 F2キノコ類やエビ・貝等の魚介類等苦手な食材や食感のものがあ、給食を食べずに1～3時間で下校する日がほとんどである。慣れていない場所や人が多く賑やかな場所が苦手な外食もほとんどない。						
	Co-MaMeの情報(参考①)	C8 経験(生活経験が低い)	試行期	E3 登校・入室への拒絶感(学校へ行きたくない、教室には入れない)	試行期	F2 食事(給食が食べられない、外食ができない)	
収集した情報の整理	自立活動の区分に即して整理	A心理	B社会性	C学習	D身体	E学校生活	F自己管理
	自立活動の領域・項目	健康の保持 ①(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 ①(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き ①(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)

2)課題(参考②)	A6自分の気持ちや考えを整理して言葉や文字で表現することが苦手である。教師に嫌なことを伝えられず、家庭でイライラして乱暴な言動が見られることがある。 A1、A9、C8見通しがもてないことに不安が強く、日常・社会生活における経験の不足、学校で過ごす時間が短いことによる学習経験の不足から自信がもてず積極的な言動があまり見られない。 E3、F5苦手意識のある活動や教科があったり、ストレスがたまったりすると登校意欲が低下する。給食を食べずに1～3時間学校で過ごして下校する日が多い。
-----------	---

3)ねらい(参考③)	○見通しをもたせる。 ○生活経験や社会経験、学習経験を積ませる。(相談しながら行えるようにする。) ○安心して考えや気持ちを表現できるように信頼関係を築き、スモールステップで取り組ませる。努力している時、できた時には称賛する。 ○視覚的な支援を行う。
------------	--

4)具体的な指導内容の選定

必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 ①(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 ①(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)
具体的な指導内容(参考④)	・自分で就寝・起床時刻を決めさせ朝の会で確認する。5分でも改善が見られたときは称賛する。 ・朝の会で給食の献立を一緒に見ながら、食べられない食材や減らしてほしい食材等を確認する。(給食中も無理せず残してよいことを伝え、完食できた時は称賛する。)	・見通しをもって安心して過ごせるよう日程や活動内容を板書等で視覚的に示し、活動場所や予定の変更も分かりやすいようにする。	 ・初めてのことや行事の事前学習を入念に行う。考えを整理して表現したり、決断したりすることに時間を要するため、予定は可能な限り早めに伝える。 ・できていることをほめ、否定的な言葉を使わずに接する。	・自立活動の時間や休み時間に興味・関心のある活動や内容を取り入れる。(興味・関心のある「鉄道」を題材にしたすごろくを作成し、他のクラスの生徒を誘って楽しめるようにする。)		
	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】	・通年 ・朝の会、帰りの会 ・給食の時間	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 ・通年 ・朝の会、帰りの会 ・自立活動の時間 ・学校生活全般	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 ・通年 ・自立活動の時間 ・昼休み		

成果と課題(参考⑤、⑥)

成果	・起床時刻が少しずつ早くなり8時前に起きることができるようになった。給食を食べる日が徐々に増え、2学期には毎日食べることができるようになった。 ・成長が感じられることや努力していることを日常的に伝えることで、学校では荷立った様子は見られなくなり学校で過ごす時間が4～5時間と長くなった。
課題	・宿泊学習に向け、自立活動の時間を活用して入念に事前学習を行ったり、家庭と連携したりすることで初めて宿泊行事に全日程参加することができた。 ・宿泊行事に初めて参加し、生活・社会経験を積むことができた。引き続き経験を積み重ねることで自信を付けることが課題である。 ・苦手意識の強い体育の授業に参加し、運動・動作の基本技術を身に付けるとともに体力の向上を図ることが課題である。 ・結びや調理等、日常生活や作業に必要な技術を身に付け、高めることも課題である。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

(教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 5年 6月 2日 (金)
2回目 6年 1月 9日 (火)

小	● 中	高	1	● 2	3	4	5	6	年	障害名 (病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名 (病名))</small>	適応障害、不安障害、自閉症・情緒障害					
教育課程			準ずる教育課程							準ずる教育内容 (下学年適用)			知的障がい教育課程 (知的代替)		自立活動を主とする教育課程	

心理		1回目	2回目
A 1	不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)		
A 2	感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	○	○
A 3	こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない)	○	○
A 4	意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない)	○	○
A 5	自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない)	○	○
A 6	気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)		
A 7	情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)	○	○
A 8	気分の変動 (気分の浮き沈みがある)	○	○
A 9	自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い)	○	

社会性		1回目	2回目
B 1	集団活動 (集団の中に入ると疲れる、ルールに従えない)	○	◎
B 2	社会のルール理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)	○	○
B 3	コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)		
B 4	同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)	◎	○
B 5	家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)	○	○
B 6	教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル)		
B 7	異性との関係 (異性との関係がうまくいかない)		
B 8	他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない)	○	○
B 9	他者への相談 (困った時に相談できない)	◎	◎
B 10	他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない)	◎	◎

学習		1回目	2回目
C 1	学習状況 (勉強の仕方がわからない)		
C 2	処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)	○	○
C 3	聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない)		
C 4	読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)	○	○
C 5	記憶力 (すぐに忘れてしまう)	○	○
C 6	注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)	○	○
C 7	学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)		
C 8	経験 (生活経験が低い)	○	○

身体		1回目	2回目
D 1	身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)		
D 2	巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない)	○	○
D 3	動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)	○	○
D 4	多動性 (じっとしていられない、待てない)	○	○
D 5	感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌)	○	○

学校生活		1回目	2回目
E 1	見通し (予定の変更が受け入れられない)		
E 2	物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう)	○	○
E 3	登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室には入れない)		

自己管理		1回目	2回目
F 1	睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	○	○
F 2	食事 (給食が食べられない、外食ができない)	○	○
F 3	服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒)		
F 4	病気の理解 (自分自身の病状を理解していない)	○	○
F 5	ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	○	○

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目 (◎) を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果(児童生徒の変容)を項目別に記載してください。

小	◎ 中	高	1	◎ 2	3	4	5	6	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	適応障害、不安障害、自閉症・情緒障害
教育課程			◎ 準ずる教育課程			準ずる教育内容(下学年適用)			知的障がいの教育課程(知的代替)	自立活動を主とする教育課程

①実態把握 (プルダウンメニューから項目を選択)	B 4 同年代との関係(相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)	受容期	B 9 他者への相談(困った時に相談できない)	受容期	B 10 他者理解(表情や態度から気持ちが読み取れない)	受容期
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の趣味が話題の中心になり、広がりが無い。(B4) ・自分の考えを一方向的に話すことが多い。(B4、B10) ・周囲の状況を考えない言動がある。(B1、B4) ・自分の心情を伝えられず、不機嫌になり、横柄な態度が多くなる。(B9) ・困っていることの相談の仕方が分からない。(A6、B9) 					
③支援・配慮等のねらい	<p>〈B4〉多様な考えがあることを理解し、自分の言動について振り返って考える。</p> <p>〈B9〉困りそうなことを事前に学習し、相談の仕方を学び、不安を伝えられるようになる。</p> <p>〈B10〉適切な感情の持ち方、行動や発言の仕方、他者との距離の取り方について知る。</p>					
④具体的な支援の手立て: ①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
	<ul style="list-style-type: none"> ・表情や態度の変化などで教師が早めに気づき、個別の声掛けをして相談する。 ・他者にはいろいろな考えや感情があることを状況に応じて知らせる。 ・不適切な発言、行動については、その場でより適切な行動等をアドバイスをする。 					



⑤教育的ニーズの変容 (①～④の支援後に記入)	B 4 同年代との関係(相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)	受容期	B 9 他者への相談(困った時に相談できない)	受容期	B 10 他者理解(表情や態度から気持ちが読み取れない)	受容期

⑥具体的な支援の効果(⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ学部の友達に対して、相手を思いやる発言をするが増えた。 ・関わりの少ない集団に入ることへの不安は強いままであり、不安感を身近な人に伝えて、個別の教育的支援を受け止めて、回避する状態である。 ・困りそうなことを事前に、伝えられるようになった。 ・準備ができていないことに関しては、対処ができず、担任に対して友達言葉になるなど口調が強くなることもある。 					

自立活動 事例シート

小・ 中 ・高	1・ 2 ・3・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	適応障害、不安障害、自閉症・情緒障害
教育課程	準ずる教育課程	準ずる教育内容(下学年適用)	知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程

*①～⑥はシート「2整理・変容シート」の項目

		1)実態把握					
収集した情報	<収集した情報>	・自分の苦手さを理解できていない。(A5) ・自分本位の受け取り方をする。(B3) ・人と関わることは好きである。(B1) (B4) ・過去に失敗したことに関しては、自信がもてない。(A9) ・一方的に話すことがある。(B3) ・後輩に対して優しい声掛けをしたり、アドバイスをしたりする様子が見られる。(B4) ・集団の状況に合わせて行動することが苦手。(B1) ・思ったことをそのまま口にする。(B3) ・興味のあることに対しては長時間、集中して行うことができる。(C6) ・自分の気持ちを伝えることが苦手。(A6) ・他者の表情や気持ちを読み取ることが苦手。(B10) (B4)					
	Co-MaMeの 情報 (参考①)	B4 同年代との関係(相手のことを考えた言葉がでずトラブルになる)	受容期	B9 他者への相談(困った時に相談できない)	受容期	B10 他者理解(表情や態度から気持ちを読み取れない)	受容期
収集した情報の整理	自立活動の区分に即して整理	A心理	B社会性	C学習	D身体	E学校生活	F自己管理
	自立活動の領域・項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	<収集した情報の整理>	(1) (2) (3) (4) (5)	(1) (2) (3)	(1) (2) (3) (4)	(1) (2) (3) (4) (5)	(1) (2) (3) (4) (5)	(1) (2) (3) (4) (5)

高校進学を希望しており、①自己理解が十分ではなく、自分の得手不得手がまだつかめていない。②思ったことをそのまま口にしたり、一方的に話をしたりするなど、集団の状況に合わせて行動することが苦手である。③自分の気持ちを伝えることが苦手であるため、不安なことを相談できない。などが現在の課題である。

2)課題 (参考②)	中心課題を「他者の表情や気持ちを読み取ることが苦手。」と設定した。他者の表情や気持ちを読み取ることができるようになれば、集団の状況に合わせた行動ができ、人間関係を円滑に進めることができるようになるかと考える。
3)ねらい (参考③)	相手のことを考えた言葉遣いをし、同年代と良好な人間関係を築く。 人の表情から気持ちを読み取る。

		4)具体的な指導内容の選定					
必要な自立活動の項目の選定		健康の保持 (1) (2) (3) (4) (5)	心理的な安定 ① ② ③	人間関係の形成 (1) ② (3) ④	環境の把握 (1) (2) (3) (4) (5)	身体の動き (1) (2) (3) (4) (5)	コミュニケーション (1) ② (3) (4) ⑤
具体的な指導内容(参考④)	相手の気持ちや状況に合わせた言葉遣いを意識できるようにする。 ①こんなときどうする？ ②意思を伝えよう。 ③友達とのコミュニケーション ④上手な相談の仕方	いろいろな考え方や気持ちがあることを理解できるようにする。 ①自分の性格やタイプを考えよう。 ②いろいろな気持ち ③友達と好みが変わったら ④どんな気持ち？		写真やイラストを用いて、人物の表情から感情を読み取れるようにする。			
	〈こんなときどうする？〉 具体的な場面を設定し、状況に合わせて、行動や言葉遣いを変える必要があるということを理解できるようにする。	〈いろいろな気持ち〉 写真やイラストを用いて、人物の表情から感情を読み取れるようにする。					
							
	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 (B4) 受容期 (B9) 受容期 (B10) 受容期	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 (B4) 受容期 (B10) 受容期		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】			

		成果と課題 (参考⑤、⑥)
成果	・同じ学部の友達に対して、相手の思いやる発言をすることが増えた。 ・全日ではなく一単位時間の地域校交流に参加し、同学年の通常の学級の授業の見学をすることができ、授業参加への意欲をもつことができた。 ・自立活動などの授業の場面では、相手の表情から気持ちを読み取ることができた。 ・困りそうなことを事前に、伝えられるようになった。	
課題	・関わりが少ない集団に入ることへの不安は強いまであり、不安感を身近な人に伝えて、個別の教育的支援を受け止めて、回避する状態である。 ・卒業後、知らない集団に入ることへの不安から、不安定になることがあった。 ・表情の読み取りに関して、学校生活での般化は難しいため、継続して指導が必要である。 ・準備ができていないことに関しては、対処ができず、担任に対して友達言葉になるなど口調が強くなることもある。	

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮（Co-MaMe） アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

（教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別的教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 令和5年 9月 8日（金）

2回目 令和5年 11月 10日（金）

小	●	中	●	高	●	1	●	2	●	3	●	4	●	5	●	6	●	年	障害名（病名） <small>（精神疾患・心身症等の障害名（病名））</small>	適応障害																			
教育課程																				準ずる教育課程					準ずる教育内容（下学年適用）					知的障がい教育課程（知的代替）					自立活動を主とする教育課程				

心理	1回目	2回目
A 1 不安・悩み <small>（不安が強い、悩みが頭から離れない）</small>	○	○
A 2 感情のコントロール <small>（気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう）</small>		
A 3 こだわり <small>（一つのことにとこだわると他のことが考えられない）</small>	○	○
A 4 意欲・気力 <small>（目標が持てない、やる気がおきない）</small>		◎
A 5 自己理解 <small>（何が辛いのか自分でもわからない）</small>	◎	○
A 6 気持ちの表現 <small>（気持ちを言葉・文字に表せない）</small>	◎	
A 7 情緒の安定 <small>（嫌なことを思い出してしまう、イライラする）</small>		
A 8 気分の変動 <small>（気分の浮き沈みがある）</small>		
A 9 自信 <small>（自分に自信がない、自己肯定感が低い）</small>	◎	◎

社会性	1回目	2回目
B 1 集団活動 <small>（集団の中にいると疲れる、ルールに従えない）</small>	◎	◎
B 2 社会のルールの理解 <small>（学校や社会の規則が守れない、自分で変更する）</small>		
B 3 コミュニケーションスキル <small>（あいづちがうてない、人の話が聞けない）</small>		
B 4 同年代との関係 <small>（相手のことを考えた言動ができずトラブルになる）</small>		
B 5 家族との関係 <small>（家族との関係がうまくいかない）</small>		○
B 6 教師との関係 <small>（教師を信用しない、教師とのトラブル）</small>		
B 7 異性との関係 <small>（異性との関係がうまくいかない）</small>		
B 8 他者への信用 <small>（人が信用できない、人と関わりたくない）</small>	○	○
B 9 他者への相談 <small>（困った時に相談できない）</small>	○	○
B 10 他者理解 <small>（表情や態度から気持ちが読み取れない）</small>		

学習	1回目	2回目
C 1 学習状況 <small>（勉強の仕方がわからない）</small>		
C 2 処理能力 <small>（書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない）</small>		
C 3 聞き取り・理解力 <small>（話を聞いても理解できない、指示内容がわからない）</small>		
C 4 読み・書き <small>（文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない）</small>	○	○
C 5 記憶力 <small>（すぐに忘れてしまう）</small>		
C 6 注意・集中 <small>（集中が続かない、気が散って集中できない）</small>		○
C 7 学習への意識 <small>（嫌いな教科に出たくない）</small>	○	
C 8 経験 <small>（生活経験が低い）</small>		

身体	1回目	2回目
D 1 身体状況・体調 <small>（お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる）</small>	◎	○
D 2 巧緻性 <small>（手先を使って操作することが指示通りできない）</small>		
D 3 動作・体力 <small>（体力がない、動きがはやくできない）</small>		
D 4 多動性 <small>（じっとしていられない、待てない）</small>		
D 5 感覚過敏 <small>（においに敏感、大きな声が嫌）</small>		

学校生活	1回目	2回目
E 1 見通し <small>（予定の変更が受け入れられない）</small>		
E 2 物の管理 <small>（忘れ物が多い、物をなくしてしまう）</small>	○	○
E 3 登校・入室への抵抗感 <small>（学校へ行きたくない、教室には入れない）</small>		

自己管理	1回目	2回目
F 1 睡眠・生活リズム <small>（朝起きられず遅刻してしまうことが多い）</small>	○	○
F 2 食事 <small>（給食が食べられない、外食ができない）</small>		
F 3 服薬 <small>（薬を手放せない、薬の管理が面倒）</small>		
F 4 病気の理解 <small>（自分自身の病状を理解していない）</small>		
F 5 ストレスへの対処 <small>（ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい）</small>	◎	◎

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目(◎)を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果(児童生徒の変容)を項目別に記載してください。

小	◎	中	高	1	2	◎	4	5	6	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	適応障害		
教育課程				◎ 進ずる教育課程						準ずる教育内容(下学年適用) ・ 知的障がい教育課程(知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程			

①実態把握 (プルダウンメニューから項目を選択)	A5 自己理解(何が辛いのか自分でもわからない)	試行期	A6 気持ちの表現(気持ちを言葉・文字に表せない)	試行期	B1 集団活動(集団の中にとられる、ルールに従えない)	試行期
	B8 他者への信用(人が信用できない、人と関わりたくない)	試行期	D1 身体状況・体調(お腹や頭が痛い、過呼吸や嘔吐がおこる)	試行期	F1 睡眠・生活リズム(朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	試行期
	F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	安定期				
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・不安を感じやすく、特に対人関係について、人からどう思われるかを考えすぎて気まづくなってしまう。 ・他者、特に友達との関係を切られてしまうことへの不安から、行動を相手に合わせすぎてしまい、それに疲弊する様子が見られる。 ・心の不調が頭痛や眠気として表れ体調不良になったり朝起きられなかったりすることが多い。 					
③支援・配慮等のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・不調に対処しながら、転籍後の生活をイメージして生活することができる。 ・自分の気持ちを整理し、周囲に伝えることができる。 ・他者や集団への不安を軽減し、意思表示することができる。 					
④具体的な支援の手立て: ①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で自分がどう思っているのかをまとめ、整理していく。 ・教師や生徒に対し表出する経験を重ねていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団や他者とのかかわりの中で感じる気まづさを具体的に整理する。 ・他者や集団とかかわる中でできたことを教師が伝えていき、適度な意思表示の仕方や振る舞い方を考えていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・頭痛や不調の状態を自分で正しく把握しながら適切に対処できるように、日頃の声掛けなどを通し支援する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・試験登校を実施し、復籍後や高校進学後も継続して登校するための生活の仕方を考えていく。 ・苦手なことに取り組む中で、大変さを感じたことを一緒に振り返る。 	

⑤教育的ニーズの変容 (①～④の支援後に記入)	A5 自己理解(何が辛いのか自分でもわからない)	安定期	A6 気持ちの表現(気持ちを言葉・文字に表せない)	試行期	B1 集団活動(集団の中にとられる、ルールに従えない)	試行期
	B8 他者への信用(人が信用できない、人と関わりたくない)	試行期	D1 身体状況・体調(お腹や頭が痛い、過呼吸や嘔吐がおこる)	安定期	F1 睡眠・生活リズム(朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	試行期
	F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	安定期				

⑥具体的な支援の効果(⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・以前に比べ「面倒くさい」「嫌だ」などのネガティブな気持ちを出せるようになった。 ・自分を客観的に省みる発言は増えたが、本音ではない印象を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見に何でも合わせてしまうことが自分の苦しさや他者に感じる気まづさにつながることに気づくことができた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・体調不良を数値化する習慣が付き、痛みや辛さを客観視することに取り組むことができた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・朝起きられないことを理由に欠席することが多かった。試験登校は夕方時間に設定したため、出席することができた。 	

自立活動 事例シート

小・ 中 ・高	1・2・ 3 ・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	適応障害
教育課程	準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程		

*①～⑥はシート「2整理・変容シート」の項目

1)実態把握

収集した情報	<収集した情報> ・寝ている間に無意識にリストカットをすることがあり入院したが、改善し退院。その後同様の様子は見られていない。 ・高学年の頃から学校を休みがちになり、中1の5月からほぼ登校できていなかった。ただ学校には仲の良い友人がおり、休日に会って遊んだりしている。 ・母と祖父母の仲が悪く、本人が間に入って関係を取り持っているような状況。本人はそれに疲弊し、家庭に居心地の悪さを感じている。					
	Co-MaMeの情報(参考①)	A5 自己理解(何が辛いのか自分でもわからない) 試行期	A6 気持ちの表現(気持ちを言葉・文字に表せない) 試行期	B1 集団活動(集団の中に入ると震れる、ルールに従えない) 試行期	B8 他者への関心(人が関心できない、人と関わりたくない) 試行期	D1 身体状況・体調(お腹や頭が痛い、通学や通学が怖い) 試行期
収集した情報の整理	A 心理 B 社会性 C 学習 D 身体 E 学校生活 F 自己管理					
	自立活動の領域・項目 健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5) 心理的な安定 (1)(2)(3) 人間関係の形成 (1)(2)(3)(4) 環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5) 身体の動き (1)(2)(3)(4)(5) コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)					
<収集した情報の整理> ・集団の中に入って人間関係を築くことができるが、気を遣いすぎて疲弊し、集団に参加することを拒否する様子がある。 ・家庭の居心地の悪さにストレスを感じているが、対処法がなく、心身の不調として表れることがある。						

2)課題(参考②)	・不安を感じやすく、特に対人関係について、人からどう思われるかを考えすぎて気まづくなってしまふ。 ・他者、特に友達との関係を切られてしまうことへの不安から、行動を相手に合わせすぎてしまい、それに疲弊する様子が見られる。 ・心の不調が頭痛や眠気として表れ体調不良になったり朝起きられなかったりすることが多い。
-----------	---

3)ねらい(参考③)	ねらい1 不調に対処しながら、転籍後の生活をイメージして生活することができる。	ねらい2 自分の気持ちを整理し、周囲に伝えることができる。	ねらい3 他者や集団への不安を軽減し、意思表示することができる。
------------	--	----------------------------------	-------------------------------------

4)具体的な指導内容の選定

必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)
具体的な指導内容(参考④)	ねらい1の指導内容 ・頭痛や不調の状態を自分で正しく把握しながら適切に対処できるように、日頃の声掛けなどを通し支援する。 ・試験登校を実施し、復籍後や高校進学後も継続して登校するための生活の仕方を考えていく。					
	ねらい2の指導内容 ・様々な場面で自分がどう思っているのかをまとめ、整理していく。 ・本人にとって嫌なことや苦手なことにも取り組ませる中で、何に大変さを感じたのか一緒に振り返り言語化する。 ・普段から教師だけでなく、生徒に対しても表出する経験を重ねられるようにする。		ねらい3の指導内容 ・本人が集団や他者との関わりで感じる気まづさを具体的に整理する。 ・他者や集団とのかかわる中でできたことを教員が伝えていき、適度な意思表示の仕方や振る舞い方を考えていく。			
自立活動の区分・項目	1 健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	2 心理的な安定 (1)(2)(3)	3 人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	4 環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	5 身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	6 コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)

成果と課題(参考⑤、⑥)

成果	・体調不良を数値化する習慣が付き、痛みや辛さを客観視することに取り組むことができた。 ・試験登校に継続して取り組むことができた。	・「面倒くさい」「嫌だ」など、ネガティブな気持ちを伝えることができるようになった。	・他者の意見に何でも合わせてしまうことが自分の苦しさや他者に対する気まづさにつながるということに気づくことができた。
課題	・朝起きられないことを理由に欠席することが多くあり、一度登校のリズムが崩れてしまうと欠席が続いてしまった。	・嫌な理由を考える時に、外的な要素に目が向くことが多く、自分の内面や課題を意識することが難しかった。	・集団の中で自然に過ごすためにはどう振る舞ったらよいかを考えたり、考えたことを実践してみたりするまでには至らなかった。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮（Co-MaMe） アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

（教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 2023年 9月 8日（金）

2回目 2023年 11月 10日（金）

小	●	中	●	高	●	1	●	2	●	3	●	4	●	5	●	6	年	障害名（病名） <small>（精神疾患・心身症等の障害名（病名））</small>	身体表現性障害
教育課程																			
進ずる教育課程 ・ 進ずる教育内容（下学年適用） ・ 知的障がいのある教育課程（知的代替） ・ 自立活動を主とする教育課程																			

心理		1回目	2回目
A 1	不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)	◎	◎
A 2	感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)		
A 3	こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない)	○	○
A 4	意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない)		
A 5	自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない)	○	
A 6	気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)	◎	○
A 7	情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)		
A 8	気分の変動 (気分の浮き沈みがある)		
A 9	自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い)	○	○

社会性		1回目	2回目
B 1	集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)		
B 2	社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)		
B 3	コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)		○
B 4	同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)	○	
B 5	家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)	○	○
B 6	教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル)	○	
B 7	異性との関係 (異性との関係がうまくいかない)		
B 8	他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない)	○	
B 9	他者への相談 (困った時に相談できない)	◎	○
B 10	他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない)		

学習		1回目	2回目
C 1	学習状況 (勉強の仕方がわからない)		
C 2	処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)		
C 3	聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない)		
C 4	読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)		
C 5	記憶力 (すぐに忘れてしまう)		
C 6	注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)		
C 7	学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)		
C 8	経験 (生活経験が低い)		○

身体		1回目	2回目
D 1	身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)	◎	◎
D 2	巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない)		
D 3	動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)		
D 4	多動性 (じっとしてられない、待てない)		
D 5	感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌)		

学校生活		1回目	2回目
E 1	見通し (予定の変更が受け入れられない)		
E 2	物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう)		
E 3	登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室には入れない)	○	

自己管理		1回目	2回目
F 1	睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い)		
F 2	食事 (給食が食べられない、外食ができない)	○	
F 3	服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒)		
F 4	病気の理解 (自分自身の病状を理解していない)		
F 5	ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	○	

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目 (◎) を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果 (児童生徒の変容) を項目別に記載してください。

小・ 中 ・高	1・2・ 3 ・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	身体表現性障害
教育課程	◎ <u>準ずる教育課程</u> ・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がい教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程		

①実態把握 (ブルダウンメニューから項目を選択)	A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない) A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)	受容期	B9 他者への相談 (困った時に相談できない)	受容期	D1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)	受容期
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・週3日の登校を目安にしているが、体調面が整わず、休んでしまうことがある。 ・周りの様子を常に意識して、どう行動するか敏感になりすぎてしまう傾向にある。 ・基本的にまじめで少々融通が利かずに無理をしまい、体調を崩してしまうことがある。 					
③支援・配慮等のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを伝え、他者との関わりを広げることができる。 ・安定して登校できる。 ・復籍後の生活について考えることができる。 					
④具体的な支援の手立て: ①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
様々な活動を通して、本人の思いや考えに対して発言を促したり、記載を促したりしながら本人の気持ちを確かめ表現できるようにしていく。	ふれあい活動やゲーム、話し合いの機会などを通して、教師やクラスの友達との関わりを広げていけるようにする。			体調や気持ちを尊重しながら調整し、週3日程度を目標になるべく多く登校できるようにする。	復籍後の生活について分校以外の生活について提案するなど一緒に考え、どのように過ごしていくことがよりよいことかを考えることができる。	



⑤教育的ニーズの変容 (①～④の支援後に記入)	A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない) A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)	受容期	B9 他者への相談 (困った時に相談できない)	試行期	D1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)	受容期

⑥具体的な支援の効果 (⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
今までより自分の考えを周りに伝え活動する場面が増えてきている。自分の意見を言い提案しながら、より良い活動になるように働きかける様子が見られた。	前籍校登校では、「やってみよう」という姿勢が見られた。しかしストレスを表出することができず、不安定になる様子も見られた。 校内では、自分の仕事に責任感を持ち、他者と協力し合い活動することができた。			本校での生活に見通しを持ち、自分のペースをつかめてきている。また、週3日を意識して計画を立てる様子が見られた。体調が整っていない時も、午前中のみ登校するなど、なるべく出席できるように努力していた。	自分のペースが見つけられたような印象で、無理しないようになってきた。	

自立活動 事例シート

小・中・高	1・2・3・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	身体表現性障害
教育課程	進ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程		

*①～⑥はシート「2整理・変容シート」の項目

1)実態把握							
収集した情報	<p><収集した情報></p> <p>高学年でいじめがあり、腹痛や頭痛が出現。そのまま不登校になる。中学では安定して登校できていたが、部活動顧問の他部員に対する叱咤に恐怖を感じ、保健室登校になる。中2の夏休み終わりごろに食事量低下、朝嘔吐が続く。9月病院を受診し、抑うつ症状もあるため入院。転籍となる。</p> <p>とてもおとなしく自分から積極的にコミュニケーションをとることは少ない。自分の意見を主張することはなく、周りに合わせることが多い。必要なことは話をしたが、基本的にはストレスを溜めやすい。</p> <p>韓国アイドルが好きで、韓国語を独学で学んでいる。将来、海外留学をしたいという希望を話す。</p>						
	Co-MaMeの情報(参考①)	A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない)	受容期	B9 他者への相談(困った時に相談できない)	受容期	D1 身体状況・体調(お腹や頭が痛い、過呼吸や嘔吐がおこる)	受容期
	A6 気持ちの表現(気持ちを言葉・文字に表せない)	受容期					
収集した情報の整理	自立活動の区分に即して整理	A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
	自立活動の領域・項目	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)
	<p><収集した情報の整理></p> <p>個別に大人が対応すれば自分の言いたいことを伝える能力はあるが、同年代とのやりとりには難しさを抱えている。</p> <p>身体症状に出ることから、気持ちの表現には困難さがある様子。本生の表出がどの程度本人自身の気持ちなのか、わからない。</p> <p>本生が安心して自分の気持ちを出せるような環境調整が必要。</p>						

2)課題(参考②)	<ul style="list-style-type: none"> ・週3日の登校を目安にしているが、体調面が整わず、休んでしまうことがある。 ・周りの様子を常に意識して、どう行動するか敏感になりすぎてしまう傾向にある。 ・基本的にまじめで少々融通が利かず無理をしまい、体調を崩してしまうことがある。
-----------	--

3)ねらい(参考③)	自分の思いを伝え、他者との関わりを広げることができる。	安定して登校できる。	復籍後の生活について考えることができる。
------------	-----------------------------	------------	----------------------

4)具体的な指導内容の選定						
必要な自立活動の項目の選定(参考④)	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)
具体的な指導内容(参考⑤)	<p>様々な活動を通して、本人の思いや考えに対して発言を促したり、記載を促したりしながら本人の気持ちを確かめ表現できるようにしていく。</p> <p>ふれあい活動やゲーム、話し合いの機会などを通して、教師やクラスの友達との関わりを広げていけるようにする。</p> <p>体調や気持ちを尊重しながら調整し、週3日程度を目標になるべく多く登校できるようにする。</p> <p>復籍後の生活について分校以外の生活について提案するなど一緒に考え、どのように過ごしていくことがよりよいことか考えることができる。</p>					
自立活動の区分・項目	1 健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5) 2 心理的な安定 (1)(2)(3) 3 人間関係の形成 (1)(2)(3)(4) 4 環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5) 5 身体の動き (1)(2)(3)(4)(5) 6 コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)	1 健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5) 2 心理的な安定 (1)(2)(3) 3 人間関係の形成 (1)(2)(3)(4) 4 環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5) 5 身体の動き (1)(2)(3)(4)(5) 6 コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)	1 健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5) 2 心理的な安定 (1)(2)(3) 3 人間関係の形成 (1)(2)(3)(4) 4 環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5) 5 身体の動き (1)(2)(3)(4)(5) 6 コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)	1 健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5) 2 心理的な安定 (1)(2)(3) 3 人間関係の形成 (1)(2)(3)(4) 4 環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5) 5 身体の動き (1)(2)(3)(4)(5) 6 コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)	1 健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5) 2 心理的な安定 (1)(2)(3) 3 人間関係の形成 (1)(2)(3)(4) 4 環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5) 5 身体の動き (1)(2)(3)(4)(5) 6 コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)	1 健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5) 2 心理的な安定 (1)(2)(3) 3 人間関係の形成 (1)(2)(3)(4) 4 環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5) 5 身体の動き (1)(2)(3)(4)(5) 6 コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)

成果と課題(参考⑥、⑦)	
成果	学校生活について見通しを持ち、体調が悪い時などは半日にするなど行いながら、なるべく登校できるよう調整しながら、登校することができている。また登校したときに周りの生徒や教師と適度な距離を持ちながら、無理せず関わることができている。
課題	大きなストレス場面などは自分から難しいことやできないということを伝えることができるようになるともっと楽に生活できると思われる。また、保護者が本人の表出前に行動する傾向があるので、本人が自分の意思を表せないままに物事が進んでしまうところがある。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

(教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。)

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 5年 10月 6日 (金)

2回目 5年 12月 8日 (金)

小・ 中 ・高	1・2・ 3 ・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	起立性調節障害
教育課程	進ずる教育課程	準ずる教育内容(下学年適用)	知的障がい教育課程(知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程

心理	1回目	2回目
A 1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)		
A 2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)		
A 3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない)		
A 4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない)	◎	◎
A 5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない)		
A 6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)		
A 7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)		
A 8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある)		
A 9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い)	○	○

社会性	1回目	2回目
B 1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)		
B 2 社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)		
B 3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)		
B 4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)		
B 5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)		
B 6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル)		
B 7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない)		
B 8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない)		
B 9 他者への相談 (困った時に相談できない)		○
B 10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない)		

学習	1回目	2回目
C 1 学習状況 (勉強の仕方がわからない)		
C 2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)		
C 3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない)		
C 4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)	◎	◎
C 5 記憶力 (すぐに忘れてしまう)		
C 6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)		
C 7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)	○	○
C 8 経験 (生活経験が低い)	○	

身体	1回目	2回目
D 1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)		
D 2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない)		
D 3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)		
D 4 多動性 (じっとしてられない、待てない)		
D 5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌)		

学校生活	1回目	2回目
E 1 見通し (予定の変更が受け入れられない)		
E 2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう)		○
E 3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室には入れない)	○	

自己管理	1回目	2回目
F 1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	◎	◎
F 2 食事 (給食が食べられない、外食ができない)		
F 3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒)		
F 4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない)		
F 5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	○	◎

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目(◎)を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果(児童生徒の変容)を項目別に記載してください。

小・◎・高	1・2・◎・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	起立性調節障害
教育課程	◎ <u>進める教育課程</u>	準ずる教育内容(下学年適用) ・ 知的障がい教育課程(知的代替)	・ 自立活動を主とする教育課程

①実態把握 (プルダウンメニューから項目を選択)	A4 意欲・気力(目標が持てない、やる気おきない)	◎ 試行期	C4 読み・書き(文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)	◎ 試行期	F1 睡眠・生活リズム(朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	◎ 受容期
	A9 自信(自分に自信がない、自己肯定感が低い)	◎ 受容期	C7 学習への意識(嫌いな教科に出たくない)	◎ 受容期	C8 経験(生活経験が低い)	◎ 試行期
	E3 登校・入室への抵抗感(学校へ行きたくない、教室には入れない)	◎ 受容期	F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	◎ 受容期		

②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小学4年生から学校に行きづらくなり、保護者の送迎による校長室登校が始まった。しかし、長期休暇中の学童保育には行くことができていた。(学校内) ・中学校には2年生で1週間ほど続けていくことができ、3年生では修学旅行に参加することができた。 ・最終学年なり学習への意欲は出てきているものの、病状により朝起きることが難しく気持ちや体力の面から長く学習を続けることができない。 ・漢字や英語の書き取り、一定の姿勢の保持が難しい。学校であまり水分を取らない。
-----	--

③支援・配慮等のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の定着 ・基礎的な学力を身に付ける ・生活リズムの安定
-------------	--

④具体的な支援の手立て: ①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入

A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
・本人に適した取り組みをステップで設定して成功体験や達成感を積み上げる。		<ul style="list-style-type: none"> ・書く負担を減らして学習に取り組みややすくする。 ・視覚的に見やすく読みやすくして学習に取り組みややすくする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習場所を柔軟に変更して前籍校と協力しながら、定期テストなどを実施し進学に必要な情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別や小集団で自信をつけていく。 ・興味ある活動を多く設定して心理的な安定を図る。 ・さまざまな活動を実施する。

⑤教育的ニーズの変容 (①～④の支援後に記入)	F1 睡眠・生活リズム(朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	◎ 受容期	C4 読み・書き(文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)	◎ 安定期	A4 意欲・気力(目標が持てない、やる気おきない)	◎ 安定期
	F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	◎ 受容期	E2 物の管理(忘れ物が多い、物をなくしてしまう)	◎ 試行期	B9 他者への相談(困った時に相談できない)	◎ 試行期
	C7 学習への意識(嫌いな教科に出たくない)	◎ 試行期	C8 経験(生活経験が低い)	◎ 安定期		

⑥具体的な支援の効果(⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)

A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学習したい内容を教師に伝え、学習の仕方を提案するようになった。 ・教科によっては自信ができて積極的に学習する様子が見られた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・書こうとすることが増えた。 ・将来を意識して学習に向かうようになった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストや実力テストを受けることができ、具体的な進学先を考えることができた。 ・プリントや学習道具の整理整頓ができず、学習に困ることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間や予定を意識できるようになっているが、体調が整わず生活リズムのコントロールが難しい。 ・ストレスの対処方法や解消方法がまだあまり獲得できていない。

自立活動 事例シート

小・ 中 ・高	1・2・ 3 ・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	起立性調節障害
教育課程	準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程		

*①～⑥はシート「2整理・変更シート」の項目

1)実態把握							
収集した情報	<収集した情報>						
	心身症のひとつである起立性調節障害の診断を受け入院している。朝起きることが難しく小学4年から保護者の送迎による校長室への登校が始まり中学校から不登校となる。現在学習は遅れがちである。治療のために水分をとることや運動をすることが望ましいが積極的にはしたがない。友だちはいて、初対面の人とも穏やかに話することができる。						
収集した情報の整理	Co-MaMeの情報(参考①)	A4 意欲・気力(目標が持てない、やる気がおきない)	試行期	C4 読み・書き(文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)	試行期	F1 睡眠・生活リズム(朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	受容期
		A9 自信(自分に自信がない、自己肯定感が低い)	受容期	C7 学習への意識(嫌いな教科に出たくない)	受容期	C8 経験(生活経験が低い)	試行期
		E3 登校・入室への抵抗感(学校へ行きたくない、教室には入れない)	受容期	F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	受容期		
	自立活動の区分に即して整理	A心理	B社会性	C学習	D身体	E学校生活	F自己管理
	自立活動の領域・項目	健康の保持 (1) ② (3) (4) ⑤	心理的な安定 (1) (2) ③	人間関係の形成 (1) (2) (3) (4)	環境の把握 ① ② (3) (4) (5)	身体の動き (1) (2) (3) (4) (5)	コミュニケーション (1) (2) (3) (4) (5)
	<収集した情報の整理>						
	最終学年になり学習意欲が出てきているが、学習空白から学習に対する自信がなく、基礎的な学力が定着していない。体力面や気力面から休憩を取りながらの学習の取り組みが必要である。文字を読み間違えたり漢字や英語の学習に苦手意識がある。何事にも夢中になることが少ないが、ゲームのルールや小説の読解やルービックキューブなどができる。						

2)課題(参考②)	学習意欲はあるものの体力や気力を保つことが難しい。
-----------	---------------------------

3)ねらい(参考③)	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学力を身につけて自信をつける。 ・心身の状態を理解して調整する方法を知る。
------------	---

4)具体的な指導内容の選定						
必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 (1) ② (3) (4) ⑥	心理的な安定 (1) (2) ③	人間関係の形成 (1) (2) (3) (4)	環境の把握 ① ② (3) (4) (5)	身体の動き (1) (2) (3) (4) (5)	コミュニケーション (1) (2) (3) (4) (5)
具体的な指導内容(参考④)	<ul style="list-style-type: none"> ・長く睡眠が必要な理由を考えて、自分の状態を知る。 ・具体的な水分補給が必要な理由を知る。 ・さんぽやレクリエーションなどさまざまな経験をして好きなことを増やす。 		<ul style="list-style-type: none"> ・簡単すぎず難しすぎない本人にあった課題をモールステップで設定して成功体験や達成感を積み上げる。 ・学習場所を柔軟に変更し前籍校と協力をしながら、よりよい進路決定に向けて定期テストや情報提供を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・文章での解答だけでなく、かっこうめや選択問題、電子端末などを用いて書く負担を減らして学習に取り組みやすくする。 ・視覚的に読みやすくするために、プリントや板書の文字を大きくして、イラストやルビを使用する。 	
	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 F1睡眠・生活リズム(受容期) F5ストレスへの対処(受容期)		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 A4意欲・気力(試行期) A9自信(受容期) E3登校・入室への抵抗感(受容期)		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 C4読み・書き(試行期) C7学習への意識(受容期) C8経験(試行期)	

成果と課題(参考⑤、⑥)	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・予定や時間を意識するようになってきており、学習したい内容を教師に伝えたり学習の仕方を提案したりするようになってきている。 ・苦手意識のある書くことを自ら取り組みが増えた。 ・将来を意識して学習に向かうようになり、定期テストや実力テストを受けることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントや学習道具の整理整頓ができず学習に困ることがある。 ・ストレスの対処方法や解消方法が獲得できておらず、体調や生活リズムのコントロールが難しい。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮（Co-MaMe） アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

（教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別的教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 令和4年 4月 日（ ）

2回目 令和5年 12月 日（ ）

小	●	中	●	高	●	1	●	2	●	3	●	4	●	5	●	6	●	障害名（病名） <small>（精神疾患・心身症等の障害名（病名））</small>	全般性不安障害、ADHD、AND
教育課程																			
準ずる教育課程・準ずる教育内容（下学年適用）・知的障がいの教育課程（知的代替）・自立活動を主とする教育課程																			

心理		1回目	2回目
A 1	不安・悩み <small>（不安が強い、悩みが頭から離れない）</small>		
A 2	感情のコントロール <small>（気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう）</small>		
A 3	こだわり <small>（一つのことにとこだわると他のことが考えられない）</small>		
A 4	意欲・気力 <small>（目標が持てない、やる気がおきない）</small>		○
A 5	自己理解 <small>（何が辛いのか自分でもわからない）</small>		
A 6	気持ちの表現 <small>（気持ちを言葉・文字に表せない）</small>		
A 7	情緒の安定 <small>（嫌なことを思い出してしまう、イライラする）</small>		
A 8	気分の変動 <small>（気分の浮き沈みがある）</small>		
A 9	自信 <small>（自分に自信がない、自己肯定感が低い）</small>	○	○

社会性		1回目	2回目
B 1	集団活動 <small>（集団の中にいると疲れる、ルールに従えない）</small>		
B 2	社会のルールの理解 <small>（学校や社会の規則が守れない、自分で変更する）</small>		◎
B 3	コミュニケーションスキル <small>（あいづちがうてない、人の話が聞けない）</small>		
B 4	同年代との関係 <small>（相手のことを考えた言動ができずトラブルになる）</small>		
B 5	家族との関係 <small>（家族との関係がうまくいかない）</small>		
B 6	教師との関係 <small>（教師を信用しない、教師とのトラブル）</small>		
B 7	異性との関係 <small>（異性との関係がうまくいかない）</small>		
B 8	他者への信用 <small>（人が信用できない、人と関わりたくない）</small>		
B 9	他者への相談 <small>（困った時に相談できない）</small>		
B 10	他者理解 <small>（表情や態度から気持ちが読み取れない）</small>		

学習		1回目	2回目
C 1	学習状況 <small>（勉強の仕方がわからない）</small>	○	
C 2	処理能力 <small>（書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない）</small>		
C 3	聞き取り・理解力 <small>（話を聞いても理解できない、指示内容がわからない）</small>		
C 4	読み・書き <small>（文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない）</small>	○	
C 5	記憶力 <small>（すぐに忘れてしまう）</small>		
C 6	注意・集中 <small>（集中が続かない、気が散って集中できない）</small>		
C 7	学習への意識 <small>（嫌いな教科に出たくない）</small>	○	○
C 8	経験 <small>（生活経験が低い）</small>		

身体		1回目	2回目
D 1	身体状況・体調 <small>（お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる）</small>		
D 2	巧緻性 <small>（手先を使って操作することが指示通りできない）</small>		
D 3	動作・体力 <small>（体力がない、動きがはやくできない）</small>		
D 4	多動性 <small>（じっとしていられない、待てない）</small>	○	○
D 5	感覚過敏 <small>（においに敏感、大きな声が嫌）</small>		

学校生活		1回目	2回目
E 1	見通し <small>（予定の変更が受け入れられない）</small>		
E 2	物の管理 <small>（忘れ物が多い、物をなくしてしまう）</small>	○	○
E 3	登校・入室への抵抗感 <small>（学校へ行きたくない、教室には入れない）</small>		

自己管理		1回目	2回目
F 1	睡眠・生活リズム <small>（朝起きられず遅刻してしまうことが多い）</small>	○	◎
F 2	食事 <small>（給食が食べられない、外食ができない）</small>		
F 3	服薬 <small>（薬を手放せない、薬の管理が面倒）</small>		
F 4	病気の理解 <small>（自分自身の病状を理解していない）</small>		
F 5	ストレスへの対処 <small>（ストレスへの対処、苦しいことから逃れたい）</small>	◎	○

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目 (◎) を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果 (児童生徒の変容) を項目別に記載してください。

小・ 中 ・高	1・2・ 3 ・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	全般性不安障害、ADHD、ASD
教育課程	準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がい教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程		

①実態把握 (プルダウンメニューから項目 を選択)	B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル) F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)	受容期	受容期	受容期	受容期
②課題	・興味のあること以外にはなかなか取り組みにくく、強制されると反抗が強くなる。 ・自分の意見が聞き入れられないときや勝負事などで上手くいかない時など、イライラして言葉使いが荒くなったり、教室を出て行ったりする。				
③支援・配慮等のねらい	・独自の思考 (一面的なものの捉え方・興味のないことをすることは意味がない等) を持っていることや、小学校の頃から欠席が多くほとんど家で過ごしていたこともあってか、自分の好きなこと以外は取り組みにくい。一方で、本来はやらなければいけないという意識も持ち合わせているので、自分自身の中で葛藤もあると思われる。まずは本人の話を聞き取る中で、本人の考えを尊重することを大事にし、教師との関係を築くと共に、本人の考えを整理していく。また、徐々に他の視点にも気づかせていく。 ・教師との会話の中で、どんなときに自分はイライラするかパターンを知り、対処の方法を見つける。感覚過敏の部分にも留意していく。				
④具体的な支援の手立て: ①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入					
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
	・本人の気持ちや考えを聞く。 ※雑談から ※気持ちの言語化 ※否定しない ・本人の考えややり方を認めつつ、別の視点や、うまくいく他の方法もあることを伝える。	・好きなことをする時間を保障しつつ、授業に関しては、活動のめあてや内容を伝え、部分参加等授業の参加方法を柔軟に変更し、自己選択できるようにする。			・本人の気持ちや考えを聞く。 ※雑談から ※気持ちの言語化 ※否定しない ・教師と相談しながら、自分自身の学習や生活の困り感に気付けるようになり、具体的な解決策を共に考える。 ・好きなことをする時間を保障しつつ、授業に関しては、活動のめあてや内容を伝え、部分参加等授業の参加方法を柔軟に変更し、自己選択できるようにする。 ・教師と相談しながら、ストレスを解消する方法を見つける。

⑤教育的ニーズの変容 (①～④の支援後に記入)	B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル) F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)	試行期	試行期	試行期	試行期
----------------------------	--	-----	-----	-----	-----

⑥具体的な支援の効果 (⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)					
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
	まずは、本人がなと言っているかを、教師の指示や否定を挟まずに聞きっぱなしを続けたことで、教師と話そうとするようになった。徐々に、別の視点や、うまくいく他の方法も伝えることを続けたことで、気持ちを言語化し、相手に伝えることができるようになったと同時に、自分の気持ちも整理できているようであった。友達にも、嫌なことがあば、伝えられることもあった。 自分の役割ややるべきことについて、避けずにやりきれようようになってきた。	音楽は、耳に苦手な音が響くなど言って、参加しなかったが、音楽への誘いかけをしたり、活動の見通しを持たせたり、苦手な音の混在を避けるために別室対応することにより、授業に参加できるようになってきた。 参加せずに過ごしていた授業であったが、個別の対応により、少しずつ全体への参加が可能になってきた。			嫌なことがあったとき、その場を離れてクールダウンしたあと、落ち着いて戻ってくるができるようになってきた。 人との関わりの中で、ストレスと感じるが多かったが、相手に自分の気持ちや状況などを伝えられるようになったことで、回避できるようになってきた。ただ、何でもストレスで片付けてしまう面もあるため、今後、ストレスと自分の課題を区別して考えられるようになるとうい。

自立活動 事例シート

小・ ④ ・高	1・2・ ③ ・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	全般性不安障害、ADHD、ASD
教育課程	準ずる教育課程	準ずる教育内容(下学年適用)	知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程

*①～⑥はシート「2整理・変容シート」の項目

1)実態把握

収集した情報	<p><収集した情報></p> <p>じっとしていることが苦手で常に身体を動かしている。持ち物をどこに置いたのか忘れてしまう。一面的なものの捉え方をする。一見自分勝手と思われる行動が多いが、実は周りに気を遣うところがあったり、〇〇しなければならないと思っているところもある。(テストは受けなければならない等)</p> <p>学習に関しては、小学校の内容が積み上げられていない教科もある。書字は苦手。</p> <p>集団行動は苦手で、興味のあること以外にはなかなか取り組みにくく、活動を強制されると反抗する。</p> <p>授業には、興味のある部分、やっておいたほうが良い部分だけ部分参加している。</p> <p>家庭では、ゲームをして過ごすことが多く、両親とゲームをすることもある。父親や姉に対して、ストレスを感じていることがある。</p> <p>生き物の採取や飼育に興味があり、父と近所の川に捕まえに行ったりする。電子工作のロボット操作にも興味がある様子。</p>																							
収集した情報の整理	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">Co-MaMeの情報(参考①)</td> <td style="width: 15%;">B6 教師との関係(教師を信用しない、教師とのトラブル)</td> <td style="width: 15%;">受容期</td> <td style="width: 15%;">受容期</td> <td style="width: 15%;">受容期</td> <td style="width: 15%;">受容期</td> </tr> <tr> <td></td> <td>F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)</td> <td>受容期</td> <td>受容期</td> <td>受容期</td> <td>受容期</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C7 学習への意識(嫌いな教科に出たくない)</td> <td>受容期</td> <td>受容期</td> <td>受容期</td> <td>受容期</td> </tr> </table>						Co-MaMeの情報(参考①)	B6 教師との関係(教師を信用しない、教師とのトラブル)	受容期	受容期	受容期	受容期		F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	受容期	受容期	受容期	受容期		C7 学習への意識(嫌いな教科に出たくない)	受容期	受容期	受容期	受容期
Co-MaMeの情報(参考①)	B6 教師との関係(教師を信用しない、教師とのトラブル)	受容期	受容期	受容期	受容期																			
	F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	受容期	受容期	受容期	受容期																			
	C7 学習への意識(嫌いな教科に出たくない)	受容期	受容期	受容期	受容期																			
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">自立活動の区分に即して整理</td> <td style="width: 12.5%;">A心理</td> <td style="width: 12.5%;">B社会性</td> <td style="width: 12.5%;">C学習</td> <td style="width: 12.5%;">D身体</td> <td style="width: 12.5%;">E学校生活</td> <td style="width: 12.5%;">F自己管理</td> </tr> <tr> <td>自立活動の領域・項目</td> <td>健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)</td> <td>心理的な安定 (1)(2)(3)</td> <td>人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)</td> <td>環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)</td> <td>身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)</td> <td>コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)</td> </tr> </table>						自立活動の区分に即して整理	A心理	B社会性	C学習	D身体	E学校生活	F自己管理	自立活動の領域・項目	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)				
自立活動の区分に即して整理	A心理	B社会性	C学習	D身体	E学校生活	F自己管理																		
自立活動の領域・項目	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)																		
	<p><収集した情報の整理></p>																							

2)課題(参考②)	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のあること以外にはなかなか取り組みにくく、強制されると反抗が強くなる。 ・勝負事などで上手くいかない時や自分の思いが伝わらないときなど、イライラして言葉使いが荒くなったり、教室を出て行ったりする。
-----------	--

3)ねらい(参考③)	<ul style="list-style-type: none"> ・独自の思考(一面的なものの捉え方・興味のないことをすることは意味がない等)を持っていることや、小学校の頃から欠席が多くほとんど家で過ごしていたこともあってか、自分の好きなこと以外は取り組みにくい。一方で、本来はやらなければいけないという意識も持ち合わせているので、自分自身の中で葛藤もあると思われる。まずは本人の話聞き取る中で、本人の考えを尊重することを大事にし、教師との関係を築くと共に、本人の考えを整理していく。また、徐々に他の視点にも気づかせていく。 ・教師との会話の中で、どんなときに自分はイライラするかパターンを知り、対処の方法を見つける。感覚過敏の部分にも留意していく。
------------	---

4)具体的な指導内容の選定

必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)	
具体的な指導内容(参考④)	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の気持ちや考えを聞く。 ※雑談から行う ※気持ちや考えを言語化させる ※否定しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなことをする時間を保障する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の考えややり方を認めつつ、本人が教師の言葉をどれほど受け入れられるか様子を見ながらではあるが、別の視点や、うまくいく他の方法もあること、こちらの意図などを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関しては、活動のめあてや内容を伝え、部分参加など授業の参加方法を柔軟に変更し、自己選択できるようにする。 ・苦手とする書字を軽減する。 ・パワーポイント資料など視覚的にわかりやすい教材を用いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と相談しながら、自分自身の学習や生活の困り感に気付けるようにし、具体的な解決策を共に考える。 ・教師と相談しながら、ストレスを解消する方法を見つける。 		
	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 受容期	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 受容期	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 受容期	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 受容期	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 受容期	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 受容期	

成果と課題(参考⑤、⑥)

成果	<p>まずは、本人がなんと言っているかを、教師の指示や否定を挟まずに聞きながら話を続けたことで、教師と話そうとするようになった。そして、徐々に、別の視点やうまくいく他の方法も伝えたことで、気持ちを言語化できるようになった。人との関わりの中で、ストレスと感じる事が多かったが、相手(教師や友達)に自分の気持ちや状況などをうまく伝えられるようになってきたことで、ストレスを回避できるようになってきた。また、相手に伝えることができるようになったと同時に、自分の気持ちも整理できているようであった。</p> <p>自分の役割ややるべきことについて、避けずにやりきれようになってきた。</p> <p>音楽は、耳に苦手な音が響くと言って、参加しなかったが、音楽の授業への誘いかけをしたり、活動の見通しを持たせたり、苦手な音の混在を避けるために別室対応することにより、少しずつ授業に参加できるようになってきた。参加せずに遠ざけていた授業であったが、個別の対応により、少しずつ全体への参加が可能になってきた。</p> <p>嫌なことがあったとき、その場を離れてクールダウンしたあと、落ち着いて戻ることができるようになってきた。</p>
課題	<p>2次のなしんどさが軽減されてきたので、本生徒がもつ1次のな特性への対応に、より必要性を感じるようになってきたと思われる。</p> <p>「ストレス」という言葉に助けられ、自分が考えていることや嫌なことなどを相手に伝えられるようになってきたが、何でも「ストレス」という言葉で片付けてしまう面もあるため、次の段階としては、ストレスと自分の課題を区別して考えられるような取組がより必要となってくる。</p> <p>生活リズムを整えること、集団のルールという中で過ごす仕方等について考えることも今後の課題と思われる。</p> <p>受容期から試行期へと進んでいっているが、本生徒の実態としては、頭では理解しているものの、なかなか実行できないという状態が続くこともあるため、本生徒の状態を見極めながら受容期から試行期へ行ったり戻ったりの対応をしていく必要がある。</p>

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮（Co-MaMe） アセスメントシート

6つのカテゴリにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

（教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別的教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 令和5年 11月 8日（水）

2回目 令和5年 12月 20日（水）

小	・	◎	・	高	1	・	2	・	◎	・	4	・	5	・	6	年	障害名（病名） <small>（精神疾患・心身症等の障害名（病名））</small>	自閉スペクトラム症、被害妄想					
教育課程		準ずる教育課程														◎		準ずる教育内容（下学年適用）		知的障がいの教育課程（知的代替）		自立活動を主とする教育課程	

心理	1回目	2回目
A 1 不安・悩み <small>（不安が強い、悩みが頭から離れない）</small>	◎	○
A 2 感情のコントロール <small>（気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう）</small>	○	
A 3 こだわり <small>（一つのことにとこだわると他のことが考えられない）</small>	○	○
A 4 意欲・気力 <small>（目標が持てない、やる気がおきない）</small>		
A 5 自己理解 <small>（何が辛いのか自分でもわからない）</small>		
A 6 気持ちの表現 <small>（気持ちを言葉・文字に表せない）</small>		
A 7 情緒の安定 <small>（嫌なことを思い出してしまう、イライラする）</small>	○	○
A 8 気分の変動 <small>（気分の浮き沈みがある）</small>	○	
A 9 自信 <small>（自分に自信がない、自己肯定感が低い）</small>		

社会性	1回目	2回目
B 1 集団活動 <small>（集団の中にいると疲れる、ルールに従えない）</small>	◎	○
B 2 社会のルールの理解 <small>（学校や社会の規則が守れない、自分で変更する）</small>		
B 3 コミュニケーションスキル <small>（あいづちがうてない、人の話が聞けない）</small>		
B 4 同年代との関係 <small>（相手のことを考えた言動ができずトラブルになる）</small>	○	○
B 5 家族との関係 <small>（家族との関係がうまくいかない）</small>		
B 6 教師との関係 <small>（教師を信用しない、教師とのトラブル）</small>		
B 7 異性との関係 <small>（異性との関係がうまくいかない）</small>		
B 8 他者への信用 <small>（人が信用できない、人と関わりたくない）</small>		
B 9 他者への相談 <small>（困った時に相談できない）</small>		
B 10 他者理解 <small>（表情や態度から気持ちが読み取れない）</small>		

学習	1回目	2回目
C 1 学習状況 <small>（勉強の仕方がわからない）</small>		
C 2 処理能力 <small>（書きながら聞かなくなど、2つの作業を同時に行えない）</small>		
C 3 聞き取り・理解力 <small>（話を聞いても理解できない、指示内容がわからない）</small>		
C 4 読み・書き <small>（文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない）</small>		
C 5 記憶力 <small>（すぐに忘れてしまう）</small>	○	○
C 6 注意・集中 <small>（集中が続かない、気が散って集中できない）</small>	○	○
C 7 学習への意識 <small>（嫌いな教科に出たくない）</small>		
C 8 経験 <small>（生活経験が低い）</small>		

身体	1回目	2回目
D 1 身体状況・体調 <small>（お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる）</small>		
D 2 巧緻性 <small>（手先を使って操作することが指示通りできない）</small>	○	○
D 3 動作・体力 <small>（体力がない、動きがはやくできない）</small>		
D 4 多動性 <small>（じっとしてられない、待てない）</small>	○	○
D 5 感覚過敏 <small>（においに敏感、大きな声が嫌）</small>		

学校生活	1回目	2回目
E 1 見通し <small>（予定の変更が受け入れられない）</small>	○	○
E 2 物の管理 <small>（忘れ物が多い、物をなくしてしまう）</small>	◎	○
E 3 登校・入室への抵抗感 <small>（学校へ行きたくない、教室には入れない）</small>		

自己管理	1回目	2回目
F 1 睡眠・生活リズム <small>（朝起きられず遅刻してしまうことが多い）</small>		
F 2 食事 <small>（給食が食べられない、外食ができない）</small>		
F 3 服薬 <small>（薬が手放せない、薬の管理が面倒）</small>		
F 4 病気の理解 <small>（自分自身の病状を理解していない）</small>	○	○
F 5 ストレスへの対処 <small>（ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい）</small>	◎	○

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目(◎)を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果(児童生徒の変容)を項目別に記載してください。

小	◎	中	高	1	2	◎	4	5	6	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	自閉スペクトラム症、被害妄想				
教育課程				準ずる教育課程						準ずる教育内容 <small>(小学年適用)</small>		知的障がい教育課程(知的代替)		自立活動を主とする教育課程	

①実態把握 (プルダウンメニューから項目を選択)	A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない) B1 集団活動(集団の中に入ると疲れる、ルールに従えない)	受容期	E2 物の管理(忘れ物が多い、物をなくしてしまう)	E1 物忘れ	E3 物忘れ	E4 物忘れ	E5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから離れた)	E6 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから離れた)	E7 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから離れた)	E8 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから離れた)	E9 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから離れた)	E10 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから離れた)
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に取り組んでいる最中でも、以前の友だちとのトラブルがフラッシュバックし、気持ちがイライラしてしまう。 ・以前に嫌な思いをした経験により、同世代の集団に入りくい。 ・自分で覚えておこうとしても、学校に持って来なければならない物を忘れることが多い。 ・思った通りにいかないなどのストレスがかかった時に、感情をコントロールし、心身が落ち着けるような方法を知らない。 											
③支援・配慮等のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを、周囲の人に伝えられる。 ・集団に入る機会を、学校生活の中で少しずつ増やす。 ・本人と相談しながらいろいろな方法を提案して、少しずつ忘れ物が減る。 ・本人が少しでも心が休まる時間を体験することで、落ち着いた時間を持つことができる。 											
④具体的な支援の手立て:①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入												
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理							
・本人の表情や様子を見ながら、朝の会や休憩時間に、本人が今一番気になっていることを尋ねる。 ・学校生活の中で、以前自分が経験したトラブルなどを思い出した時は、傾聴して寄り添いながら、落ち着くのを待つ。	・医師の判断で授業を個別の2時間から開始し、授業時間数の増加に伴って、自立活動や体育など集団での授業に徐々に組みこまれる。			・本人と相談しながら、忘れ物チェック表を教師が作成し、本人に説明した上で使用させる。	・本人の希望を聞きながら、自立活動の時間にピアノなど好きな楽器を弾いたり、美術の時間にデッサンや水彩画などの描画をしたりする体験を行う。							

⑤教育的ニーズの変容 (①～④の支援後に記入)	A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない) B1 集団活動(集団の中に入ると疲れる、ルールに従えない)	試行期	E2 物の管理(忘れ物が多い、物をなくしてしまう)	E1 物忘れ	E3 物忘れ	E4 物忘れ	E5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから離れた)	E6 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから離れた)	E7 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから離れた)	E8 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから離れた)	E9 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから離れた)	E10 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから離れた)
		試行期					試行期					

⑥具体的な支援の効果(⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)												
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理							
・一番気になっていることが、学習教材の忘れ物であることがわかった。 ・以前自分が経験した友だちとのトラブルなどを思い出した時は、可能な限り傾聴することで、安心して話を聞いてもらえた嬉しさもあり、落ち着くことができた。	・最初2時間の授業から、授業時間数が増加することで、自立活動や体育など集団での授業に参加することができるようになった。自立活動では複数でお互い自分の話をする中で、相手の発言に「それいいですね。」などと述べることができた。			・以前前籍校で行った、「教科ごとにファイルに入れて教科書などを持つてくる方式は、忘れ物が減らなかつた。」との本人の申し出で、毎日時間割通りに教科書などをかばんに入れながらチェックできる表を作成すると、忘れ物が激減した。	・美術の時間に、静物の水彩画を描きたいと本人が希望した。濃い鉛筆を使用してデッサンし、薄く絵の具を延ばすことで、鉛筆が浮き上がる手法で植物を描いた。廊下に絵を貼ってもらいたいと自ら希望するほど自信を持った活動であった。自ら「落ち着く。」と言いながら作業した。							

自立活動 事例シート

小・ 中 ・高	1・2・ 3 ・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	自閉スペクトラム症、被害妄想
教育課程	準ずる教育課程	準ずる教育内容(下学年適用)	知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程

*①～⑥はシート「2 整理・変更シート」の項目

1)実態把握

収集した情報	<本人の願い>ここが平和でいつも笑っている。 <保護者の願い>感情を抑える方法を覚えてほしい。 <心理検査>WISC-IV 数値は割愛					
	Co-MaMeの 情報 (参考①)	A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない)	試行期	E2 物の管理(忘れ物が多い、物をなくしてしまう)	安定期	
	B1 集団活動(集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)		試行期	F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	試行期	
収集した情報の整理	自立活動の区分に即して整理	A心理	B社会性	C学習	D身体	E学校生活 F自己管理
	自立活動の領域・項目	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)

- ・フラッシュバック時に攻撃性が出る。
- ・日頃から、様々なことについて不安感を持つ。
- ・学習への意欲があり、学習内容によってはリラックスを感じることができる。
- ・感情をコントロールする方法を知らない。

2)課題 (参考②)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に取り組んでいる最中でも、以前の友だちとのトラブルがフラッシュバックし、気持ちがイライラしてしまう。 ・以前に嫌な思いをした経験により、同世代の集団に入りにくい。 ・自分で覚えておこうとしても、学校に持って来なければならない物を忘れることが多い。 ・思った通りにいかないなどのストレスがかかった時に、感情をコントロールし、心身が落ち着けるような方法を知らない。
---------------	--

3)ねらい (参考③)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを、周囲の人に伝えられる。 ・集団に入る機会を、学校生活の中で少しずつ増やす。 ・本人と相談しながらいろいろな方法を提案して、少しずつ忘れ物が減る。 ・本人が少しでも心が休まる時間を体験することで、落ち着いた時間を持つことができる。
----------------	--

4)具体的な指導内容の選定

必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)
具体的な指導内容(参考④)	<A心理> ・本人の表情を見ながら、朝の会や休憩時間に、本人が今一番気になっていることを尋ねる。 ・学校生活の中で、以前自分が経験した嫌なことを思い出した時は、傾聴して寄り添いながら、落ち着くのを待つ。		<B社会性> ・授業を個別の2時間から開始し、授業時間数の拡大に従って、自立活動や体育など集団での授業に徐々に取り組ませる。 <E学校生活> ・本人と相談しながら、下記のような忘れ物チェック表を教師が作成し、本人に説明した上で使用させる。		<F自己管理> ・本人の希望を聞きながら、自立活動の時間にピアノなど好きな楽器を弾いたり、美術の時間にデッサンや水彩画などの描画をしたりする体験をさせる。	
	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない) 試行期		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 B1 集団活動(集団の中にいると疲れる、ルールに従えない) 試行期 E2 物の管理(忘れ物が多い、物をなくしてしまう) 安定期		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) 試行期	

曜日	科目	教科書	カバンに入れておくもの
月曜日	1	国語	教科書、鉛筆、消しゴム、定規、カッター、三角定規、セリシヤ、カバン
	2	英語	教科書、鉛筆、消しゴム、定規、カッター、三角定規、セリシヤ、カバン
	3	社会	教科書、鉛筆、消しゴム、定規、カッター、三角定規、セリシヤ、カバン
	4	体育	教科書、鉛筆、消しゴム、定規、カッター、三角定規、セリシヤ、カバン
火曜日	1	数学	教科書、鉛筆、消しゴム、定規、カッター、三角定規、セリシヤ、カバン
	2	社会	教科書、鉛筆、消しゴム、定規、カッター、三角定規、セリシヤ、カバン
	3	自立活動	教科書、鉛筆、消しゴム、定規、カッター、三角定規、セリシヤ、カバン
水曜日	1	理科	教科書、鉛筆、消しゴム、定規、カッター、三角定規、セリシヤ、カバン
	2	国語	教科書、鉛筆、消しゴム、定規、カッター、三角定規、セリシヤ、カバン
	3	数学	教科書、鉛筆、消しゴム、定規、カッター、三角定規、セリシヤ、カバン
	4	体育	教科書、鉛筆、消しゴム、定規、カッター、三角定規、セリシヤ、カバン

忘れ物チェック表

曜日	科目	教科書	カバンに入れておくもの
木曜日	1	英語	教科書、鉛筆、消しゴム、定規、カッター、三角定規、セリシヤ、カバン
	2	数学	教科書、鉛筆、消しゴム、定規、カッター、三角定規、セリシヤ、カバン
	3	美術	教科書、鉛筆、消しゴム、定規、カッター、三角定規、セリシヤ、カバン
	4	理科	教科書、鉛筆、消しゴム、定規、カッター、三角定規、セリシヤ、カバン
金曜日	1	社会	教科書、鉛筆、消しゴム、定規、カッター、三角定規、セリシヤ、カバン
	2	理科	教科書、鉛筆、消しゴム、定規、カッター、三角定規、セリシヤ、カバン
	3	英語	教科書、鉛筆、消しゴム、定規、カッター、三角定規、セリシヤ、カバン
	4	体育	教科書、鉛筆、消しゴム、定規、カッター、三角定規、セリシヤ、カバン

成果と課題(参考⑤、⑥)

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝登校時が一番気になっていることが、学習教材の忘れ物であることがわかった。 ・以前自分が経験した友だちとのトラブルなどを思い出した時は、可能な限り傾聴することで、安心して話を聞いてもらえた嬉しさもあり、落ち着くことができた。 ・最初2時間の授業から、授業時間数が増加することで、自立活動や体育など集団での授業に参加することができるようになった。自立活動では複数でお互い自分の話をすることで、相手の発言に「それいいですね。」などと述べることができた。 ・以前前籍校で行った、「教科ごとにファイルに入れて教科書などを持ってくる方式は、忘れ物が減らなかった。」との本人の申し出で、毎日時間割通りに教科書などをかばんに入れながらチェックできる表を作成すると、忘れ物が激減した。 ・美術の時間に、静物の水彩画を描きたいと本人が希望した。濃い鉛筆を使用してデッサンし、薄く絵の具を伸ばすことで、鉛筆が浮き上がる手法で植物を描いた。廊下に絵を貼ってもらいたいと自ら希望するほど自信を持った活動であった。自ら「落ち着く。」と言いながら作業した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・短い入院期間のため、アンガーマネジメントの方法を身につける学習まではいかなかった。今後もフラッシュバックや不安でイライラすることがあった時に、周囲の人が話を傾聴する以外に、本人がアンガーマネジメント的な方法を身につけられるようになる。(心理的な安定) ・落ち着いて過ごすことができる時間を学校生活の中で体験させることはできたが、実際に家庭や別の場所で落ち着くような活動を自ら楽しみ、落ち着いた時間を過ごすことができるようになる。(環境調整) ・自分の周囲にいる同世代の子ともうまくコミュニケーションをとって、良好な関係を継続させることができるようになる。(人間関係の形成) ・服薬のルールを身につけ、自分の健康状態を理解し、自己管理ができるようになる。(健康の保持)

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮（Co-MaMe） アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

（教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 2022年 10月 28日
2回目 2023年 7月 21日

小・ 中 ・高	1・2・ 3 ・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	自閉症スペクトラム、選択性かん黙、社交不安障害
教育課程	準ずる教育課程 ・ 準ずる教育内容(下学年適用)	知的障がいの教育課程(知的代替)	◎ 自立活動を主とする教育課程

心理	1回目	2回目
A 1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)	◎	
A 2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	◎	○
A 3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない)		
A 4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない)		
A 5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない)		
A 6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)	◎	○
A 7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)	◎	○
A 8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある)		
A 9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い)		

社会性	1回目	2回目
B 1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)	◎	
B 2 社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)		
B 3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)		
B 4 年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)		
B 5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)	◎	◎
B 6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル)	○	
B 7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない)		
B 8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない)		
B 9 他者への相談 (困った時に相談できない)	◎	
B 10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない)		

学習	1回目	2回目
C 1 学習状況 (勉強の仕方がわからない)		
C 2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)		
C 3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない)		○
C 4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)		○
C 5 記憶力 (すぐに忘れてしまう)		
C 6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)		
C 7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)		
C 8 経験 (生活経験が低い)	◎	○

身体	1回目	2回目
D 1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)		
D 2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない)		
D 3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)		
D 4 多動性 (じっとしてられない、待てない)		
D 5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌)		

学校生活	1回目	2回目
E 1 見通し (予定の変更が受け入れられない)		
E 2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう)		
E 3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室には入れない)	◎	

自己管理	1回目	2回目
F 1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	◎	
F 2 食事 (給食が食べられない、外食ができない)		
F 3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒)		
F 4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない)	○	○
F 5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	◎	

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目 (◎) を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果 (児童生徒の変容) を項目別に記載してください。

小・ 中 ・高	1・2・ 3 ・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	自閉症スペクトラム、選択性かん黙、社交不安障害
教育課程	準ずる教育課程 ・ 準ずる教育内容 (下学年適用) ・ 知的障がい教育課程 (知的代替) 自立活動を主とする教育課程		

①実態把握	A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	受容期	B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)	受容期	C8 経験 (生活経験が低い)	受容期
(プルダウンメニューから項目を選択)	A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)	受容期	C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない)	受容期	F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない)	受容期
	A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)	受容期	C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)	受容期		
②課題	A2:家庭では、自分の気持ちが爆発し、暴言や暴力に発展することがある。A6:嫌な活動の際、その時自分の気持ちを表現できず、後になって「あの時は…」と伝えてくることもある。A7:過去の経験やトラウマから、活動に対する不安が強いため、集団活動や新しい活動等に抵抗がある。B5:自分の気持ちを分かっほしい思いが強く、うまく伝わらないときは喧嘩になってしまう。C3:指示理解や説明を正確に理解することが難しいときがある。C4:不登校期間が長かったこともあり、学年相応の読み書きが定着していない、C8:過去の失敗や経験から、無理だと感じてしまうことが多く、一歩が踏み出せないことがある。F4:不登校になってしまった原因について、病状や特性があることを受け入れられていない。					
③支援・配慮等のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発意や興味関心から、発展性をもたせた授業づくりを工夫する ・ 自分で「選択する」「決定する」場面を増やす ・ 関わる上での実態像の把握や声かけ等に気をつける (気持ちの同調・共感・相談等) 					

④具体的な支援の手立て: ①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入

A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
・本人の興味関心のある分野を土台にしながら単元・授業づくりを行う。 ・興味のある活動の中で、次時への学習意欲につながるよう、発展的な単元設定・活動展開を工夫する。 ・活動内容や活動の中で、複数ある選択肢の中から、自身がやりたいことや活動の方向性を自分で選択できる場面を増やす。	・「自分の意図と反して無理していないか」「自分の気持ちが出せているか」「周りに合わせすぎているか」学部の教員間で、生徒の日々の状態像を確認・共有を図る(スクールウェアを活用)。 ・本人と関わる際は、学部間で共有した状態像をもとに、安心して関われるようにする。	・本人の理解度に合わせ、授業の中で見通しを持たせることができるよう、事前学習を丁寧に行ったり、ショートスパンでの活動を工夫したりする。	/	/	・まずは、活動参加における「達成感」「充実感」「自己肯定感」を高められるようにする。 ・「自分一人の力では難しい」という気持ちを大事にする。自身の活動を振り返るように自己評価をする機会を設けたり、他の教員がどう感じたかなどの感想を聞いたりする。

⑤教育的ニーズの変容 (①~④の支援後に記入)	A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	受容期	B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)	受容期	C8 経験 (生活経験が低い)	試行期
	A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)	試行期	C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない)	試行期	F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない)	試行期
	A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)	試行期	C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)	試行期		

⑥具体的な支援の効果 (⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)					
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
・登校が安定してきた。 ・『学校が楽しい』という発言が多い。 ・活動への意欲が高まってきており、様々な活動に意欲的に取り組んでいる。	・自分の正直な気持ちや思いを表現できる機会が増えている。 ・活動への自信から、人間関係の広がりにつながっている。 初対面の方との関わりを楽しむ姿もある。	・苦手だと感じていた学習にも目を向け、自分から意欲的に取り組めるようになってきた。 ・苦手だったPC操作や文字の読み書き等に対するの苦手意識が徐々に無くなってきた。	/	/	・自分の失敗を受け入れ、自分で解決しようと努力をしたり、難しい場合は近くの教師に依頼したりする場面が増えてきた。

自立活動 事例シート

小・ 中 ・高	1・2・ 3 ・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	自閉症スペクトラム、選択性かみ黙、社交不安障害
教育課程	準ずる教育課程	準ずる教育内容(下学年適用)	知的障がい教育課程(知的代替) 自立活動を主とする教育課程

*①～⑥はシート「2 整理・変更シート」の項目

1) 実態把握

収集した情報	<収集した情報> ・友達から言われた言葉がきっかけで、小3から登校決りが始まる。保健室登校や特別支援学級への所属、放課後登校等を試したが、不安が強く、登校は安定せず。本校入学後、一日に数時間程度の登校から開始。徐々に登校できる時間が増えてきたが、気持ちの不安定さから登校できなくなることも。 ・家庭でのトラブル(言い合いや喧嘩)が多い。気持ちが不安定な時は睡眠が安定しないことも。 ・自分のことを理解してほしい、認めてほしいという気持ちが強い。 ・優しい性格で、周りの仲間や大人に気を遣ったり、話を合わせたりする場面が多い。 ・野菜づくりや生きものの世話が好きで、知識が豊富である。また、ギター演奏に少しずつ興味が高まってきている。 ・「しっかりとらないといけない」「頑張らないといけない」という気持ちが強い。						
	Co-MaMeの 情報 (参考①)	A2 感情のコントロール(気持ちを認められない、すぐに怒ってしまう) A6 気持ちの表現(気持ちを言葉・文字に表せない) A7 情緒の安定(雑なことを思い出してしまう、イライラする)	受容期 受容期 受容期	B5 家族との関係(家族との関係がうまくいかない) C3 聞き取り・理解力(話を聞いても理解できない、指示が伝わらない) C4 読み・書き(文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)	受容期 受容期 受容期	C8 経験(生活経験が低い) F4 病気の理解(自分自身の病状を理解していない)	受容期 受容期
収集した情報の整理	自立活動の区分に即して整理	A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
	自立活動の領域・項目	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)
<収集した情報の整理> ・過去のできなかった経験やトラウマから、活動参加や人との関わりに対して不安が強い。 ・家庭でのトラブル(言い合いや喧嘩)が多い(自分の気持ちを理解してほしい、自分のことを認めてほしい)。 ・何事にも頑張りたいと思う気持ちが強い → 「しっかりとらないといけない」という気持ちが強くなり、辛くなってしまふことも。 ・好きな活動(ギター演奏、生きものの世話、体を動かす活動、野菜づくり)の際は、意欲的に活動できる場面が多い。 ・とても優しい性格である。周りに合わせようとするあまり、自分の本当の気持ちを伝えることが難しいことも。							

2)課題(参考②)	A2:家庭では、自分の気持ちが爆発し、暴言や暴力に発展することがある。A6:嫌だった活動や自分の気持ちを表現できず、後になって「あの時は…」と伝えてくることある。A7:過去の経験やトラウマから、活動に対する不安が強い。集団活動や新しい活動等に抵抗がある。B5:自分の気持ちを分かってくれたい思いが強く、うまく伝わらないときは喧嘩になってしまう。C3:指示理解や説明を正確に理解することが難しいときがある。C4:不登校期間が長かったこともあり、学年相応の読み書きが定着していない。C8:過去の失敗や経験から、無理だと感じてしまうことが多く、一歩が踏み出せないことがある。F4:不登校になってしまったことについて、病状や特性に原因があることを受け入れられていない。
-----------	--

3)ねらい(参考③)	・自らが「楽しむこと」を十分に経験する中で、自己肯定感を高めたり、活動参加への自信をつけたりする。 ・社会生活に必要なスキルや、豊かな経験を自身の生活に生かせるようにする。
------------	---

4) 具体的な指導内容の選定

必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)
具体的な指導内容(参考④)	アウトドア体験を通し、好きな物事への興味・関心の深め方や楽しみ方を身につける。					
	<活動内容> ※自立活動の時間の指導を中心に ・住空間について学ぶ。 →テントやタープの設置、シュラフやマットの使い方、テーブルやチェアの組み立て等 ・キャンプ用の調理道具を使う。 →飯盒、スキレット、ダッチオーブン、シュラフ、スタッキングツール等の使用や収納 ・キャンプ道具のレイアウトを考える。 →これまでの使用したキャンプ道具を使い、実際にレイアウトを考え、キャンプの雰囲気を楽しむ ・薪割りや焚火について学ぶ。 →薪割りの仕方や火の起こし方、焚火台の組み立てや、薪の入れ方、空気入れ等を実際に体験する。 ・野外調理を実際に行う。 →これまでの経験を生かし、道具を使いながら実際に野外でキャンプ飯を作る。 ・木を使った製品作りやナイフチャクラフト体験 →ナイフを使い、木を削ってフェザースティックや木製のスプーン・フォークを作ったりする。	<活動内容> ※自立活動の時間の指導を中心に ・畑やプランターで野菜の栽培・収穫を行う。 →自分で何を植えるかを考える。 →畑の土づくりについて学び、何が必要かを考えながら実際の作業に生かす。 →野菜の種類や時期によって、必要な手入れや剪定の仕方等を調べる。 ・調理活動 →何を作るかを自分で考えたり、周り相談しながらメニューを決めたりする。 →必要な材料や道具について考える。 →買い物に行く体験を増やし、効率的な買い方や値段の見方等を知る。 →同じ題材を使って、次は何を作るか、創意工夫を凝らしながらメニューを考える。	<活動内容> ※自立活動の時間や休み時間を中心に ・簡単なコード弾きを行う。 ・セーハコードに挑戦する。 ・簡単な楽曲に挑戦する。 ・他楽器とのセッションを経験する。 ・集客し、実際に校内でミニライブを開催する。 ・ミニライブ開催のための準備をする。 →チラシ・ポスター作り、会場設置、セットリスト考案 ・ライブの反省や改善点をメンバーと話し合い、次回のライブに生かせるようにする。 ・難しい楽曲や演奏法に挑戦する。 ・メンバーと打ち合わせや相談を繰り返ししながら、音・リズム合わせや演奏の強弱を工夫する。			
	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 A6:受容→試行、A7:受容→試行、C3:受容→試行 C8:受容→試行	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 A6:受容→試行、A7:受容→試行、C3:受容→試行 C4:受容→試行、C8:受容→試行	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 A6:受容→試行、A7:受容→試行、C3:受容→試行 C4:受容→試行、C8:受容→試行			

成果と課題(参考⑤、⑥)

成果	・活動への「安心感」「充実感」「達成感」の高まり → 活動への自信が身につく。休むことなく登校できるようになる。 ・自分の正直な気持ちや思いを表現できる機会が増える → 家庭での悩みを担任に話せる。授業中に自分の意見を発表できる。 ・活動の充実が、人間関係の広がりにつながる → 担任をはじめ、学部教員との信頼関係が深まる。他学部の教員にも自分から関わられる。 ・失敗したことを受け、次の経験として生かせる → 活動の中で失敗があっても、次にどうするかを考えながらチャレンジできる機会が増える。 ・教科学習への意欲が向上、行事参加も意欲的 → 苦手意識のあった教科学習や集団活動にも意欲的に参加できるようになる。
課題	・新しい環境(進学)で、これまで経験したことをどれだけ生かせるか。 ・新たな人間関係(仲間や教師)をつくる際、自分からどれだけアプローチができるか。 ・できないときや分からないときに、近くの仲間や教師に自分から支援を求めることができるか。 ・得意なことや苦手なことを受け止め、新しいことにチャレンジしていけるか。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮（Co-MaMe） アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

（教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別的教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 2023年 5月 26日（金）
2回目 2024年 1月 12日（金）

小・中・ 高1 ・2・3・4・5・6年	障害名（病名） <small>（精神疾患・心身症等の障害名（病名））</small>	軽度知的発達症、言語発達遅延、社会コミュニケーション症、睡眠リズム障害
教育課程	準ずる教育課程 ・ 準ずる教育内容（下学年適用） ・ 知的障がいの教育課程（知的代替） ・ 自立活動を主とする教育課程	

心理	1回目	2回目
A 1 不安・悩み <small>（不安が強い、悩みが頭から離れない）</small>	◎	◎
A 2 感情のコントロール <small>（気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう）</small>		
A 3 こだわり <small>（一つのことにとこだわると他のことが考えられない）</small>		
A 4 意欲・気力 <small>（目標が持てない、やる気がおきない）</small>	○	○
A 5 自己理解 <small>（何が辛いのか自分でもわからない）</small>	○	○
A 6 気持ちの表現 <small>（気持ちを言葉・文字に表せない）</small>	○	○
A 7 情緒の安定 <small>（嫌なことを思い出してしまう、イライラする）</small>		
A 8 気分の変動 <small>（気分の浮き沈みがある）</small>	○	
A 9 自信 <small>（自分に自信がない、自己肯定感が低い）</small>	○	○

社会性	1回目	2回目
B 1 集団活動 <small>（集団の中にいると疲れる、ルールに従えない）</small>	◎	◎
B 2 社会のルールを理解 <small>（学校や社会の規則が守れない、自分で変更する）</small>	○	○
B 3 コミュニケーションスキル <small>（あいづちがうてない、人の話が聞けない）</small>		
B 4 同年代との関係 <small>（相手のことを考えた言動ができずトラブルになる）</small>	○	○
B 5 家族との関係 <small>（家族との関係がうまくいかない）</small>	○	○
B 6 教師との関係 <small>（教師を信用しない、教師とのトラブル）</small>		
B 7 異性との関係 <small>（異性との関係がうまくいかない）</small>		
B 8 他者への信用 <small>（人が信用できない、人と関わりたくない）</small>	○	
B 9 他者への相談 <small>（困った時に相談できない）</small>	○	
B 10 他者理解 <small>（表情や態度から気持ちが読み取れない）</small>	○	

学習	1回目	2回目
C 1 学習状況 <small>（勉強の仕方がわからない）</small>	◎	○
C 2 処理能力 <small>（書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない）</small>	○	
C 3 聞き取り・理解力 <small>（話を聞いても理解できない、指示内容がわからない）</small>	○	
C 4 読み・書き <small>（文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない）</small>	○	○
C 5 記憶力 <small>（すぐに忘れてしまう）</small>	○	
C 6 注意・集中 <small>（集中が続かない、気が散って集中できない）</small>	○	
C 7 学習への意識 <small>（嫌いな教科に出たくない）</small>	○	○
C 8 経験 <small>（生活経験が低い）</small>	○	◎

身体	1回目	2回目
D 1 身体状況・体調 <small>（お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる）</small>		
D 2 巧緻性 <small>（手先を使って操作することが指示通りできない）</small>		
D 3 動作・体力 <small>（体力がない、動きがはやくできない）</small>	○	○
D 4 多動性 <small>（じっとしていられない、待てない）</small>		
D 5 感覚過敏 <small>（においに敏感、大きな声が嫌）</small>		

学校生活	1回目	2回目
E 1 見通し <small>（予定の変更が受け入れられない）</small>	○	
E 2 物の管理 <small>（忘れ物が多い、物をなくしてしまう）</small>		
E 3 登校・入室への抵抗感 <small>（学校へ行きたくない、教室には入れない）</small>	○	

自己管理	1回目	2回目
F 1 睡眠・生活リズム <small>（朝起きられず遅刻してしまうことが多い）</small>	○	◎
F 2 食事 <small>（給食が食べられない、外食ができない）</small>	○	○
F 3 服薬 <small>（薬を手放せない、薬の管理が面倒）</small>		
F 4 病気の理解 <small>（自分自身の病状を理解していない）</small>	○	○
F 5 ストレスへの対処 <small>（ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい）</small>	○	○

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目(◎)を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果(児童生徒の変容)を項目別に記載してください。

小・中・高	①・2・3・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	<small>軽度知的発達症、言語発達遅延、社会コミュニケーション症、 睡眠リズム障害</small>
教育課程	準ずる教育課程 ・ 準ずる教育内容(下学年適用) ・ 知的障がい教育課程(知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程		

①実態把握 (プルダウンメニューから項目 を選択)	A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない)	受容期			
	B1 集団活動(集団の中に入ると疲れる、ルールに従えない)	受容期			
	C1 学習状況(勉強の仕方がわからない)	受容期			
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しがもてない活動や自信がない活動に不安を感じ、学習を拒否する。とくに集団活動に抵抗感がある。 ・書字がうまくできず、教科学習に苦手意識がある。 				
③支援・配慮等のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の登校日の学習内容を自己選択・自己決定する機会を設定することで、見通しをもって活動に参加できるようにするとともに、新しい活動や集団活動に挑戦できるようにする。 ・ICT機器の活用を学習方法の選択肢の1つとして提示することで、書字の代替としてICT機器を活用し、様々な教科学習に取り組めるようにする。 				
④具体的な支援の手立て:①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入					
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
帰りのSHRの際、次回の登校日に取り組みそうな学習をリストから選択する時間を設定する。当日のSHRで、前回選んだ学習を確認し、授業を始める。	段階的に生徒の活動範囲が広がる学習内容をリストに入れて提示する。	タブレットによるフリック入力やキーボード入力を使って学習に参加できるよう、Googleアプリを活用した教材を準備して提示する。			

⑤教育的ニーズの変容 (①～④の支援後に記入)	A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない)	受容期			
	B1 集団活動(集団の中に入ると疲れる、ルールに従えない)	受容期			
	C1 学習状況(勉強の仕方がわからない)	試行期			

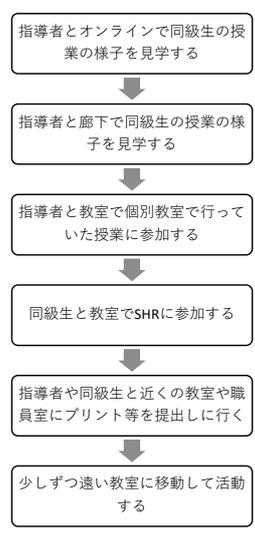
⑥具体的な支援の効果(⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)					
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
<ul style="list-style-type: none"> ・自分で選択した学習は、最後までやり遂げることができた。 ・分からない活動があれば、指導者に質問して、活動を確認することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段階的に違う教室での活動や集団活動に参加できるようになった。 ・高等部全体で行う文化祭の準備に参加することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科学習でタブレットを使用し、細かくて分かりづらい文字は、自分で拡大して確認するようになった。 ・フリック入力が得意であることから、入力設定の変更を担当に依頼して、自分からICT機器を使いやすいように活用した。 			

自立活動 事例シート

小・中・高	①・2・3・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	軽度知的発達症、言語発達遅延、社会コミュニケーション症、睡眠リズム障害
教育課程	準ずる教育課程 ・ 準ずる教育内容(下学年適用) ・ 知的障がいの教育課程(知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程		

*①～⑥はシート「2整理・変容シート」の項目

1) 実態把握							
収集した情報	<p><収集した情報></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に対する不安、同地域、同学年の児童生徒との接触への緊張が強い。小学校より不登校で、個別の教室で週1日1時間程度の学習を継続して行っている。 ・家庭では、部屋から出ることがなく、ゲームをして過ごしていることが多い。食事も自分の部屋で1人で食べている。人と関わる場面が登校する日のみである。 ・記憶力が弱い他、書字が苦手で不器用さが見られる。 						
	Co-MaMeの情報(参考①)	A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない)	受容期				
		B1 集団活動(集団の中に入ると疲れる、ルールに従えない)	受容期				
		C1 学習状況(勉強の仕方がわからない)	受容期				
収集した情報の整理	自立活動の区分に即して整理	A心理	B社会性	C学習	D身体	E学校生活	
	自立活動の領域・項目	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 ①②③	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)
	<p><収集した情報の整理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不安や緊張が強い中、個別の教室で週1日1時間程度の学習を継続して行うことができています。 ・人と関わる場面が少なく、集団活動に抵抗感があるが、慣れた指導者との学習を継続している。 ・記憶力が弱い他、書字が苦手な不器用さが見られるが、自分ができると感じた学習には取り組むことができています。 						
2) 課題(参考②)	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しがもてない活動や自信がない活動に不安を感じ、学習を拒否する。とくに集団活動に抵抗感がある。 ・書字がうまくできず、教科学習に苦手意識がある。 						
3) ねらい(参考③)	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の登校日の学習内容を自己選択・自己決定する機会を設定することで、見通しをもって活動に参加できるようにするとともに、新しい活動や集団活動に挑戦できるようにする。 ・ICT機器の活用を学習方法の選択肢の1つとして提示することで、書字の代替としてICT機器を活用し、様々な教科学習に取り組めるようにする。 						

4) 具体的な指導内容の選定						
必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 ①②③	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)
具体的な指導内容(参考④)	<p>見開きのノートを使って、以下の活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①下校時のSHRで、次回の登校日に取り組みそうな学習をリストから選択する(青枠) ②登校時のSHRで、前回の学習の様子が分かる指導者からのコメントや写真を見て振り返る(緑枠) ③前回選択した学習を確認し、再度、今日取り組む学習をリストから選択する(赤枠) 		<p>段階的に生徒の活動範囲が広がる学習内容をリストに入れて提示する。</p> <p>提示した学習内容</p> 	<p>タブレットによるフリック入力やキーボード入力を使って学習に参加できるよう、Googleアプリを活用した教材を準備して提示する。</p> 		
	<p>【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】</p> <p>A1. 不安・悩み、受容期～試行期 「無理なく好きな活動ができるようにする」「相談しながら行えるようにする」「見通しをもたせる」</p>		<p>【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】</p> <p>B1. 集団活動、受容期～試行期 「安心できる環境づくり」「相談しながら行えるようにする」「集団構成や時間を工夫する」</p>	<p>【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】</p> <p>C1. 学習状況、受容期～試行期 「分かりやすく提示する」「できる内容を学習する」「取り組みやすいように教材を工夫する」</p>		

成果と課題(参考⑤、⑥)

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・週1日1時間の学習を継続して行うことができた。最近では、週2日の登校に挑戦している。 ・新しい学習内容に取り組んだり、段階的に集団活動に参加したりできるようになった。 ・分からない活動を確認したり、ICT機器を使いやすいように設定の変更を依頼したりする等、自分から指導者にはたらきかけるようになった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠・生活リズムの崩れにより、1日の登校時間を延ばすことは難しいと本人は話している。 ・登校日以外は部屋に引きこもっており、学校以外とのつながりが無い。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) アセスメントシート

6つのカテゴリにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

(教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別的教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。)

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 R5年 8月 8日 (火)
2回目 R6年 1月 18日 (木)

小・中・高①・2・3・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	適応障害/自閉症スペクトラム障害/注意欠陥多動障害
教育課程	準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がい教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程	

心理	1回目	2回目
A1 不安・悩み <small>(不安が強い、悩みが頭から離れない)</small>	○	
A2 感情のコントロール <small>(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)</small>		
A3 こだわり <small>(一つのことこだわると他のことが考えられない)</small>		
A4 意欲・気力 <small>(目標が持てない、やる気がおきない)</small>		
A5 自己理解 <small>(何が辛いのか自分でもわからない)</small>		
A6 気持ちの表現 <small>(気持ちを言葉・文字に表せない)</small>		
A7 情緒の安定 <small>(嫌なことを思い出してしまう、イライラする)</small>	○	
A8 気分の変動 <small>(気分の浮き沈みがある)</small>	◎	◎
A9 自信 <small>(自分に自信がない、自己肯定感が低い)</small>	○	

社会性	1回目	2回目
B1 集団活動 <small>(集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)</small>	○	
B2 社会のルールの理解 <small>(学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)</small>		
B3 コミュニケーションスキル <small>(あいづちがうてない、人の話が聞けない)</small>		
B4 同年代との関係 <small>(相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)</small>		○
B5 家族との関係 <small>(家族との関係がうまくいかない)</small>		
B6 教師との関係 <small>(教師を信用しない、教師とのトラブル)</small>		
B7 異性との関係 <small>(異性との関係がうまくいかない)</small>		
B8 他者への信用 <small>(人が信用できない、人と関わりたくない)</small>		
B9 他者への相談 <small>(困った時に相談できない)</small>		
B10 他者理解 <small>(表情や態度から気持ちが読み取れない)</small>		

学習	1回目	2回目
C1 学習状況 <small>(勉強の仕方がわからない)</small>	○	
C2 処理能力 <small>(書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)</small>		
C3 聞き取り・理解力 <small>(話を聞いても理解できない、指示内容がわからない)</small>		
C4 読み・書き <small>(文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)</small>		
C5 記憶力 <small>(すぐに忘れてしまう)</small>	○	
C6 注意・集中 <small>(集中が続かない、気が散って集中できない)</small>	◎	◎
C7 学習への意識 <small>(嫌いな教科に出たくない)</small>	○	○
C8 経験 <small>(生活経験が低い)</small>		

身体	1回目	2回目
D1 身体状況・体調 <small>(お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)</small>	◎	○
D2 巧緻性 <small>(手先を使って操作することが指示通りできない)</small>		
D3 動作・体力 <small>(体力がない、動きがはやくできない)</small>		
D4 多動性 <small>(じっとしてられない、待てない)</small>		
D5 感覚過敏 <small>(においに敏感、大きな声が嫌)</small>	○	

学校生活	1回目	2回目
E1 見通し <small>(予定の変更が受け入れられない)</small>		
E2 物の管理 <small>(忘れ物が多い、物をなくしてしまう)</small>	◎	
E3 登校・入室への抵抗感 <small>(学校へ行きたくない、教室には入れない)</small>		

自己管理	1回目	2回目
F1 睡眠・生活リズム <small>(朝起きられず遅刻してしまうことが多い)</small>		
F2 食事 <small>(給食が食べられない、外食ができない)</small>		
F3 服薬 <small>(薬が手放せない、薬の管理が面倒)</small>		
F4 病気の理解 <small>(自分自身の病状を理解していない)</small>		
F5 ストレスへの対処 <small>(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)</small>	○	

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目(◎)を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果(児童生徒の変容)を項目別に記載してください。

小・中・高	①・2・3・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	適応障害/自閉症スペクトラム障害/注意欠陥多動障害
教育課程	進ずる教育課程 ・ 進ずる教育内容(下学年適用) ・ 知的障がい教育課程(知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程		

①実態把握 <small>(プルダウンメニューから項目を選択)</small>	A 8 気分の変動(気分の浮き沈みがある)	受容期	D 1 身体状況・体調(お腹や腰が痛い、過呼吸や喘息がおこる)	試行期		
	C 6 注意・集中(集中が続かない、気が散って集中できない)	試行期				
	E 2 物の管理(忘れ物が多い、物をなくしてしまう)	受容期				
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・気分によって授業に集中したり、活動に取り組んだりできない。 ・気分や、自分の苦手な活動には取り組まず、体の不調を訴える。 ・物の管理がうまくできない。 					
③支援・配慮等のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の構造化 ・自分の特性を知り、自分が「困っている」ということに気付く。 ・苦手なことは何かが分かり、苦手なことへの向き合い方を教師と一緒に考えられる。 					
④具体的な支援の手立て:①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・個別に気持ちを聞いて受け止める。 ・個別に気持ちを聞いて教師が言語化する。 ・気分転換できるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・席を変更する。 ・短い課題 ・優先順位を決める ・興味が持てるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活のリズムを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の構造化 ・休憩するときのルールを明確化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身辺を整理する時間を設定する。 	

⑤教育的ニーズの変容 <small>(①～④の支援後に記入)</small>	A 8 気分の変動(気分の浮き沈みがある)	受容期				
	C 6 注意・集中(集中が続かない、気が散って集中できない)	受容期				
	C 7 学習への意識(嫌いな教科に出たくない)	試行期				

⑥具体的な支援の効果(⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いたり、雑談をしたりする時間を増やしたことで、体の不調を訴えることが減った。 ・落ち込んだ時には、先輩と関わり、気持ちを回復させることが多くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったときには上級生に話を聞いてもらうことができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1回分の課題を短く設定したことで、学習に集中できる時間が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の不調を訴えることが激減した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・別室利用が減り、学習や活動に参加できる時間が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業準備がスムーズになってきた。 	

自立活動 事例シート

小・中・高	①・2・3・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	適応障害・自閉症スペクトラム障害・注意欠陥多動性障害
教育課程	準ずる教育課程	準ずる教育内容(下学年適用)	知的障がい教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程

*①～⑥はシート「2整理・変容シート」の項目

1)実態把握

収集した情報	<収集した情報>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の特性の理解が正しくできていない。 ・授業中、気付いたことを場に関係なく言葉に出してしまうことが多い。 ・生活経験は多く、家庭では幼い従妹の面倒をよく見ている。小さな子どもが好きである。 ・持ち物の整理ができず、移動がスムーズに行かないことが多い。次時の準備に時間がかかる。 ・授業中机上で熟睡してしまうことが多い。 ・しゃべり始めると中々止めることができない。 ・教科に関わらず、難しい学習内容になるとすぐに眠ってしまう。 ・技能教科では積極的に活動に取り組む様子が見られる。 ・1学年11人で、交友関係が濃くなりがちということもあり、気持ちが落ちたり苛立っていたりすると、同学年の友達を避けることがある。 					
	Co-MaMeの 情報 (参考①)	A 8 気分の変動(気分の浮き沈みがある)	受容期	D1 身体状況・体調(お腹や頭が痛い、通呼吸や喘息がおこる)	試行期		
	C 6 注意・集中(集中が続かない、気が散って集中できない)	E 2 物の管理(忘れ物が多い、物をなくしてしまう)	試行期	受容期			
収集した情報の整理	自立活動の区分に即して整理	A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
	自立活動の領域・項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	①(2)(3)④(5)	(1)(2)③	(1)(2)(3)(4)	①②(3)(4)(5)	(1)(2)(3)(4)(5)	(1)(2)(3)(4)(5)	
	<収集した情報の整理>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に眠ってしまうことがよく見られる(健) ・物の管理が上手く行かず、次時の準備に時間がかかる(環) ・学習に対しての苦手意識が強い。体の不調を訴え、別室での休憩を申し出ることが多くある。(心) 					

2)課題 (参考②)	<ul style="list-style-type: none"> ・気分によって授業に集中したり、活動に取り組んだりできない。 ・気分や、自分の苦手な活動には取り組まず、体の不調を訴える。 ・物の管理がうまくできない。
---------------	--

3)ねらい (参考③)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の構造化をすることで、主体的に準備ができるようにする。 ・自分の特性を知ること、対処法を考え、必要以上に不安にならないようにする。 ・不調時の振り返りをするを通して、対処法を考え実践できるようにする。
----------------	---

4)具体的な指導内容の選定

必要な自立活動の項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	①(2)(3)④(5)	(1)(2)③	(1)(2)③(4)	(1)②(3)(4)(5)	(1)(2)(3)(4)(5)	(1)(2)(3)(4)(5)
具体的な指導内容(参考④)	<p>物が散乱して収集がつかず、時間が無の中で次の学習の道具を探し、常に焦っている様子が見られる。座席を一番後ろにし、個人ロッカーに近く、すぐに取り出せる位置にする。各教科で使用するフラットファイルには背表紙を付けて見やすくするとともに、本立てのようにして環境を整えることを通して、片づける場所を明確化する。このことで、使ったものを戻す場所が分かり、次の活動への移動や準備・心の状態を整え、落ち着いて活動に参加できるようにする。</p> <p>ワーキングメモリが少なく、処理速度が高いことから、課題は短く区切って提示することで、学習に対する苦手意識を減らすとともに、一つの課題が終わるごとに、達成感を感じられるようにする。また、短く区切った課題を繰り返すことで、学習定着を目指す。</p> <p>聞く力より、見る力が強いことから、ワークシートには図やイラストを取り入れたものを使用する。また、作業を伴う学習が得意なことからパソコンを利用した課題提出を設定し、考えたことや、思ったことを即座に形にして残すことで学習意欲を高め、活動に参加できる時間を増やす。</p> <p>気持ちが沈んで、次の活動に移れないことが多いため、不調時には教師と一緒に振り返りをする時間を設ける。一つのことが気になると頭の中がそのことで一杯になる。また、話の一部だけを聞いて全体を決めてしまうという考え方の癖から、気持ちを切り替える手段を教師と考えるようにする。大人の顔色をうかがうことも多く、早合点しやすいという特性から、友達関係など誤解が生まれやすい指導時には、個別でやり取りをしながらアドバイスする。このような指導を繰り返すことで、自分の特性を理解し、対処法を考えられるようにする。</p>					
	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】	
	C6 注意・集中(集中が続かない、気が散って集中できない) 受容期		C7 学習への意識(嫌いな教科に出たくない) 試行期		A 8 気分の変動(気分の浮き沈みがある) 受容期	

成果と課題 (参考⑤、⑥)

成果	波の幅は少なくなってきた。授業中、眠っていることが減った。別室で休憩をする時間が激減した。物が床にあることがなくなり、授業準備も早くなってきた。落ち着いて活動に参加できる時間が増えた。
課題	どのようなきっかけで気持ちが切り替わるかを自分で把握できると良い。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮（Co-MaMe） アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

（教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別的教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 2023年 9月 7日（木）

2回目 2024年 1月 18日（木）

小	中	高	1	2	3	4	5	6	障害名（病名） <small>（精神疾患・心身症等の障害名（病名））</small>	起立性調節障害、身体表現性障害、 自閉症スペクトラム				
教育課程		進ずる教育課程							準ずる教育内容（下学年適用）		知的障がいの教育課程（知的代替）		自立活動を主とする教育課程	

心理		1回目	2回目
A 1	不安・悩み <small>（不安が強い、悩みが頭から離れない）</small>	○	○
A 2	感情のコントロール <small>（気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう）</small>		
A 3	こだわり <small>（一つのことにこだわると他のことが考えられない）</small>		
A 4	意欲・気力 <small>（目標が持てない、やる気がおきない）</small>	○	◎
A 5	自己理解 <small>（何が辛いのか自分でもわからない）</small>	◎	◎
A 6	気持ちの表現 <small>（気持ちを言葉・文字に表せない）</small>	○	○
A 7	情緒の安定 <small>（嫌なことを思い出してしまう、イライラする）</small>		
A 8	気分の変動 <small>（気分の浮き沈みがある）</small>	○	○
A 9	自信 <small>（自分に自信がない、自己肯定感が低い）</small>		○

社会性		1回目	2回目
B 1	集団活動 <small>（集団の中にいると疲れる、ルールに従えない）</small>		
B 2	社会のルールの理解 <small>（学校や社会の規則が守れない、自分で変更する）</small>		
B 3	コミュニケーションスキル <small>（あいづちがうてない、人の話が聞けない）</small>	○	○
B 4	同年代との関係 <small>（相手のことを考えた言動ができずトラブルになる）</small>	○	
B 5	家族との関係 <small>（家族との関係がうまくいかない）</small>	○	○
B 6	教師との関係 <small>（教師を信用しない、教師とのトラブル）</small>		
B 7	異性との関係 <small>（異性との関係がうまくいかない）</small>		
B 8	他者への信用 <small>（人が信用できない、人と関わりたくない）</small>		
B 9	他者への相談 <small>（困った時に相談できない）</small>		
B 10	他者理解 <small>（表情や態度から気持ちが読み取れない）</small>	○	

学習		1回目	2回目
C 1	学習状況 <small>（勉強の仕方がわからない）</small>		
C 2	処理能力 <small>（書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない）</small>		
C 3	聞き取り・理解力 <small>（話を聞いても理解できない、指示内容がわからない）</small>		
C 4	読み・書き <small>（文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない）</small>		
C 5	記憶力 <small>（すぐに忘れてしまう）</small>		
C 6	注意・集中 <small>（集中が続かない、気が散って集中できない）</small>		
C 7	学習への意識 <small>（嫌いな教科に出たくない）</small>		
C 8	経験 <small>（生活経験が低い）</small>	○	○

身体		1回目	2回目
D 1	身体状況・体調 <small>（お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる）</small>	◎	○
D 2	巧緻性 <small>（手先を使って操作することが指示通りできない）</small>		
D 3	動作・体力 <small>（体力がない、動きがはやくできない）</small>	○	○
D 4	多動性 <small>（じっとしてられない、待てない）</small>		
D 5	感覚過敏 <small>（においに敏感、大きな声が嫌）</small>		

学校生活		1回目	2回目
E 1	見通し <small>（予定の変更が受け入れられない）</small>		
E 2	物の管理 <small>（忘れ物が多い、物をなくしてしまう）</small>		
E 3	登校・入室への抵抗感 <small>（学校へ行きたくない、教室には入れない）</small>	○	

自己管理		1回目	2回目
F 1	睡眠・生活リズム <small>（朝起きられず遅刻してしまうことが多い）</small>	◎	◎
F 2	食事 <small>（給食が食べられない、外食ができない）</small>		
F 3	服薬 <small>（薬が手放せない、薬の管理が面倒）</small>		
F 4	病気の理解 <small>（自分自身の病状を理解していない）</small>		
F 5	ストレスへの対処 <small>（ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい）</small>	○	○

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目 (◎) を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果 (児童生徒の変容) を項目別に記載してください。

小・中・高	①・2・3・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	起立性調節障害、身体表現性障害、 自閉症スペクトラム
教育課程	◎ 進める教育課程 ・ 進める教育内容 (下学年適用) ・ 知的障がい教育課程 (知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程		

①実態把握 (プルダウンメニューから項目 を選択)	A4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない)	受容期	A5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない)	受容期	A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)	試行期
	B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)	試行期	C8 経験 (生活経験が低い)	受容期	D1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)	受容期
	D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)	受容期	F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	受容期	F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	受容期
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・起床してから、活動を開始するまでに時間がかかってしまう。 ・真面目であるがゆえに、他人が間違った発言をすると必要以上に否定する傾向がある。 ・学習への意欲はあるが、体調の関係で登校することが難しい日がある。 ・何が、なぜ不安であるか、自分自身が理解できていない。 					
③支援・配慮等のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組むことができるように、本人の体調や意思を尊重しながら、言葉かけを行う。 ・定期的に取り組んでいる内容を確認し、評価をする。 ・主体的に取り組むことができるように記録用紙を作成する。 ・家庭訪問を定期的に行い、対面でコミュニケーションをとる時間を設ける。 					
④具体的な支援の手立て：①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路について知識を身に付けられるようにする。 ・やりたい活動を自分から言うようにする。 ・行動や気持ちを振り返られるようにする。 ・気持ちを整理し、伝えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や文字、具体的な場面から、多様な感じ方があること、自分の言動がどのように感じられているかを考える機会をもつ。 ・家族に不満があった場合、どのように伝えるかを考え、整理する時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段階を踏んで、教員と一緒に公共施設の利用を練習する。 ・職場見学を行い、進路を意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体温や血圧を測定し、自分の健康状態を把握する。 ・気持ちが沈む状況を客観的に考え、気付けるようにする。 ・ストレッチなどの軽い運動を体調に合わせて行うように言葉かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠の連絡をする時間を相談しながら決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体調に合わせた学習を設定する。 ・体調や体力に合った運動量や難易度の学習を設定する。 ・時間や予定を意識させる。 ・生活リズム (起床、就寝時間、服薬時間) を記録して、定期的に振り返る。 	

⑤教育的ニーズの変容 (①～④の支援後に記入)	A4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない)	受容期	A5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない)	受容期	A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)	試行期
	B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)	試行期	C8 経験 (生活経験が低い)	受容期	D1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)	受容期
	D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)	試行期	F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	受容期	F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	受容期

⑥具体的な支援の効果 (⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路について自分の思いを伝えることができた。 ・出来事記録用紙に最近の印象的な出来事を主体的に記入することが数回あった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の行動に対し、不満に思ったことを保護者や教員に相談することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールやマナーを意識して公共施設を利用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にウォーキングに取り組むことで、徐々に歩く距離を伸ばすことができた。また、軽い運動をしに外へ出ることが、気分転換に繋がることに気が付くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席連絡をする時間を相談しながら決め、概ねその時間までに出欠の連絡をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記録した起床時間の傾向を見て、学習に取り組みやすい時間を考え、リモートで授業に参加する時間を提案することができた。 	

自立活動 事例シート

小・中・ 高	①・2・3・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	起立性調節障害、身体表現性障害、自閉症スペクトラム
教育課程	準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がい教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程		

*①～⑥はシート「2整理・変容シート」の項目

1)実態把握							
収集した情報	小学校高学年頃から、学校へ行く頻度が減った。中学校では支援員の先生と学習活動に取り組むことが主で、本人が得意な数学・科学について学習することが多かった。登校頻度は、2週間に一回程度。暑さや寒さ、天気の関係で過ごづらい日が続くと、生活習慣も徐々に崩れてしまう。探求意欲はあり、新しいことに気がつくことを楽しいと感じることができ、学習活動には前向きに取り組むことができる。しかし体力があまりなく、長時間続けて学習することに慣れておらず、合間に休憩時間を設けることが必要である。						
	Co-MaMeの情報(参考①)	A4 意欲・気力(目標が持てない、やる気おきない)	受容期	A5 自己理解(何が辛いのか自分でもわからない)	受容期	A6 気持ちの表現(気持ちを言葉・文字に表せない)	試行期
	B3 コミュニケーションスキル(あいづちがうてない、人の話を聞けない)	試行期	C8 経験(生活経験が低い)	受容期	D1 身体状況・体調(お腹や喉が痛い、通学や帰宅がおこる)	受容期	
	D3 動作・体力(体力がない、動きがはやくできない)	試行期	F1 睡眠・生活リズム(朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	受容期	F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	受容期	
収集した情報の整理	自立活動の区分に即して整理	A心理	B社会性	C学習	D身体	E学校生活	F自己管理
	自立活動の領域・項目	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)
	<収集した情報の整理> 起立性調節障害の影響もあり、午前中は体調が悪く活動できないことがあるが、午後にかけて改善することが多い。朝、調子が悪く、登校することができない日でも体調が改善してくるとリモートで授業に参加することができる。調子が良い日は自主的にウォーキングなどの運動を行い、体力向上を目指して取り組んでいる。卒業後の生活への不安は強く、福祉事業所の利用を中心に進路学習を進めている。						

2)課題(参考②)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習への意欲はあるが、体調の関係で登校することが難しい日がある。 ・何が、なぜ不安であるか、自分自身で理解できていない。 ・一度、生活リズムが崩れてしまうと立て直すのに時間がかかってしまう。
-----------	--

3)ねらい(参考③)	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のバイタルを記録することで、体調が良いときと悪いときの数値の差を客観的に比較することができる。 ・バイタルの数値と主観的な体調の感覚を比較して、調子が悪くなる原因を探る。 ・日常生活の出来事を気持ちの起伏と共に記録することで、不安や怒りの感情の原因を追及する。
------------	---

4)具体的な指導内容の選定						
必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)
具体的な指導内容(参考④)	① 活動の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・起床後、体温、血圧、心拍を測定し記録する。 ・日々の生活習慣を記録する。(睡眠時間、食事時間、服薬の時間) ・主観的な体調の善し悪しを5段階で評価する。 ・就寝前に一日の中で印象に残っている出来事を記録すると共に、そのときの気持ちを選択する。 					
	② ねらいを実現できるポイント <ul style="list-style-type: none"> ・記録しやすいように記録表を作成する。 ・出来事の記録は気軽に記入できるように詳しく書かなくても良いことを伝える。 ・定期的に教員と一緒に記入内容を確認する。 					
③ 留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・記録する習慣が身に付くまではこまめに記入を促すことばかかけを行う。 ・ポジティブな出来事の記録があったときは積極的な話題にして、喜びや楽しさの感情を共有する。 						
【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 A5 自己理解 … 試行期、A6 気持ちの表現 … 試行期 D1 身体状況・体調 … 試行期 F1 睡眠・生活リズム … 試行期						



成果と課題(参考⑤、⑥)	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が体調に関わらず、血圧は安定していることに気が付くことができた。 ・起床時間の傾向からリモートで授業を受けやすい時間を自分で考え、提案することができた。 ・主治医に記録表を見せ、どのような点を改善するべきなのか、体調が悪くなる原因について何か傾向が見られるか質問することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・しんどくなる原因を明確にする結果にはならなかった。 ・学習に取り組んだ時間、授業に参加した時間を記録表に記入できるようにする。 ・毎日、出来事を記録することは負担が大きかった。今後は週末に一週間の中で印象的な出来事を記入するようにする。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

(教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別的教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。)

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 5年 7月 5日 (水)
2回目 5年 12月 15日 (金)

小・中・ 高	1 ・2・3・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	自閉症スペクトラム障害・注意欠陥多動性障害
教育課程	準ずる教育課程 ・ 準ずる教育内容(下学年適用) ・ 知的障がいの教育課程(知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程		

心理	1回目	2回目
A 1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)	○	○
A 2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	◎	○
A 3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない)	○	○
A 4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない)		
A 5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない)		
A 6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)		○
A 7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)	○	○
A 8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある)		
A 9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い)	○	

社会性	1回目	2回目
B 1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)		◎
B 2 社会のルールを理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)		○
B 3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)	◎	
B 4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)	○	
B 5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)		
B 6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル)		
B 7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない)		
B 8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない)		
B 9 他者への相談 (困った時に相談できない)		
B 10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない)	○	

学習	1回目	2回目
C 1 学習状況 (勉強の仕方がわからない)		
C 2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)	○	
C 3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない)		◎
C 4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)		
C 5 記憶力 (すぐに忘れてしまう)		
C 6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)	◎	○
C 7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)		
C 8 経験 (生活経験が低い)	○	○

身体	1回目	2回目
D 1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)		
D 2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない)		
D 3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)	○	○
D 4 多動性 (じっとしてられない、待てない)	◎	○
D 5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌)	○	

学校生活	1回目	2回目
E 1 見通し (予定の変更が受け入れられない)		○
E 2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう)	○	
E 3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室には入れない)		

自己管理	1回目	2回目
F 1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	○	
F 2 食事 (給食が食べられない、外食ができない)		
F 3 服薬 (薬を手放せない、薬の管理が面倒)		
F 4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない)	○	
F 5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	○	○

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目(◎)を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果(児童生徒の変容)を項目別に記載してください。

小・中・高	①・2・3・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	自閉症スペクトラム障害・注意欠陥多動性障害
教育課程	準ずる教育課程 ・ 準ずる教育内容(下学年適用) ・ 知的障がいの教育課程(知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程		

①実態把握 (プルダウンメニューから項目 を選択)	A2 感情のコントロール(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	受容期	D4 多動性(じっとしてられない、待てない)	受容期	
	B3 コミュニケーションスキル(あいづちがうてない、人の話が聞けない)	受容期			
	C6 注意・集中(集中が続かない、気が散って集中できない)	受容期			
②課題	A2・疲労や不安から感情が爆発し、教室の飛び出しと暴言がある。 D4・じっと座ることができず、じぶんのペースで行動してしまう。 ・支持を聞かずに勝手な行動をする。 B3・人の話が聞けず、相手のことを考えないで行動してしまう。 C6・授業に集中することができず、立ち上がり関係ない話をする。				
③支援・配慮等のねらい	A2・別室でクールダウンをとり、気持ちの切り替えをはかることができる。 B3・話手に注目して話を聞くと、話をするとき確認しながら活動を行うことができる。 C6・興味のある活動内容、作業内容を準備することで、決められた時間集中することができる。 D4・活動の見通しを示し、身体を動かす活動を取り入れながら、落ち着いて学習に取り組む。				

A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
A2・クールダウンをし話を聞きながら、その時にできていること等を褒める。不安や困っていることを聞き共感する。	B3・いらいらしたり怒ったりした時等は、落ち着ける場所でクールダウンをする。 ・一日の行動を振り返り、話の伝え方やタイミングを確認する。 ・よい言葉使いや行動の時には褒めたり評価して自己肯定感を高める。	C6・時間内で学習する内容を予め提示し見通しを示す。 ・授業内の課題や学習内容を短時間でいくつか区切り、飽きがないような授業づくりを行う。 ・こまめに休憩時間を取り、集中する時間を設定する。	D4・活動の見通しを視覚的に示す。 ・飽きがないように、多様な課題を用意する。		

⑤教育的ニーズの変容 (①～④の支援後に記入)	A2 感情のコントロール(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	受容期	D4 多動性(じっとしてられない、待てない)	受容期	
	B3 コミュニケーションスキル(あいづちがうてない、人の話が聞けない)	試行期			
	C6 注意・集中(集中が続かない、気が散って集中できない)	試行期			

⑥具体的な支援の効果(⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)					
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
・教師に相談し、1人でクールダウンできる場所へ行き、気持ちを整えることができるようになってきた。 ・自分から相手に相談したい旨を伝えるようになった。	・現在の気持ちを聞くことにより困り感等の問題を解決し、クールダウンをすることで、次の活動に取り組めるようになってきた。	・生徒の状態から、授業での話し合いの場面を増やしたり、眠にならないような活動を設定することで、集中して取り組むことが多くなった。 ・活動内容を示すことで、学習の見通しがもてるようになった。	・気持ちが落ち着かず、大声を出すことがあるときは、集団から離れてクールダウンを設けた。 ・活動の手順をイラストや写真を使いわかりやすく示すことで見通しをもつことができてきた。		

自立活動 事例シート

小 ・ 中 ・ 高	① ・ ② ・ ③ ・ ④ ・ ⑤ ・ ⑥ 年	障害名 (病名) (精神疾患・心身症等の障害名 (病名))	自閉症スペクトラム障害・注意欠陥多動性障害
教育課程	準ずる教育課程 ・ 準ずる教育内容 (下学年適用) ・ 知的障がいのある教育課程 (知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程		

*①～⑥はシート「2 整理・変容シート」の項目

1) 実態把握

収集した情報	<収集した情報> ・ 社交性であり、初めての人も積極的に話しかけることができる。 ・ 注意されることが苦手で、注意されたことにストレスを抱え不穏になることや引きずることがある。 ・ 相手の立場や周辺の状況を考えながらの行動や言動は難しい。 ・ 集団活動やスポーツが苦手だが、参加することができる。 ・ 特定の話題で一方向的に話しかけることが多い。 ・ 体力、集中力があまりなく、疲れやすく飽きてしまうことが多い。						
	Co-MaMeの 情報 (参考①)	A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	受容期	D4 多動性 (じっとしていられない、待てない)	受容期		
		B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)	受容期				
		C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)	試行期				
収集した情報の整理	自立活動の区分に即して整理	A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
	自立活動の領域・項目	健康の保持 (1) (2) (3) (4) (5)	心理的な安定 (1) (2) (3)	人間関係の形成 (1) (2) (3) (4)	環境の把握 (1) (2) (3) (4) (5)	身体の動き (1) (2) (3) (4) (5)	コミュニケーション (1) (2) (3) (4) (5)
	<収集した情報の整理> ・ 継続した学習意欲と集中力が持てないことへの困難さ。 ・ 注意されたことに対するストレスから、周りを巻き込み不穏になり問題の対処法がわからない。 ・ 周りのことも考え他者との適切なかかわり方に関するスキルを取得する。						

2) 課題 (参考②)	A2・疲労や不安等から感情が爆発し、教室の飛び出しと暴言がある。 D4・じっと座ることができず、自分のペースで行動してしまう。 ・ 支持を聞かずに勝手な行動をとる。 B3・人の話が聞けず、相手のことを考えないで行動してしまう。 C6・授業に集中することができず、立ち上がり関係ない話をする。
-------------	--

3) ねらい (参考③)	A2・別室でクールダウンをとり、気持ちの切り替えをはかることができる。 B3・話手に注目して、話を聞くと、話をするとき確認しながら活動を行うことができる。 C6・興味のある活動内容、作業内容を準備することで、決められた時間集中することができる。 D4・活動の見通しを示し、対話を中心とした活動を取り入れながら、落ち着いて学習に取り組む。
--------------	---

4) 具体的な指導内容の選定

必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 (1) (2) (3) (4) (5)	心理的な安定 (1) (2) (3)	人間関係の形成 (1) (2) (3) (4)	環境の把握 (1) (2) (3) (4) (5)	身体の動き (1) (2) (3) (4) (5)	コミュニケーション (1) (2) (3) (4) (5)
具体的な指導内容 (参考④)	・ 学習の見通しをもつために、50分の授業内容を4つに区切って授業を進める。(教科の内容にもよるので、全教科同じではない。) 授業の初めに今日の授業内容を板書する。(又はカードで示す。) ・ 20分程度で1クールの指導を行う。(作業学習など教科によって異なる。) (20分以上できる場合もあるので、その日の体調、気持ちを確認しながら進める。) ・ 別室でクールダウンをとり気持ちの切り替えをはかる。 (現在の状態を確認しながら、困っていること、イライラなどを共感・受容する。) ・ 休憩時間を設定して、短時間活動に繰り返し取り組む。 ・ 視覚的な指示を出す。 ・ 短い文章、簡単でわかりやすい言葉で伝える。 ・ 集団活動に参加するとき、活動内容やクールダウンをした際の、その後の授業の確認を行う。 ・ 話をする際、聞く際に、時折内容を確認しながら進める。					
	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 A2・信頼している教師と話をする (相談も含む) ことで気分転換や心の安定をはかる。(受容期) C6・活動を短時間に集中できる時間で学習する。(試行期) B3・いらいらしたり怒った時等は、落ち着ける場所でクールダウンする。(受容期から試行期) D4・好きな活動やおしゃべりをし気持ちを受け止める。(受容期) ・ 行動を振り返り、伝え方や言葉遣いを確認する。 C6・時間内で学習する内容を提示し、視覚的に見通しをもてるようにする。					

成果と課題 (参考⑤、⑥)

成果	・ 自分からクールダウンしたい旨を相談し、その後の授業への参加の仕方を確認してから休むことができた。クールダウンをしたいが、頑張らなければという気持ちもあり、「〇〇分までやる」と決めて作業をすることが増えてきた。 ・ 学習や作業学習などで20分1クールで取り組むことができた。慣れてくると時間を伸ばして活動できる教科もある。 ・ 教科にもよるが、授業の内容を視覚的に示すことで、授業の流れが理解でき見通しをもって学習に取り組むことが多くなった。
課題	・ 自分がとった行動や言動に対して、相手にどのような影響を与え、またどんな気持ちになるのかを考えられるように振り返り等で取り組む必要がある。 ・ 話を聞いていないことで、話の内容をキーワードで捉え、話を理解することが難しい。短く簡単にわかりやすい会話を繰り返し指導していく。 ・ 行事や学習でも、自分で何かをやり遂げたという経験が不足しているので、成功体験を積み上げていくことが自己肯定感を高めることにつながる。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮（Co-MaMe） アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

（教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。）

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 令和5年 12月 5日（火）

2回目 令和6年 1月 16日（火）

小・中・ 高	1・ 2 ・3・4・5・6年	障害名（病名） <small>（精神疾患・心身症等の障害名（病名））</small>	統合失調症
教育課程	進ずる教育課程・準ずる教育内容（下学年適用）・知的障がいの教育課程（知的代替）・自立活動を主とする教育課程		

心理	1回目	2回目
A 1 不安・悩み <small>（不安が強い、悩みが頭から離れない）</small>	○	◎
A 2 感情のコントロール <small>（気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう）</small>		
A 3 こだわり <small>（一つのことにとこだわると他のことが考えられない）</small>	○	○
A 4 意欲・気力 <small>（目標が持てない、やる気がおきない）</small>	○	○
A 5 自己理解 <small>（何が辛いのか自分でもわからない）</small>	○	
A 6 気持ちの表現 <small>（気持ちを言葉・文字に表せない）</small>		
A 7 情緒の安定 <small>（嫌なことを思い出してしまう、イライラする）</small>	◎	◎
A 8 気分の変動 <small>（気分の浮き沈みがある）</small>	○	○
A 9 自信 <small>（自分に自信がない、自己肯定感が低い）</small>	○	

社会性	1回目	2回目
B 1 集団活動 <small>（集団の中にいると疲れる、ルールに従えない）</small>	○	○
B 2 社会のルールを理解 <small>（学校や社会の規則が守れない、自分で変更する）</small>		
B 3 コミュニケーションスキル <small>（あいづちがうてない、人の話が聞けない）</small>		
B 4 同年代との関係 <small>（相手のことを考えた言動ができずトラブルになる）</small>		
B 5 家族との関係 <small>（家族との関係がうまくいかない）</small>		
B 6 教師との関係 <small>（教師を信用しない、教師とのトラブル）</small>		
B 7 異性との関係 <small>（異性との関係がうまくいかない）</small>		
B 8 他者への信用 <small>（人が信用できない、人と関わりたくない）</small>	○	○
B 9 他者への相談 <small>（困った時に相談できない）</small>	○	○
B 10 他者理解 <small>（表情や態度から気持ちが読み取れない）</small>		

学習	1回目	2回目
C 1 学習状況 <small>（勉強の仕方がわからない）</small>	○	
C 2 処理能力 <small>（書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない）</small>		
C 3 聞き取り・理解力 <small>（話を聞いても理解できない、指示内容がわからない）</small>	○	○
C 4 読み・書き <small>（文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない）</small>		
C 5 記憶力 <small>（すぐに忘れてしまう）</small>	○	○
C 6 注意・集中 <small>（集中が続かない、気が散って集中できない）</small>	○	○
C 7 学習への意識 <small>（嫌いな教科に出たくない）</small>	○	
C 8 経験 <small>（生活経験が低い）</small>		

身体	1回目	2回目
D 1 身体状況・体調 <small>（お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる）</small>	○	○
D 2 巧緻性 <small>（手先を使って操作することが指示通りできない）</small>		
D 3 動作・体力 <small>（体力がない、動きがはやくできない）</small>		
D 4 多動性 <small>（じっとしてられない、待てない）</small>		
D 5 感覚過敏 <small>（においに敏感、大きな声が嫌）</small>	○	○

学校生活	1回目	2回目
E 1 見通し <small>（予定の変更が受け入れられない）</small>		
E 2 物の管理 <small>（忘れ物が多い、物をなくしてしまう）</small>		
E 3 登校・入室への抵抗感 <small>（学校へ行きたくない、教室には入れない）</small>	○	○

自己管理	1回目	2回目
F 1 睡眠・生活リズム <small>（朝起きられず遅刻してしまうことが多い）</small>	○	○
F 2 食事 <small>（給食が食べられない、外食ができない）</small>	○	◎
F 3 服薬 <small>（薬を手放せない、薬の管理が面倒）</small>	○	○
F 4 病気の理解 <small>（自分自身の病状を理解していない）</small>	◎	○
F 5 ストレスへの対処 <small>（ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい）</small>	◎	○

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目(◎)を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果(児童生徒の変容)を項目別に記載してください。

小・中・ 高	1・2・3・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	統合失調症
教育課程	準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がい教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程		

①実態把握 (プルダウンメニューから項目を選択)	A7 情緒の安定(嫌なことを思い出してしまう、イライラする)	受容期	F4 病気の理解(自分自身の病状を理解していない)	試行期	F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	受容期
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・不安な記憶と結びつきの強いものを見聞きすると不安な気持ちがフラッシュバックすることがある。 ・自分の限界がわからず、取り組んでしまうことがある。 ・他への苦手意識が強かったり、落ち込んだりしてストレスになり倒れることがある。 					
③支援・配慮等のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した気持ちで過ごせるように、不安な気持ちを聞く。そして、不安を減らしていく。 ・何がしたいか、何ができるか、何をするといいかを話し合う。 ・ストレスへの対処法を話し合う。 					
④具体的な支援の手立て: ①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・不安になる原因や気持ちについて、時間をかけて丁寧に話を聞く。 ・不安を感じたとき、無理して学習や活動をせず、別室に移動する。 					<ul style="list-style-type: none"> ・授業の受け方について、時間的な面もあわせて、言葉掛けを丁寧に言う。 ・不安になってくると、変だと思うときには場を離れて休憩をとるようにする。 	



⑤教育的ニーズの変容 (①～④の支援後に記入)	A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない)		A7 情緒の安定(嫌なことを思い出してしまう、イライラする)		F2 食事(給食が食べられない、外食ができない)	受容期

⑥具体的な支援の効果(⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・不安や困難な場所を避けながら、落ち着ける方法の対処の仕方と一緒に考える。 ・心配を解消するため相談しながら行えるようにする。 ・安心していられる環境づくりを行う。 					<ul style="list-style-type: none"> ・食べれないときは、エンシュアを飲むようにしている。なかなか受け入れられない。 	

自立活動 事例シート

小・中・ 高	1・2・3・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	統合失調症
教育課程	進ずる教育課程 ・ 準ずる教育内容(下学年適用) ・ 知的障がいの教育課程(知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程		

*①～⑥はシート「2整理・変容シート」の項目

1)実態把握

収集した情報	<収集した情報> ・生活リズムを整えることが難しい。幻聴、幻視があるときもある。集中力が続かないときもある。疲れやすい。 ・学校では給食、水分補給、頓服の服薬を勧めても受け入れることが少ない。家では食べている。 ・相手の気持ちを考えて行動することができる。						
	Co-MaMeの情報(参考①)	A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする) 受容期	F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない) 試行期	F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) 受容期			
収集した情報の整理	自立活動の区分に即して整理	A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
	自立活動の領域・項目	健康の保持 (1) (2) (3) (4) (5)	心理的な安定 (1) (2) (3)	人間関係の形成 (1) (2) (3) (4)	環境の把握 (1) (2) (3) (4) (5)	身体の動き (1) (2) (3) (4) (5)	コミュニケーション (1) (2) (3) (4) (5)
	<収集した情報の整理> ・運動することは好きである。折り紙の動画を見ることができる。 ・ストレスを感じると不安になり、行動の制止ができなくなったり気を失ったりする。 ・一度苦手意識をもつと、気持ちを切り替えるのが難しい。 ・話をするのは好きで、慣れた大人ならやり取りを続けることができる。 ・学習空白があったり、継続的な登校ができないため、学習の積み上げが難しい。						

2)課題(参考②)	・不安な記憶と結びつきの強いものを見聞きすると不安な気持ちがフラッシュバックすることがある。 ・自分の限界がわからず、取り組んでしまうことがある。 ・他への苦手意識が強もったり、落ち込んだりしてストレスになり倒れることがある。
-----------	---

3)ねらい(参考③)	・安定した気持ちで過ごせるように、不安な気持ちを聞く。そして、不安を減らしていく。 ・何がしたいか、何ができるか、何をするといいかを話し合う。 ・ストレスへの対処法を話し合う。
------------	--

4)具体的な指導内容の選定

必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 (1) (2) (3) (4) (5)	心理的な安定 ① ② ③	人間関係の形成 (1) ② ③ ④	環境の把握 (1) (2) ③ (4) (5)	身体の動き (1) (2) (3) (4) (5)	コミュニケーション (1) (2) (3) (4) (5)
具体的な指導内容(参考④)	・不安になったとき、その原因となることや気持ちについて、いつでも話を聞くようにした。本人が話したいことを時間をかけて丁寧に話を聞くようにする。 ・授業時間、不安を感じたとき、無理して学習や活動に取り組まなくてもいいことを伝える。不安が減るまで別室に移動して取り組むようにする。 ・進級へのこだわりが強いため、進級するために必要な時数を繰り返し確認する。 ・進級について、足りない時数の教科を手帳に記入して自分で確認できるようにする。					
	・不安になってくると、変だと思えるときには場を離れて休憩をとるようにする。 ・食事の面で、食べられないときは、その代替になるエンシユアを飲むように促している。なかなか受け入れられずに支援中である。		・授業の受け方について、病状よりどうしても自分の可能な状況内に頑張ってしまうことがある。授業時間内で無理なく活動できるように、時間を区切って学習に取り組めるように、言葉掛けを丁寧にしておくようにする。			
	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 A7 情緒の安定 (受容期)		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 F2 食事 (試行期) F4 病気の理解 (試行期)		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 F5 ストレスへの対処 (受容期)	

成果と課題 (参考⑤、⑥)

成果	・昨年度に比べると、登校して授業に参加できるようになってきた。 ・気持ちが不安な時は、休むことができるようになり少しずつなってきた。 ・自分の体調に応じた行動ができるようになってきた。
課題	・まだまだ、頑張りすぎてしまい気持ちを制御することができないことがある。 ・進路について、まだ自分の病状に向き合って考えようとしていない。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

(教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。)

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 2023年 5月 23日 (火)

2回目 2023年 12月 19日 (火)

小・中・ 高	1・ 2 ・3・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	選択性緘黙、分離不安、精神遅滞
教育課程	準ずる教育課程 ・ 準ずる教育内容(下学年適用) ・ 知的障がい の教育課程(知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程		

心理	1回目	2回目
A 1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)	○	○
A 2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)		
A 3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない)		
A 4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない)		
A 5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない)		
A 6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)		
A 7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)		
A 8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある)		
A 9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い)		

社会性	1回目	2回目
B 1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)		
B 2 社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)		
B 3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)		
B 4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)		
B 5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)		
B 6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル)		
B 7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない)		
B 8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない)		
B 9 他者への相談 (困った時に相談できない)	◎	◎
B 10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない)	○	○

学習	1回目	2回目
C 1 学習状況 (勉強の仕方がわからない)		
C 2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)		
C 3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない)		
C 4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)		
C 5 記憶力 (すぐに忘れてしまう)		
C 6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)		
C 7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)		
C 8 経験 (生活経験が低い)	◎	◎

身体	1回目	2回目
D 1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)		
D 2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない)		
D 3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)		
D 4 多動性 (じっとしてられない、待てない)		
D 5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌)		

学校生活	1回目	2回目
E 1 見通し (予定の変更が受け入れられない)		
E 2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう)		
E 3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室には入れない)		

自己管理	1回目	2回目
F 1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い)		
F 2 食事 (給食が食べられない、外食ができない)		
F 3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒)		
F 4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない)		
F 5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)		

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目(◎)を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果(児童生徒の変容)を項目別に記載してください。

小・中・ 高	1・ 2 ・3・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	選択性緘黙、分離不安、精神遅滞
教育課程	準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・ 知的障がい教育課程(知的代替) ・自立活動を主とする教育課程		

①実態把握 (プルダウンメニューから項目を選択)	A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない)	受容期	B9 他者への相談(困った時に相談できない)	受容期	B10 他者理解(表情や態度から気持ちが読み取れない)	受容期
	C8 経験(生活経験が低い)	受容期				
②課題	○体調不良時に不調を自ら伝えることが少ない。 ○表情や態度から相手の気持ちを読み取ることが難しい。 ○自ら援助を依頼したり、相談したりすることが難しい。 ○経験の少ないことに対する不安が強い。 ○生活経験が少なく、偏った見方や考え方をすることが多い。					
③支援・配慮等のねらい	○参加しやすい内容の活動や小集団での活動など、不安が少ない活動に参加することで成功経験を積ませ、不安を減らす。 ○できたことを伝えたり、振り返ったりすることで自覚させ、自信をもたせる。 ○参加できる活動を増やしていくことで心理的な負担を軽減し、表現の機会や幅を広げていけるようにする。 ○コミュニケーション活動を通して、様々な見方や考え方があることも伝えて、視野を広げるようにしていく。 ○定期的に面談を行い、相談することに慣れる。					
④具体的な支援の手立て: ①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
・協力やコミュニケーションを主としたゲーム的活動や運動に取り組む。	・学習グループ、学級や学年での活動に参加し、「できたこと」を振り返る。 ・コミュニケーション活動や面談を通して、自分とは異なる考え方があることを知る。	・説明や指示を聞いても、理解することに時間を要したり、生活経験の低さから理解が難しいときがあったりするので、説明や指示を理解できているか確認する。				

⑤教育的ニーズの変容 (①～④の支援後に記入)	A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない)	試行期	B9 他者への相談(困った時に相談できない)	試行期	B10 他者理解(表情や態度から気持ちが読み取れない)	試行期
	C8 経験(生活経験が低い)	試行期				

⑥具体的な支援の効果(⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
・簡単な運動やゲームの活動の中で見通しをもつために、手本を見せることで、できないかもしれない不安が減ったり、ルールを理解することができたりして、安心して参加することができた。	・友達のを見たり聞いたりして友達のアドバイスを受け入れて練習することができた。 ・活動の振り返りシートを自分の言葉で困っていることや気になることを表現することができるようになってきた。 ・面談時に丁寧に話しやすい雰囲気や質問することで、それまでの体調、学校生活、友達関係がどうであったかや、どのような状態であるかについて答えることができるようになってきた。	・個別に確認することで、説明や指示を理解して参加することができた。また、繰り返して活動に取り組むことでその活動に慣れていき、スムーズに参加することができるようになった。				

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

(教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別的教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。)

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 令和5年 6月 8日 (木)
2回目 令和5年 12月 19日 (火)

小・中・高	1・2・3・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	・心身症・自閉スペクトラム症
教育課程	準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)	知的障がい教育課程(知的代替)	自立活動を主とする教育課程

心理	1回目	2回目
A 1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)	○	
A 2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	○	
A 3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない)	◎	◎
A 4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない)	◎	○
A 5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない)		
A 6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)	○	
A 7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)	○	○
A 8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある)	◎	◎
A 9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い)		

社会性	1回目	2回目
B 1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)	◎	○
B 2 社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)	○	◎
B 3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)		
B 4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)		
B 5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)		
B 6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル)		
B 7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない)		
B 8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない)		
B 9 他者への相談 (困った時に相談できない)		
B 10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない)	○	

学習	1回目	2回目
C 1 学習状況 (勉強の仕方がわからない)		
C 2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)		
C 3 聞き取り・理解力 (話しを聞いても理解できない、指示内容がわからない)		
C 4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)		
C 5 記憶力 (すぐに忘れてしまう)		
C 6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)	○	◎
C 7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)	◎	○
C 8 経験 (生活経験が低い)		

身体	1回目	2回目
D 1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)		
D 2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない)		
D 3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)		
D 4 多動性 (じっとしてられない、待てない)	○	
D 5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌)		

学校生活	1回目	2回目
E 1 見通し (予定の変更が受け入れられない)	○	
E 2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう)	◎	○
E 3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室には入れない)		

自己管理	1回目	2回目
F 1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い)		
F 2 食事 (給食が食べられない、外食ができない)	◎	○
F 3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒)		
F 4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない)		
F 5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)		

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目(◎)を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果(児童生徒の変容)を項目別に記載してください。

小・中・ 高	1・ 2 ・3・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	心身症・自閉スペクトラム症
教育課程	準ずる教育課程(◎) 準ずる教育内容(下学年適用) ・ 知的障がいの教育課程(知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程		

①実態把握 (プルダウンメニューから項目を選択)	A3 こだわり(一つのことにとだわると他のことが考えられない)	受容期	A4 意欲・気力(目標が持てない、やる気がおきない)	試行期	A8 気分の変動(気分の浮き沈みがある)	受容期
	B1 集団活動(集団の中に入ると疲れる、ルールに従えない)	受容期	C7 学習への意識(嫌いな教科に出たくない)	試行期	E2 物の管理(忘れ物が多い、物をなくしてしまう)	試行期
	F2 食事(給食が食べられない、外食ができない)	試行期				
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ こだわりが強く、一つのことにとだわるとほかのことを考えられない。 ・ 学習や学校生活で分からないことや気になることがあると、落ち込んだりイライラする。 ・ 初めての場所や人、活動に対しては、緊張感が高くなり、気持ちをコントロールすることが難しくなる。 ・ 集団での活動が苦手であり、ルールに従わなかったり、参加しなかったりする。 ・ 苦手な教科の授業では、集中力が欠け、机に顔を伏せたり眠ったりしてしまう。 ・ 好き嫌いが多く、給食を食べられないことがある。 					
③支援・配慮等のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に視覚的にわかるような資料などで予告し、見通しがもてるようにすることで心理的な安定を図る。 ・ 授業や学校活動において、個別に指導や支援を行いながら、安心して学習に取り組めるようにする。 ・ 食生活に対する理解を深め、日常生活における適切な健康の自己管理ができるようにする。 ・ 集団活動に友達と参加できるようにする。 					
④具体的な支援の手立て: ①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人の気持ちを否定せず、こだわっていることに共感する。 ・ ゆっくり話を聞く時間を設定するなど自分の気持ちを言える環境をつくる。 ・ 難しすぎない目標や役割を設定し、達成感を少しずつ積み上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人の思いを受け止め、疑問や不安について一緒に考える。 ・ 視覚的にわかるような資料を事前に提示し、見通しがもてるようにする。 ・ 集団で活動する場合、メンバー構成を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の見通しを視覚的に示し、見通しがもてるようにする。 ・ スモールステップで学習を設定し、達成感を感じやすくする。 ・ 理解できずに興味を持てない場合や落ち着いて学習できない場合は、個別に支援を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡帳や振り返りノートを利用して、帰りの会の前に課題や提出物連絡事項を確認する時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業(家庭基礎、フード)で栄養に関する学習と、自分の食生活を結び付けて振り返りを促す。 ・ 事前に献立表を確認し、食べられない場合の対処策を相談できるようにする。 	

⑤教育的ニーズの変容 (①~④の支援後に記入)	A3 こだわり(一つのことにとだわると他のことが考えられない)	試行期	A4 意欲・気力(目標が持てない、やる気がおきない)	安定期	A8 気分の変動(気分の浮き沈みがある)	試行期
	B1 集団活動(集団の中に入ると疲れる、ルールに従えない)	試行期	C7 学習への意識(嫌いな教科に出たくない)	試行期	E2 物の管理(忘れ物が多い、物をなくしてしまう)	安定期
	F2 食事(給食が食べられない、外食ができない)	試行期				

⑥具体的な支援の効果(⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習活動に、落ち着いて取り組めるようになった。 ・ 目標や役割を理解し、課題をやり遂げるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団の中に入れるようになり、他の生徒とコミュニケーションを取りながら、活動に取り組めるようになった。 ・ 自分の意見を出したり、質問したり、発表をすることができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦手な教科の授業や課題に、机の上に顔を伏せてやり過ごしていたが、個別の支援があれば取り組むようになった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業や活動に必要なものを忘れなくなったり、提出物の期限を守ることができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あらかじめ献立表を確認して、苦手な食材があれば、代わりにものを持参するようになった。 	

自立活動 事例シート

小・中・ 高	1・ 2 ・3・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	心身症・自閉スペクトラム症
教育課程	進ずる教育課程	準ずる教育内容(下学年適用) ・ 知的障がいの教育課程(知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程	

*①～⑥はシート「2整理・変容シート」の項目

1)実態把握

収集した情報	<収集した情報> ・こだわりが強く関心のないことに興味をもてない。 ・興味がないことに対して目標がもてない、やる気がもてない。 ・嫌いな教科の授業を休みたいと思うことがある。 ・身辺整理ができていないので、忘れ物をしたり、ものをなくしたりしてしまう。 ・集団の中で、決まりやルールを守れなかったり、変更したりする。 ・多動性があり、じっとしてられないことがある。 ・食べられるものや好みに偏りがあり、給食が食べられないことがある。						
	Co-MaMeの 情報 (参考①)	A3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない) B1 集団活動 (集団の中に入ると疲れる、ルールに従えない) F2 食事 (給食が食べられない、外食ができない)	受容期	A4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない) C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)	試行期	A8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある) E2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう)	受容期 試行期
	自立活動の区分に即して整理	A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
収集した情報の整理	<収集した情報の整理> ・自分の興味あること以外は関心が低い。 ・嫌いなことや苦手なことに対する抵抗が高く、精神的に不安定になる。 ・初めてのことに對する緊張や見通しがもてない不安からくる気分の変動が大きい。 ・集団での活動を苦手としており、他者との関わり方や集団への参加の仕方が身についていない。 ・健康面に関して意識が低く、特に食生活に偏りがある。						

2)課題 (参考②)	・こだわりが強く、一つのことにとこだわるとほかのことを考えられない。 ・学習や学校生活で分からないことや気になるところがあると、落ち込んだりイライラしたりする。 ・初めての場所や人、活動に対しては、緊張感が高くなり、気持ちをコントロールすることが難しくなる。 ・集団での活動が苦手で、ルールに従わなかったり、参加しなかったりする。 ・苦手な教科の授業では、集中力が欠け、机に顔を伏せたり眠ったりしてしまう。 ・食べられるものや好みに偏りがあり、給食が食べられないことがある。
---------------	--

3)ねらい (参考③)	・事前に視覚的にわかるような資料などで予告し、見通しがもてるようにすることで心理的な安定を図る。 ・授業や学校活動において、個別に指導や支援を行いながら、安心して学習に取り組めるようにする。 ・食生活に対する理解を深め、日常生活における適切な健康の自己管理ができるようにする。 ・集団活動に友達と参加できるようにする。
----------------	--

4)具体的な指導内容の選定

必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 (1) (2) (3) (4) (5)	心理的な安定 (1) (2) (3)	人間関係の形成 (1) (2) (3) (4)	環境の把握 (1) (2) (3) (4) (5)	身体の動き (1) (2) (3) (4) (5)	コミュニケーション (1) (2) (3) (4) (5)
具体的な指導内容(参考④)	・集団活動では、視覚的にわかるような資料を準備して、事前に目的や内容、参加の意義などを丁寧に説明して見通しがもてるようにする。 ・活動するグループを編成するときに、本人との関係性を配慮して、メンバーや担当者を決める。 ・個別で疑問や不安を聞く時間を設定し、本人の希望を聞きながら解決策を一緒に考える。 ・目標や役割を設定し、達成するためにやらなければいけないことを整理する。					
	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 A3 こだわり (受容期) B1 集団活動 (試行期)		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 A4 意欲・気力 (試行期) A8 気分の変動 (受容期) C7 学習への意識 (試行期) E2 物の管理 (試行期)		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 F2 食事 (試行期)	

成果と課題 (参考⑤、⑥)

成果	・目標や役割を理解し、課題をやり遂げるようになった。 ・集団の中に入れるようになり、他の生徒とコミュニケーションを取りながら、活動を行うようになった。 ・苦手な科目の授業や活動では、机の上に顔を伏せてやり過ごしていたが、個別に支援があれば取り組むようになった。 ・学習活動に、落ち着いて取り組めるようになった。 ・授業や活動に必要なものを忘れなくなったり、提出物の期限を守ることができるようになった。 ・授業中に自分の意見を出したり、質問したり、就業体験発表会などにおいてもパワーポイントを使ってプレゼンテーションをすることができるようになった。
課題	・好きな教科の授業や学習活動には、積極的に取り組むようになり、成果を上げて来ているが、苦手と感じている教科にはまだ意欲や集中力が上がらず、成績も不調なので、引き続き個別の指導をしたり、学習用端末を活用したりした支援を行う必要がある。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

(教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別的教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。)

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 令和4年 7月 19日 (火)
2回目 令和5年 4月 25日 (火)

小・中・ 高	1・2・ 3 ・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	広汎性発達障害、適応障害
教育課程	準 ず る教育課程・準 ず る教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程		

心理	1回目	2回目
A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)	◎	◎
A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)		
A3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない)		
A4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない)		
A5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない)		
A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)		
A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)		
A8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある)	◎	◎
A9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い)		

社会性	1回目	2回目
B1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)		
B2 社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)		
B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)	◎	◎
B4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)	◎	◎
B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)	○	◎
B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル)		
B7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない)		
B8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない)		
B9 他者への相談 (困った時に相談できない)		
B10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない)	◎	◎

学習	1回目	2回目
C1 学習状況 (勉強の仕方がわからない)		
C2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)		
C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない)	○	○
C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)		
C5 記憶力 (すぐに忘れてしまう)		
C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)		
C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)		
C8 経験 (生活経験が低い)		

身体	1回目	2回目
D1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)		
D2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない)		
D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)		
D4 多動性 (じっとしてられない、待てない)		
D5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌)	○	○

学校生活	1回目	2回目
E1 見通し (予定の変更が受け入れられない)		
E2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう)		
E3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室には入れない)	○	◎

自己管理	1回目	2回目
F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	○	◎
F2 食事 (給食が食べられない、外食ができない)		
F3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒)		
F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない)		
F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	◎	○

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックしたサブカテゴリーから特に重要視しているサブカテゴリー (◎) を記入
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果 (生徒の変容) を項目別に記載してください。

小・中・高	1・◎2・3・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	広汎性発達障害、適応障害
教育課程	準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程		

①実態把握 (プルダウンメニューからサブカテゴリーを選択)	B9 コミュニケーションスキル(あいづちがうてない、人の話が聞けない)	試行期	B10 他者理解(表情や態度から気持ちが読み取れない)	試行期	E3 登校・入室への抵抗感(学校へ行きたい、教室には入れない)	受容期
	A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない)	受容期	B4 同年代との関係(相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)	試行期	A8 気分の変動(気分の浮き沈みがある)	試行期

②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな不安や自信のなさ(学校生活、進路、病棟生活等)から、学校への登校ができないことがある。二度寝をすつと朝からの登校は難しい。 ・夜眠れないことや、朝方早く目が覚めてしまうことが多い。熟睡感がなく、日中に眠気があることが多い。 ・「自分さえよければよい」という考えが強かったが、具体例を示して話すことで客観的に見ることや相手の気持ちの理解ができることもある。 ・大きな音、マイクの雑音等が苦手で、ノイズキャンセラを使用することがある。また、集団が苦手である。初めてのことや場所も苦手である。 ・両親との関係性がよくない。それもあってか、「他者に構って欲しい、話を聞いて欲しい。」という気持ちが強い。 ・病棟生活をしているため、洗濯がよくできているか分からず衛生面に課題があったが、洗濯の仕方や衛生面の話をしたことで意識するようになってきている。
-----	---

③支援・配慮等のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・漠然とした不安感を少しでも減らしていくために、話を聞く時間を定期的に設けたり、楽しみな活動を増やしたりしていくことで、学校生活を安定して過ごせるようにする。 ・他者との関わりの中で、SSTや日々の場面での他者とのやりとりをピックアップし、振り返り等を行うことを通して、良好な人間関係づくりを目指す。 ・苦手な活動は時間を決めたり、活動場所を変えたりする等、工夫を行い、少しずつ苦手意識を取り除くことができるようにする。 ・動画などで理想とする人物像を見たり、楽しみながらできる活動を行ったりして、周りから見られる意識付けを行い、清潔な衣服や身だしなみで、過ごすことができるようになる。
-------------	--

④具体的な支援の手立て(①のサブカテゴリーについて「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)

A心理	B社会性	C学習	D身体	E学校生活	F自己管理
<ul style="list-style-type: none"> ・不安や悩みを聞く時間を設ける。その際は時間を決めて話す。(永遠に話してしまうことがあるため)そして、話を聞いて、先に解決できることは先に解決しておく。スムーズに活動参加ができるようにする。 ・得意な活動や好きな活動を通して、自分に自信をもつことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言動や行動を振り返る時間をとる。クラスメイト等のやりとりの中で、気になる場面がある場合は、その場面場面で指導を行う。よくできた場面では称賛する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・学校への楽しみ(同好会、自立活動など)をきっかけに、登校できることを目指す。 ・本人が苦手なこと(テスト、定期検診等)の日程が近付くと、登校や授業への出席に影響が出るのが予想されるので、予めできる対策は取るようにし、安心して学校へ登校できるようにする。スムーズステップで、苦手なことは少しずつ克服していくことを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・眠れないときでも、顔を閉じ、体を休めることの大切さは繰り返し伝え、少しでも疲れが減るような工夫を行うようにする。 ・洗濯が終わっていない場合の学校に着てくる服や持参する体育服のコーディネートと一緒に考え、清潔かつTPOに応じた服装を意識できるようにする。

⑤教育的ニーズの変容 (①～④の支援後に記入)	A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない)	試行期	B9 コミュニケーションスキル(あいづちがうてない、人の話が聞けない)	試行期	B4 同年代との関係(相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)	試行期
	B8 他者への備用(人が備用できない、人と関わりたくない)	試行期	E3 登校・入室への抵抗感(学校へ行きたい、教室には入れない)	試行期	B5 家族との関係(家族との関係がうまくいかない)	試行期

⑥具体的な支援の効果(⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)

A心理	B社会性	C学習	D身体	E学校生活	F自己管理
<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く時間は、継続してとる。ただ、基本は休み時間で終わらせる。どうしても気持ち落ち着かないときだけ、10分ほど時間を延長し、落ち着いてから授業に参加できるようにする。 ・現在は話を聞くことが一番の不安軽減になっているが、それ以外の方法についても試してみる(不安を忘れられるようにリフレッシュの時間をとる、タブレットでリフレッシュできる動画を探す等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・言うてはいけな言葉や行動については、引き続き、SSTやワークシート等で確認をする。また、実際に何かあったときには、振り返り→実践を繰り返していく。 ・家族との関係については、本人が慣れた人や信頼している人が同席する等工夫をしながら面会を行い、修復が図れるよう努力する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・学校への楽しみな活動(同好会活動、自立活動)は引き続き取り入れる。 ・苦手なことや、登校が不安定になったときには、その都度、解決策を考える→実行する→できたことは褒めることを徹底する。 	

自立活動 事例シート

小・中・高	1・2・③・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	広汎性発達障害、適応障害
教育課程	準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がい教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程		

*①～⑥はシート2の項目

1)実態把握							
収集した情報	いろいろなことに対して不安が強いと、不眠になったり、登校が安定しなかったり、授業への出席ができず、机の下に入り込んで授業を受けたりしたことがある。 ・音楽同好会が好き。楽器(マリンバやピアノ)の演奏を楽しみにしている。またボーカロイドが好きで、動画を見ながら歌うことも好き。作曲にも興味がある。 ・好きな事に関する話は止まらない。また、自分の話を聞いてもらうことで、心理的な安定を求めている様子もある。反対に話を聞いてもらえない状況が続くと、ストレスとなっている。 ・苦手意識のあるものに対しては、克服するのに時間がかかる。前籍校のトラウマから、テストや教室に入ること、制服着用等に抵抗があったが、高等部に入り、制服着用や入室への抵抗は減った。 ・衛生面に課題があったり身だしなみに気を配ることが少なかったりしたが少しずつ洗濯の仕方を学んだり衛生面に意識を向け出し始めている。 ・両親との関係性があまりよくない。親に気持ちが分かってもらえないと訴えることがある。						
	Co-MaMeより(参考①)	F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	試行期	B10 他者理解(表情や態度から気持ちが読み取れない)	試行期	E3 登校・入室への抵抗感(学校へ行きたくない、教室には入れない)	受容期
	A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない)	受容期	B4 同年代との関係(相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)	試行期	A8 気分の変動(気分の浮き沈みがある)	試行期	
	E3 コミュニケーションスキル(あいづちがうたがいない、人の話が聞けない)	試行期					
収集した情報の整理	A心理 B社会性 C学習 D身体 E学校生活 F自己管理						
	自立活動の区分に即して整理						
	自立活動の領域・項目	健康の保持 ①(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 ①(2)③	人間関係の形成 ①②③④	環境の把握 ①②(3)(4)(5)	身体の動き ①(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション ①(2)(3)④⑤
・自分が好きなこと(話を聞いてもらう、音楽を聴く、歌う)を通して、心身のリフレッシュをし、落ち着いて学校生活を過ごすことができるだろう。 ・不安なことや苦手なことに関しては、継続的に話をしたり、本人にとってやりやすい方から始め、少しずつ慣れていく等の工夫を行ったりする必要がある。 ・清潔な衣服を身に付けることや、身だしなみを整えることの大切さを、楽しい活動を取り入れつつ学び、人と関わる上でのマナーとして必要となるだろう。 ・他者の気持ちを考えた言動ができることで、他者とのトラブルを減らすことができるだろう。							

2)課題(参考②)	①いろいろな不安や自信のなさ(学校生活、進路、病棟生活等)から、不眠につながったり、登校意欲の低下、授業への出席の困難性を引き起こしていると考えられる。②他者の視点に立つて物事を考えることが難しく、「自分さえよければよい」という考えとなってしまう、他人のことを思った行動や言動ができないことがある。③大きな音、マイクの雑音等が苦手であり、大勢の人がいる場所や集会への参加が難しいことがある。④両親との関係性があまりよくない。両親の仕事が忙しく、一人で過ごす時間も多かった様子もあり、「他者に構って欲しい、話を聞いて欲しい。」という気持ちが強い。⑤衛生面に課題がある。病棟生活をしているため、洗濯がよくできているか把握しづらい。
-----------	---

3)ねらい(参考③)	・漠然とした不安感を少しでも減らしていくために、話を聞く時間を定期的に設けたり、楽しみな活動を増やしたりしていくことで、学校生活を安定して過ごせるようにする。 ・他者との関わりの中で、SSTや日々の場面での他者とのやりとりをピックアップし、振り返り等を行うことを通じて、良好な人間関係づくりを目指す。 ・苦手な活動は時間を決めたり、活動場所を変えたりする等工夫を行い、少しずつ苦手意識を取り除くことができるようにする。 ・楽しみながらできる活動を通して、周りから見られる意識付けを行い、清潔な衣服や身だしなみで、過ごすことができるようにする。
------------	--

4)必要な項目の選定						
自立活動の区分・項目	健康の保持 ①(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 ①(2)③	人間関係の形成 ①②③④	環境の把握 ①②(3)(4)(5)	身体の動き ①(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション ①(2)(3)④⑤
具体的な指導内容(参考④)						
	・話を聞く時間は、継続してとる。ただ、基本は休み時間で終わらせる。どうしても気持ちが落ち着かないときだけ、10分ほど時間を延長し、落ち着いてから授業に参加できるようにする。 ・現在は話を聞くことが一番の不安軽減になっているが、それ以外の方法についても試してみる(不安を忘れられるようにリフレッシュの時間をとる、タブレットでリフレッシュできる動画を探す等) ・得意な活動や好きな活動を通して、自分に自信をもつことができるようにする。 ・眠れないときでも、顔を閉じ、体を休めることの大切さ等は繰り返し伝え、少しでも疲れが減るような工夫を行うようにする。		・自分の言動や行動を振り返る時間をとる。クラスメイト等のやりとりの中で、気になる場面がある場合は、その場面場面で指導を行う。よくできた場面では称賛する。 ・学校への楽しみ(同好会、自立活動)をきっかけに、朝から登校できることを目指す。		・本人が苦手なこと(テスト、定期検診等)の日程が近付くと、登校や授業への出席に影響が出るのが予想されるので、予めできる対策は取るようにし、安心して学校へ登校できるようにする。スモールステップで、苦手なことは少しずつ克服していくことを目指す。 ・洗濯チェックカードの作成や1週間のコーディネートと一緒に考え、清潔な服装を意識できるようにする。	
	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 F5(R4.9～R5.7)		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 B3・B4・B10(R4.9～R5.7)		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 A1・A8・E3(R4.9～R5.7)	

成果と課題(参考⑤、⑥)	
成果	・悩みや不安を聞く時間をとることによって、今何に悩んでいるのか等把握することができ、自分勝手に授業を休むなどの行動が少なくなった。 ・同世代との関わり方について、繰り返し話をするうちに、「相手が傷つけない言動」を意識できるようになった。例えば、これまで、クラスメイトに対して、目を見れなかったり、相手からの「ありがとう」に関して何も言わずに去っていったりする等の行動が多かった。しかし、相手に「どうぞ」や「ありがとう」と言葉伝えることは大切であることや「○○という言葉を言ったら相手は嫌な気持ちになるよね」等そのときあった言動に対して、1つ1つ丁寧にフィードバックすることで、少しずつクラスメイトとの関わり方も変わってきた。物を渡すときに、言葉は発せなくてもお辞儀をしたり、自分から言えないときには、教員に伝言でありがとうと言って欲しい。と言ったり、毎日の生活日記にクラスメイトとの関わりを書くようになってきたり、できるようになってきている。 ・放課後の同好会や自立活動の時間を楽しみに過ごしていた。不安が多くなかなか学校に来られない日も、楽しみにしていることをきっかけに登校できた日があった。 ・テストが苦手であったが、テスト数日前から、テストに対する不安等の話を聞くようにした。また、集団の中でテストを受けることを目標に、一緒にどうしたらよいか考えていった。どうしても気持ちが落ち着かず、実力テストが受けられないこともあったが、別室対応をすることで、中間・期末テストは、受けることができた。また、2学期最後の期末テストは集団の中で受けることを達成することができた。 ・制服を購入したことによって、体育服や同じジャージで毎日登校してくることもなくなり、毎日制服で登校ができていた。洗ひ替えることもあったので、体育のある日はジャージ→残りの3日間は制服。という計画から始め、ある程度できるようになった後は、毎日制服を着てくる指導を行い、2学期はほとんど制服で登校することができた。
課題	・話を聞くことが、生徒にとって1番の不安解決になっている。しかし、休み時間だけでは解決できず、そのまま授業を15分ほど休むことがあった。今後は、話を聞くこと以外の不安解決方法を見つけたら、休み時間と授業との切り替えがしかりできるようにしたい。 ・クラスメイトとの関わりは改善されつつあるが、誤解を招くような言動があることも事実である。今後も継続して人との関わり方について指導を行う。 ・清潔な身なりについて、衣服の清潔(制服の着用、洗濯)については、ご両親の協力もあり、解決されつつあるが、髪の毛が乱れていたり、人前で股を触ったりするようなことがある。衣服のことだけでなく、見た目でも他者が不快に思うようなことはしないことを今後新たに指導したい。 ・家族関係は修復が見られない。サポートをしながら、少しずつ家族が関われるような時間を作るようにする。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) アセスメントシート

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

(教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別的教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。)

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 令和5年 6月 1日 (木)

2回目 令和6年 1月 15日 (月)

小	中	高	1	2	3	4	5	6	障害名 (病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名 (病名))</small>	二分脊椎、水頭症、知的障害	
教育課程			準ずる教育課程 ・ 準ずる教育内容 (下学年適用) ・ 知的障がい教育課程 (知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程								

心理	1回目	2回目
A 1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)	○	○
A 2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)		
A 3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない)	○	○
A 4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない)		
A 5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない)		
A 6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)		
A 7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)		
A 8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある)		
A 9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い)		

社会性	1回目	2回目
B 1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)		
B 2 社会のルールを理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)		
B 3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)		
B 4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)	○	○
B 5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)	○	○
B 6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル)		
B 7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない)		
B 8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない)		
B 9 他者への相談 (困った時に相談できない)		
B 10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない)		

学習	1回目	2回目
C 1 学習状況 (勉強の仕方がわからない)		
C 2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)	○	○
C 3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない)	○	○
C 4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)		
C 5 記憶力 (すぐに忘れてしまう)		
C 6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)		
C 7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)		
C 8 経験 (生活経験が低い)	◎	◎

身体	1回目	2回目
D 1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)		
D 2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない)		
D 3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)	◎	○
D 4 多動性 (じっとしていられない、待てない)		
D 5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌)	○	○

学校生活	1回目	2回目
E 1 見通し (予定の変更が受け入れられない)	○	○
E 2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう)	○	○
E 3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室には入れない)		

自己管理	1回目	2回目
F 1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い)		
F 2 食事 (給食が食べられない、外食ができない)		
F 3 服薬 (薬を手放せない、薬の管理が面倒)		
F 4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない)		
F 5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)		

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目 (◎) を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果 (児童生徒の変容) を項目別に記載してください。

小・中・ 高	1・2・ 3 ・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	二分脊椎、水頭症、知的障害
教育課程	準ずる教育課程 ・ 準ずる教育内容 (下学年適用) 知的障がい教育課程 (知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程		

①実態把握 <small>(プルダウンメニューから項目を選択)</small>	C8 経験 (生活経験が低い) D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)	試行期				
②課題	生活上支援を必要とする場面が多いため、家族や身近な大人への依存傾向があり、新しいことに取り組んだり同年代の友達と積極的に関わろうとしたりすることに消極的な面が見られる。また、体育の授業を休みがちであったり、移動の際に自力で車椅子を操作することを避けたりするなど、自己の体力の把握や体力向上へむけた取組が課題となっている。					
③支援・配慮等のねらい	・学校生活において、役割を担う場面をスモールステップで設定することで、自分の成長を実感できるようにするとともに、小集団で関わる場面を設定することで、同年代とのコミュニケーションについての苦手意識を低減したい。・体力や体調の変化について教師と振り返る時間を設け、客観的に把握できるようにするとともに、自力移動や体育の授業への参加状況を振り返り、体力向上について前向きに捉えられるようにしたい。					
④具体的な支援の手立て: ①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
		・学習活動において、新たに取り組んだ事柄について称賛し、自信や達成感をもたせる。 ・トークンゲームや簡単な話し合い活動を通して、友人との関わり方を身に付ける。 ・行事での役割を担い、周囲と関わりながら活動できるようにする。	・自力移動に関してスモールステップで目標を設定し、取り組みを称賛する。 ・体育の授業への参加状況について記録し、振り返る機会を設ける。 ・欠席時の腹痛について、痛みの度合いを段階的に表示したものを使って、客観的に振り返ることができるようにする。			

⑤教育的ニーズの変容 <small>(①～④の支援後に記入)</small>	C8 経験 (生活経験が低い) D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)	安定期				

⑥具体的な支援の効果 (⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)						
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理	
		・学習活動や行事において、取り組みやすい課題から段階的に設定したことで、達成感を感じながら、また新たな課題に挑戦しようとする姿が見られるようになった。 ・課題の近い生徒による小集団でのコミュニケーションの場を設定したことで、自分の気持ちや考えを安心して話す場面が増えた。 ・文化祭や選挙に関する活動で、取り組み内容について教師と話し合いながらイメージをもつことで、リーダーや委員長の仕事に自信をもって取り組むことができました。	・自力移動についての目標と一緒に話し合い、達成状況を称賛したことで、自信をつけて段階的に距離を伸ばすことができた。 ・体育の授業への参加状況を記録するシートを作って振り返ったことで、参加率の増加を実感して、さらに頑張ろうとする様子が見られた。 ・腹痛の度合いを尺度で表すことで、自分の体調や欠席を減らすために努力できたことを客観的に評価しようとするようになった。			

自立活動 事例シート

小・中・高	1・2・3・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	二分脊椎、水頭症、知的障害
教育課程	準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用) 知的障がい教育課程(知的代替) 自立活動を主とする教育課程		

*①～⑥はシート「2整理・変容シート」の項目

1)実態把握						
収集した情報	<p><収集した情報>下半身に麻痺があり、車椅子で生活をしている。ものづくり等の活動を好み、単純な作業であれば集中して取り組むことができるが、抽象的な思考を必要とするような学習には消極的である。麻痺に伴う導尿や薬剤による排泄コントロールが必要で、排便に伴う腹痛で欠席することが多い。大人とのかかわりを好む傾向があり、同年代との関わりや新しい活動に対して消極的な面が見られる。卒業後は、在宅でできる内職等の仕事を考えている。</p>					
収集した情報の整理	Co-MaMeの情報(参考①)	C 8 経験(生活経験が低い)	試行期			
	D 3 動作・体力(体力がない、動きがはやくできない)	試行期				
自立活動の区分に即して整理	A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
自立活動の領域・項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1)(2)(3)(4)(5)	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)(4)	(1)(2)(3)(4)(5)	(1)(2)(3)(4)(5)	(1)(2)(3)(4)(5)
収集した情報の整理	<p><収集した情報の整理>医療面や生活面において支援を必要とすることやこれまでの生活経験の不足から、自ら考えて主体的に行動したり新しい活動に積極的に取り組んだりすることが少なく、また同年代の友達と積極的に関わることに苦手意識を持っている。便通や腹痛で欠席することが多く、移動の際に自力で車椅子を操作することを避けるなど、自己の体力の把握や体力向上に向けた取組が課題となっている。卒業後も医療的ケアが必要なことから、本人家族とも在宅でできる内職を視野に入れて検討している。</p>					

2)課題(参考②)	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいことや心理的に負荷のかかる活動に対して消極的である。 ・同年代の友達と積極的にコミュニケーションをとることが難しい。 ・排便に伴う腹痛等による欠席が多い。 ・支援者に依存しがちで、移動の際に自力で車椅子を操作することを避ける傾向にある。
-----------	---

3)ねらい(参考③)	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を担う場面をスモールステップで設定することで、自分の成長を実感できるようにする。 ・小集団で関わる場面を設定することで、同年代とのコミュニケーションについての苦手意識を低減する。 ・体力や体調の変化について教師と振り返る時間を設け、客観的に把握できるようにする。 ・自力移動や体育の授業への参加状況を振り返り、体力向上について前向きに捉えられるようにする。
------------	--

4)具体的な指導内容の選定						
必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)
具体的な指導内容(参考④)	<ul style="list-style-type: none"> ・腹痛の度合いを示す尺度を教師と話し合って設定し、欠席の翌日に自分の体調について振り返ることで、自己の体調把握への意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループでトークゲームや簡単な話し合い活動を行い、あいづちや話題の広げ方等、身近な人とのコミュニケーションスキルを身に付ける。 ・行事等でのグループ活動における話し合い活動や、やり取りの場面を想定したロールプレイングを教師と行うことで不安感を減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業への参加状況について記録し、自己の体力向上に向けた取組の変化を振り返り、次の目標を考える。 ・自力移動の距離をスモールステップで設定し、期間を決めて達成の度合いを振り返る。変化を振り返り、次の目標を考える。 			
	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 D 3 動作・体力(体力がない、動きがはやくできない)、試行期	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 C 8 経験(生活経験が低い)、試行期	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 D 3 動作・体力(体力がない、動きがはやくできない)、試行期			

成果と課題(参考⑤、⑥)

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・腹痛の度合いについて教師と話し合い、段階を言語化したことで自らの身体状況について意識し、登校状況の改善に向けて前向きに取り組もうとする意欲が高まった。 ・課題の近い生徒による小集団でのコミュニケーションの場を設定し、会話の広げ方等を実践することで、自分の気持ちを積極的に話す場面が増えた。 ・コミュニケーションについて身に付けたことを実習等で実践に活かし、自信をもてたことで、事業所への就職を希望するようになった。 ・行事等の活動で、教師と想定した内容についてロールプレイングを行いイメージをもち、リーダーや委員長の仕事に自信をもって取り組むことができた。 ・自力移動についての目標と一緒に話し合い、達成状況を称賛したことで、自信がつき段階的に距離を伸ばそうとする様子が見られた。 ・体育の授業への参加状況を記録するシートを作って振り返ったことで、成果を実感し、さらに安定的に参加するようになった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・登校について意識を向けることはできたが、欠席数の減少には至らなかった。家庭でも実施可能な課題については、腹痛の度合いによって取り組むよう促した。 ・コミュニケーションを広げるための方法について理解し、異学年グループや実習等では活かすことができたが、クラス内での関わりにはあまり変化は見られなかった。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) アセスメントシート

6つのカテゴリにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

(教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別的教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。)

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 2023年 5月 19日 (金)
2回目 2023年 10月 30日 (月)

小・中・ 高	1・2・ 3 ・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	ADHD、アスペルガー症候群
教育課程	準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程		

心理	1回目	2回目
A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)	◎	○
A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	○	◎
A3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない)	○	○
A4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない)	○	○
A5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない)	○	○
A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)	○	○
A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)	○	○
A8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある)	○	○
A9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い)	○	○

社会性	1回目	2回目
B1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)	○	○
B2 社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)	◎	◎
B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)	○	○
B4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)	◎	○
B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)	○	○
B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル)	○	○
B7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない)	○	○
B8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたいくない)	○	○
B9 他者への相談 (困った時に相談できない)	○	○
B10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない)	○	○

学習	1回目	2回目
C1 学習状況 (勉強の仕方がわからない)	○	○
C2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)	○	◎
C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない)	○	○
C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)	○	○
C5 記憶力 (すぐに忘れてしまう)	○	○
C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)	○	◎
C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)	○	○
C8 経験 (生活経験が低い)	○	○

身体	1回目	2回目
D1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)	○	○
D2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない)	○	○
D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)	○	○
D4 多動性 (じっとしていられない、待てない)	○	○
D5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌)	○	○

学校生活	1回目	2回目
E1 見通し (予定の変更が受け入れられない)	○	○
E2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう)	○	○
E3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室には入れない)	○	○

自己管理	1回目	2回目
F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い)	○	○
F2 食事 (給食が食べられない、外食ができない)	○	○
F3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒)	○	○
F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない)	○	○
F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	○	○

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目(◎)を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果(児童生徒の変容)を項目別に記載してください。

小・中(高)	1・2・◎3・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	ADHD、アスペルガー症候群
教育課程	準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がい教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程		

①実態把握 (ブルダウメニューから項目を選択)	A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない)	受容期	B2 社会のルールの理解(学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)	試行期	B4 同年代との関係(相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)	試行期
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しのもてないことや分からないこと、初めてのことなどに対する不安が非常に大きい。 ・人と関わることが好きだが、自分の気持ちや意見を素直に伝えられずトラブルになることがある。また、自分の思いと違うことがあると気持ちが乱れることが多い。 ・教師からの注意や指導を受けても、自分の行動を適切に振り返られない。そのため自分の言動を内省することが難しい。 ・自分勝手な行動をし、不快な思いをすると粗暴行為をする。 ・相手のことを考えた言動ができず、場の雰囲気や悪くすることがある。 ・同年代の生徒と良好な人間関係を築くことが困難である。 ・経験や自信のなさから自己決定する力が弱い。進路選択に難しさがある。 ・本人に困り感がないため、支援を受ける必要を感じていない。 					
③支援・配慮等のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・指示については口頭だけでなく、視覚的な情報も交えながら理解できるようにする。 ・乱暴な言動が表れた時は、その場では指示が入らないので、落ち着けるまで時間をおく。 ・本人の思いを表出する場を設定し、その内容を一緒に共有しながら整理をする。 ・不適切な言動があればその都度本人に伝える方法で指導し、自己と向き合えるようにしていく。 ・素直な気持ちや思いが表出できる環境を整える。 ・自身の障害理解、支援の必要性について自覚できるようにしていく。 					

A心理	B社会性	C学習	D身体	E学校生活	F自己管理
◎共感、理解する ・その時にできていることを認める。 ◎相談しながら行えるようになる ・振り返りを通して、落ち着ける方法や対処の仕方を一緒に考える。	◎行動や気持ちを振り返るようにする ・不適切な言動について、その時の思いや理由を聞くなどしながら振り返る。 ◎自分から意識できるようにする ・自分からしてはいけないことに気づき、意識できるようにする。 ◎適切な発言を促す ・不適切な言動はその場で助言し、良い言動はほめて自信をもたせる。			◎見通しをもたせる ・学校のルールや日程、活動内容などを板書や手元で視覚的に提示する。	

⑤教育的ニーズの変容 (①～④の支援後に記入)	A2 感情のコントロール(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	試行期	C2 処理能力(書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)	試行期	C6 注意・集中(集中が続かない、気が散って集中できない)	試行期
	B2 社会のルールの理解(学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)	安定期				

⑥具体的な支援の効果(⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)					
A心理	B社会性	C学習	D身体	E学校生活	F自己管理
◎相談しながら行えるようになる ・暴言や暴力、トラブル等の不適切な行動を振り返り、一緒に考える。 ◎ほめる機会を増やす。 ・本人が適切に言語化し、振り返れたことについて評価をする。 ・ささいな成長や良い行いなどについてもしっかりと褒めて自信につなげる。	◎相手の気持ちを考えられるようにする。 ・具体的な行動を例に挙げながら、相手の気持ちを考える機会を設ける。 ◎将来に向けての活動設定 ・今後の生活をイメージさせたり、実際に活動したりしながら社会的なルールの理解につなげる。	◎学習内容の見通しを持たせる。 ・見る、聞く、考えるなど活動を分けて行う。 ◎活動を短時間にする。 ・課題を短時間で区切り、集中できる短い時間で学習をする。 ◎視覚や聴覚からの刺激を減らす。 ・集中できるよう学習環境や活動内容を調整する。			

自立活動 事例シート

小・中・高	1・2・3・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	ADHD、アスペルガー症候群
教育課程	進ずる教育課程・進ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程		

*①～⑥はシート「2整理・変更シート」の項目

1)実態把握

収集した情報	<収集した情報> 高校1年より本校に入学した。入学以前は、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍しており、感情コントロールの課題が見られていたようである。本校では、相手の思いや状況などを汲み取りながら他者と適切に関わるのが難しく、自分の思いや考えを相手に一方的に押し付けることが多い。また、衝動性の高さや注意の転換なども窺われている。継父からの身体的虐待や母からのネグレクトなどの生育歴があり、本人の言動や情緒面の課題などに影響していると思われる。精神保健福祉手帳2級を所持しているが、本人は手帳を使わず一般雇用を希望している。母が絶対的な存在となっており、自分のことを自分で決めることが難しい。自分の力で生活することや、新しい環境で適応できるかなどの不安もある。						
	Co-MaMeの情報(参考①)	A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない)	受容期	B2 社会のルール(学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)	試行期	B4 同年代との関係(相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)	試行期
収集した情報の整理	自立活動の区分に即して整理	A心理	B社会性	C学習	D身体	E学校生活	F自己管理
	自立活動の領域・項目	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)

2)課題(参考②)	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しのもてないことや分からないこと、初めてのことなどに対する不安が非常に大きい。 ・人と関わることは好きだが、自分の気持ちや意見を素直に伝えられずトラブルになることがある。また、自分の思いと違うことがあると気持ちが乱れることが多い。 ・教師からの注意や指導を受けても、自分の行動を適切に振り返れない。そのため自分の言動を内省することが難しい。 ・自分勝手な行動をし、不快な思いをすすると粗暴行為をする。 ・相手のことを考えた言動ができず、場の雰囲気や悪くすることがある。 ・同年代の生徒と良好な人間関係を築くことが困難である。 ・経験や自信のなさから自己決定する力が弱い、進路選択に難しさがある。 ・本人に困り感がないため、支援を受ける必要を感じていない。
-----------	---

3)ねらい(参考③)	<ul style="list-style-type: none"> ・指示については口頭だけでなく、視覚的な情報も交えながら理解できるようにする。 ・乱暴な言動が表れた時は、その場では指示が入らないので、落ち着けるまで時間をおく。 ・本人の思いを表出する場を設定し、その内容を一緒に共有しながら整理をする。 ・不適切な言動があればその都度本人に伝わる方法で指導し、自己と向き合えるようにしていく。 ・素直な気持ちや思いが表出できる環境を整える。 ・自身の障害理解、支援の必要性について自覚できるようにしていく。
------------	--

4)具体的な指導内容の選定

必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 (1)(2)(3)(4)(5)	心理的な安定 (1)(2)(3)	人間関係の形成 (1)(2)(3)(4)	環境の把握 (1)(2)(3)(4)(5)	身体の動き (1)(2)(3)(4)(5)	コミュニケーション (1)(2)(3)(4)(5)
具体的な指導内容(参考④)	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しがもてないことや経験のないことに対する不安が高いため、視覚情報を交えながら事前に説明することで本人の理解や安心につなげる。 ・本人に困り感がないため、支援を受ける必要を感じていない、失敗経験の後の振り返りを通して、人や福祉に頼る必要性を理解できるようにしていく。 ・よい発言や行動をした時には認める、褒めることを大切に、自己肯定感の向上につなげる。 ・本人が不調になった際には、担任や養護教諭に思いを聴いてもらい、言語化を促す。 ・手立てや見本などがなく本人の不安が強まるため、メモや見通しを参考にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導や支援をする際は、フローチャートを提示しながら話を進める。 ・決まりやルールの理解を繰り返し伝え、パターン化して理解できるようにする。 ・学校の規則、予定、活動内容などを学級通信、板書、メモなどで視覚的に提示する。 ・人に不適切な言動をしてしまった時は、その場でアドバイスをし、落ち着いてから理由や気持ちを振り返るようにする。 ・自分勝手な言動をしたときには、落ち着いて話せる環境を作り、事案の振り返りや今後の対処の仕方などを一緒に考える。 ・自分の気持ちや意見を素直に伝えることができずトラブルになることがあるため、周りの人の意見を聴くこと、自分の意見を分かりやすく伝えることを心がけるよう丁寧に指導する。 ・適切な言動が強化できるよう、良い行動が見られた際にはしっかりと褒めることを教員間で意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業や活動を分けて取り組ませ、見通しや流れをもたせる。 ・授業プリントやICT機器を用いながら視覚支援を丁寧に行う。 ・本人の理解度に応じた学習内容を精選する。 			
	【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 A2:感情のコントロール 試行期		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 B2:社会のルール(学校や社会の規則が守れない、自分で変更する) 安定期		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 C2:処理能力 試行期 C6:注意・集中 試行期	

成果と課題(参考⑤、⑥)

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・違う立場からそれぞれの見立てを共有することで、生徒の不適切な言動の意味や必要な支援を考えることができた。 ・生徒指導を含めた現在必要な支援だけでなく、卒業後の生活を見据えた支援の方向性についても話し合うことができた。 ・集まって話しながら悩みを共有できたことがとてもよかった。次年度もCo-MaMeを続けたいという意見もあった。 ・普段の授業や関わりにおいても、Co-MaMeでの見立てを参考にしながら実践することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な支援や指導実践について、評価や見直しを深めることができたよかったと感じた。 ・アセスメント1回目から2日目まで重点支援項目が変更になった。どういった姿で何をもちえて変わったのか、ありのままの生徒の変容や成長の過程を残しておけばよかった。 ・日々の学校生活における取り組みだけでなく、行事や学園生活など、実践の幅をより広げて課題設定ができるとよかった。

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) アセスメントシート

6つのカテゴリにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、「○」をつけてください。

優先して取り組む教育的ニーズを決め、「◎」をつけてください。

(教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別的教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。)

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

実施日

1回目 令和5年 5月 22日 (月)

2回目 令和6年 1月 22日 (月)

小	中	高	1	2	3	4	5	6	障害名 (病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名 (病名))</small>	行為および情緒の混合性障害 <small>・自閉症スペクトラム</small>	
教育課程			準ずる教育課程						準ずる教育内容 (下学年適用) ・ 知的障がい教育課程 (知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程		

心理	1回目	2回目
A 1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない)		
A 2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)	◎	○
A 3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない)	○	
A 4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない)		
A 5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない)	○	○
A 6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない)		
A 7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)		
A 8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある)		○
A 9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い)		

社会性	1回目	2回目
B 1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)		
B 2 社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する)		
B 3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)		
B 4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる)		
B 5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)	○	○
B 6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル)		
B 7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない)		
B 8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない)		
B 9 他者への相談 (困った時に相談できない)		
B 10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない)		

学習	1回目	2回目
C 1 学習状況 (勉強の仕方がわからない)		
C 2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)		
C 3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない)		
C 4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない)		
C 5 記憶力 (すぐに忘れてしまう)		
C 6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)	○	○
C 7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない)	○	
C 8 経験 (生活経験が低い)	○	

身体	1回目	2回目
D 1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる)		
D 2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない)		
D 3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない)	○	○
D 4 多動性 (じっとしてられない、待てない)		
D 5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌)		

学校生活	1回目	2回目
E 1 見通し (予定の変更が受け入れられない)		
E 2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう)		
E 3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室には入れない)		

自己管理	1回目	2回目
F 1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い)		
F 2 食事 (給食が食べられない、外食ができない)		
F 3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒)		
F 4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない)		
F 5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	◎	◎

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮 (Co-MaMe) 整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目(◎)を記入してください。
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、支援や配慮を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を「支援・配慮のイメージ図」を参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 指導が進んだ段階で2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入してください。
- ⑥ その時点での教育的支援・配慮による指導効果(児童生徒の変容)を項目別に記載してください。

小・中・ 高	1・2・ 3 ・4・5・6年	障害名(病名) <small>(精神疾患・心身症等の障害名(病名))</small>	・行為および情緒の混合性障害 ・自閉症スペクトラム
教育課程	◎ 準ずる教育課程 ・ 準ずる教育内容(下学年適用) ・ 知的障がい教育課程(知的代替) ・ 自立活動を主とする教育課程		

①実態把握 <small>(プルダウンメニューから項目を選択)</small>	A2 感情のコントロール(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	試行期			
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦手意識のある学習活動や、自分に負荷のかかる場面においては、気持ちが不安定になり感情のコントロールが困難になることがある。 ・ 苦手なことから逃れたい気持ちが強く、学習活動が滞る場合がある。 				
③支援・配慮等のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の課題に向き合い、心身の状態を適切に把握し、気持ちの自己調整を図る。 ・ 安定した気持ちで学習活動に向かうために、活動内容や時間配分、分量などを確認し、自分の体調と照らして調整しながら取り組む。 				
④具体的な支援の手立て: ①の項目について「支援・配慮のイメージ図」(受容期・試行期・安定期を含む)を参考に記入					
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が自身の心身の状態を把握し、不適切な行動に出る前に周囲に相談できるような日頃から促しをする。 ・ 事前に生徒が達成可能な目標や活動分量と一緒に確認する。 					<ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな気持ちの切り替え方法やストレス解消方法を提案する。 ・ 不安やストレスについて相談できる環境を整える。 ・ できたこと、やろうとした姿勢を大いに認める。



⑤教育的ニーズの変容 <small>(①～④の支援後に記入)</small>	F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい)	試行期			

⑥具体的な支援の効果(⑤の項目を中心に「支援・配慮のイメージ図」を参考に記入)					
A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理
					<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師との相談をとおして不安やストレスを文字化することで、自分の気持ちと状況を少しずつ客観的に捉えることができてきている。 ・ 自分なりに休息を取り入れながら、少しでも苦手な活動に挑戦しようとする様子が見られている。

自立活動 事例シート

小・中・ 高	1・2・ 3 ・4・5・6年	障害名(病名) (精神疾患・心身症等の障害名(病名))	行為および情緒の混合性障害 ・自閉症スペクトラム
教育課程	① ③ の教育課程、準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がい教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程		

*①～⑥はシート「2整理・変更シート」の項目

1)実態把握																	
収集した情報	<収集した情報>	<ul style="list-style-type: none"> ・真面目で思いやりのある性格であり、クラスメイトとの関係は良好で、興味・関心のある学習活動には真摯な態度で丁寧に取り組むことができる。 ・気分が落ち込んだり、情緒不安定な状態になると、学習活動を中断して退出することがある。 ・気持ちの調整に課題があり、生徒も自覚している。負荷のかかる場面では気持ちの折り合いがつかず、保健室を利用したり、自分で対処が難しくなり行動が滞ったりすることがある。 															
	Co-MaMeの情報(参考①)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">A2 感情のコントロール (気持ちを控えられない、すぐに怒ってしまう)</td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> <tr> <td>F5 ストレスへの対応 (ストレスへの対応、苦手なことから逃れたい)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					A2 感情のコントロール (気持ちを控えられない、すぐに怒ってしまう)						F5 ストレスへの対応 (ストレスへの対応、苦手なことから逃れたい)				
A2 感情のコントロール (気持ちを控えられない、すぐに怒ってしまう)																	
F5 ストレスへの対応 (ストレスへの対応、苦手なことから逃れたい)																	
収集した情報の整理	自立活動の区分に即して整理	A 心理	B 社会性	C 学習	D 身体	E 学校生活	F 自己管理										
	自立活動の領域・項目	健康の保持 (1) (2) (3) (4) (5)	心理的な安定 ① ② (3)	人間関係の形成 (1) (2) ③ (4)	環境の把握 (1) (2) (3) (4) (5)	身体の動き (1) (2) (3) (4) (5)	コミュニケーション (1) (2) (3) (4) ⑤										
	<収集した情報の整理>	<ul style="list-style-type: none"> ・緊張や不安によって気分が波が見られ、情緒の不安定さが見られる。 ・身の周りの状況を自分で確認できるが、自分の行動を調整することが難しい場合がある。 ・気分の落ち込みや不調、困り事があったりしたとき、具体的な内容で周囲に相談することが難しく、行動が滞る場合がある。 															
2)課題(参考②)	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識のある学習活動や、自分に負荷のかかる場面においては、気持ちが不安定になり感情のコントロールが困難になることがある。 ・苦手なことから逃れたい気持ちが強く、学習活動が滞る場合がある。 																
3)ねらい(参考③)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題に向き合い、心身の状態を適切に把握し、気持ちの自己調整を図る。 ・安定した気持ちで学習活動に向かうために、活動内容や時間配分、分量などを相談・確認し、自分の体調と照らして調整しながら取り組む。 																

4)具体的な指導内容の選定						
必要な自立活動の項目の選定	健康の保持 (1) (2) (3) (4) (5)	心理的な安定 ① ② (3)	人間関係の形成 (1) (2) ③ (4)	環境の把握 (1) (2) (3) (4) (5)	身体の動き (1) (2) (3) (4) (5)	コミュニケーション (1) (2) (3) (4) ⑤
具体的な指導内容(参考④)	<ul style="list-style-type: none"> ○不安やストレスなど、生徒が自身の状態を把握し、不適切な行動に出る前に周囲に相談できるような環境を用意する。 ・相談シート(自分の気持ちや状況を書き込めるシート)を生徒自身でいつでも使えるように常備しておく。自分から書くことが難しい場合は、教師から書くことを提案し、生徒へ聞き取りをしながら教師が書いて様子を確認する。 ・生徒が相談できたことを大いに認め、できる範囲で活動に参加できる方法を生徒と一緒に考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな気持ちの切り替え方法やストレス解消方法を体験する。 ・活動中の休息の取り方や、体の負担を軽減するリラクセス方法などを提案し、生徒が自分に合った方法を獲得できるようにする。 ・気持ちの落ち込みや体の不調を自分で感じた場合は、保健室や別室でクールダウンをすることや、状況に応じて頓服の服用を促すこともある。生徒自身の申し出で服用することもある。 		<ul style="list-style-type: none"> ○事前に生徒が達成可能な目標や活動分量を一緒に確認する。 ・体力を使う作業学習や体育などといった学習活動では、無理をしすぎて体力を消耗し、次の学習活動へ向かう意欲が低下してしまうことがある。事前に無理をしすぎないことや、休憩時間の確保、適切な体温温存の具合などを教師と確認できるようにする。 ・生徒が達成可能な目標を立てて実行できた場合は、具体的な言葉で賞賛し、次のステップへつながる意欲を保持できるようにする。 ・授業のはじめに、具体的に本時の流れを提示し、生徒が学習活動に見通しがもて、気持ちの安定を図って取り組むことができるようにする。 	
		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 試行期		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 試行期		【Co-MaMeの教育的ニーズの項目、支援の時期】 試行期

成果と課題(参考⑤、⑥)	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちと状況を少しずつ客観的に捉え、行動へ移すことができている。 ・自分なりに息抜きをしながら少しでも苦手の活動に挑戦しようとする様子が見られてきている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と進路先との過ごし方の違いや、目上の人との関わり方など、卒業後を見据えた学習活動の工夫や精選が必要である。 ・学習環境の工夫や情緒不安定時の対応、服薬調整に係る配慮等について、引き続き医療との連携が必要である。

令和4・5年度 全国病弱虚弱教育研究連盟心身症等研究委員会 研究校一覧

アドバイザー 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 土屋忠之

No	地区	学校名
	会長校	静岡県立天竜特別支援学校
	副会長校	山梨県立富士見支援学校
1	北海道・東北	青森県立浪岡養護学校
2	北海道・東北	青森県立青森若葉養護学校
3	北海道・東北	岩手県立盛岡青松支援学校
4	北海道・東北	山形県立山形養護学校
5	北海道・東北	福島県立須賀川支援学校
6	関東甲信越	山梨県立特別支援学校うぐいすの杜学園
7	関東甲信越	山梨県立富士見支援学校・旭分校
8	関東甲信越	長野県寿台養護学校
9	近畿東海北陸	大阪府立刀根山支援学校
10	近畿東海北陸	大阪府立羽曳野支援学校
11	近畿東海北陸	兵庫県立上野ヶ原特別支援学校
12	近畿東海北陸	京都府立城陽支援学校
13	近畿東海北陸	滋賀県立鳥居本養護学校
14	近畿東海北陸	奈良県立明日香養護学校
15	近畿東海北陸	和歌山県立みはま支援学校
16	近畿東海北陸	三重県立かがやき特別支援学校
17	近畿東海北陸	静岡県立天竜特別支援学校
18	近畿東海北陸	福井県立福井東特別支援学校
19	中国四国	香川県立善通寺支援学校
20	中国四国	高知県立高知江の口特別支援学校
21	中国四国	山口県立豊浦総合支援学校
22	九州	宮崎県立赤江まつばら支援学校
23	九州	大分県立別府支援学校
24	九州	北九州市立門司総合特別支援学校
25	九州	長崎県立桜が丘特別支援学校
26	九州	佐賀県立中原特別支援学校
27	九州	熊本県立黒石原支援学校
28	九州	長崎県立大村特別支援学校
29	九州	福岡県立古賀特別支援学校

